梅沢人間力アカデミー
2017年度夏合宿感想文集

目次：

（１班）	ＰＰ．　１ ～　９
（２班）	ＰＰ．　９ ～　１５
（３班）	ＰＰ．１５ ～　２３
（４班）	ＰＰ．２３ ～　３１
（５班）	ＰＰ．３１ ～　４２
（６班）	ＰＰ．４２ ～　４９
（７班）	ＰＰ．４９ ～　５８
（８班）	ＰＰ．５８ ～　６３
（９班）	ＰＰ．６３ ～　６６
（１０班）	ＰＰ．６６ ～　７１
（１１班）	ＰＰ．７１ ～　７６
（１３班）	ＰＰ．７６ ～　７８
（１４班）	ＰＰ．７８ ～　８４
（１５班）	ＰＰ．８４ ～　８８
（１６班）	ＰＰ．８８ ～　９３
（１７班）	ＰＰ．９３ ～１００
（１８班）	ＰＰ．１００ ～１０９
（１９班）	ＰＰ．１０９ ～１１５

各班内の優先順位　　第一順位：学年、第二順位：名前の五十音

（１班）

大東文化大学　経営学部　経営学科　３年　矢澤和希
今年で 3 回目の夏合宿となりました。1 年生の時に初めて参加した 2 年前と比べ、大分見えるものも、感じるものも変わってきたと思いました。私は移動班と勧誘班の仕事を頂き、微力ながら夏合宿を運営する側に携わらせて頂きました。しっかり連携をとって企画し、運営する 4 年生の姿を見て本当に素晴らしいなと思いましたし、学びにもなりました。４年生が素早く的確な指示を出して下さったことで、後輩の私達や２年生や１年生はスムーズに動くことが出来ました。

来年は私達 3 年生が 4 年生を受け継いで夏合宿をより良いものにしていかなければならないと強く感じました。3 日目に行われた同期会では、3 年目となると、いつもの顔ぶれが揃っていて、安心感のようなものを感じました。そこでは１人ひとりが自分の持っている思いを語り、同期のみんなと笑いあいながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。この同期会でさらに同期の絆が深まったのではないかと感じています。この仲間達とこれからも一緒に頑張っていきたいと改めて思えた時間でもありました。お互いに本音で語り、笑い合って仲間意識が大きくなってそれがモチベーションに繋がっていく。そういった意味で同期会は夏合宿の中で一番の醍醐味なのではないかと私は感じました。
また、移動班、宿舎、ディスカッション班を通して大東、日大関係なくたくさんの後輩と親睦を深めることも出来ました。自分の WS 班の 1 年生のほとんどが夏合宿のそれぞれ配属されたディスカッション班で自ら前に立って発表している姿を見て本当に嬉しかったし、積極性という面で大きな成長を感じました。
今回の夏合宿は全体を通して、とても充実していて有意義なものでした。移動班という役割を頂いて大変なこともありましたが、それすらも楽しくやり通すことができたと思います。また、4 年生の先輩１人ひとりが協力し合い夏合宿を作りあげていく姿そのものが自分にとって大きな学びとなりました。来年も頑張りたいです。最後にこのような機会を与えてくださった梅沢先生、4 年生の皆さん本当にありがとうございました。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　２年　鎌田誠
今回の夏合宿を通して私は少しだと思いますが自分自身成長したと感じました。最初はワクワクしていましたが、私が泊まった宿舎は大東生よりも日大生が多く、バスから降りた時仲良くなれるか不安になりました。しかし、梅沢先生がおっしゃった話の中に「今の世の中、いじめや疎遠な人間関係が多いがこの合宿に来ている人はそんな人はいない」と聞いた時もっと素直になり積極性を持とうと思い、今まであまり話したことがなかった大東生や合宿で会った日大生に積極的に話しかけるよう心がけ、 以前より仲が深まって良かったと思います。また、反省点としては私は係活動に参加していないなか、先輩方や同じ二年生が懸命に係の活動を行なっていたのでもっと自分にも思いやりのあるサポートができたのではないのかと思いました。今後の活動も人として成長するために頑張っていきたいです。

大東文化大学　経営学部　経営学科　２年　木内誠也

今回の夏合宿 4 日間とても有意義な時間を過ごせました。私は、今回のゼミ合宿に参加させていただいて、今までお話をしたことのなかった日大の先輩や同期とお話することができ、一言で言えば本当に楽しい合宿でした。イベントの中でも特にディスカッションはとても印象的でした。普段なかなかお話を聞く機会のない先輩や同期の気持ちや考えを聞くことができ、新しい考え方や見方に気付きました。また、同期会などで本音を話し合い、より一層同期との仲の深まりを感じました。今回の夏合宿では、私はいろんな人との会話やイベントを通じて、ゼミに対して初心を取り戻すことが出来、向上心を持つことが出来ました。もちろん夏合宿は思い切り楽しむ場でもあったのですが、私には大きな学びの場であったと思っています。このような素晴らしい機会を作ってくださったことに対して、改めて梅沢先生や４年生を中心とした幹事皆様に感謝を申し上げたいと思います。本当に有難う御座いました。

大東文化大学　法学部　政治学科　２年　中田崚介

私は、今回 2 回目の夏合宿だったのですが、昨年とは違った、充実感を味わうことが出来ました。その中で、良かったと思う点が 2 つあります。1 つ目は、より近くで先輩方の動きを見ることが出来たという点です。昨年はとにかく楽しむといったことだったのですが、今年私は、撮影班の役職を与えて頂きました。漠然と先輩方の姿を見ていた昨年とは違い、今年はより間近で、準備期間から先輩方の動きを見ることが出来ました。特に、集合写真の撮影や山頂での撮影のとき、素早く準備をし、的確な指示を出し引っ張っていく姿をみて先輩方の偉大さを改めて感じると同時に来年以降自分たちがそのような先輩方のようにならないといけないなと感じました。２つ目は、昨年以上に縦と横のつながりを強めることが出来たという点です。同じ部屋の人とはもちろんのこと、カメラを持っていたこともあり多くの人が興味をもってくれ様々な先輩、後輩と話をし、打ち解けることが出来ました。また、同じ宿舎の１年生と話す中で、来年自分のような撮影班をやってみたいといわれ、まだまだ未熟ではあるのですが一生懸命頑張って良かったと思えた瞬間でもありました。そして、同期会では、今までで１番大東生と日大生の距離が縮まったのではないかと感じ、とても有意義な時間になりました。この夏合宿で出来たつながりを大切にし、今後の活動も頑張っていきたいと思います。

大東文化大学　経営学部　経営学科　２年　野辺将太

今年の夏合宿私は今年、撮影班と部屋長という立場でアカデミーの夏合宿に参

加させていただきました。昨年と違い、既存生として参加した今年はただ先輩の指示を聞いているだけではなく、自分で考えて行動しなければならない場面が多く、非常に多くのことを学ぶことが出来たと思います。部屋の中でも、去年は先輩と同期だけだった中に今年は年下がいる状況で、さらに私の場合は同じ部屋の 3 年生の仕事が忙しく、あまり部屋にいることが出来なかったために先輩に頼ることなく、後輩 4 人を 1 人でまとめる必要がありました。とても大変な経験でしたが、後輩とも仲良くなることが出来、非常に充実した合宿になったと感じています。また、撮影班として活動したことで、先輩たちとコミュニケ―ションをとることが出来、たくさんの写真を撮ることで、みんなの思い出を形として残し、アカデミーに貢献することが出来たのではないかと思います。これらの経験から私は、「人間関係、人脈の重要さ」を身をもって学ぶことが出来ました。今まで私は、人脈は大切だと頭では理解していましたが、なかなか実感する機会がありませんでした。部屋の中で後輩たちと接するときなどにそれぞれの趣味や、何に興味を持っているのか、などのことを常に考えながら話すことは非常に大変でした。しかし、そのおかげか、同じ部屋で早退した 1 年の田中は、帰る際に「ありがとう」と言ってくれました。このことから、常に相手のことを考えて、人間関係を大事にすれば、良い結果がもたらされるのではないかと思ったので、これからの参考にしていきます。今年は非常に自分にとって得るものの多い有意義な合宿になりました。夏合宿を企画、運営してくれた先輩、同期の方々、本当にありがとうございました。

大東文化大学　文学部　日本文学科　２年　平野みずき

今年の夏合宿は去年より一段と充実した合宿になりました。去年は初めての参加で日大生はもちろん大東生も知らない人ばかりで、消極的になってしまいあまり多くの人に声をかけられませんでした。そこで今年は同期や先輩はもちろん、特に一年生と接して多くの人と交流することを目標にして参加しました。その中でも特に多く関わったのは同じ宿舎の一年生です。朝昼の食事の時間では毎回話したことのない子の近くに座って積極的に話しかけたり、宿舎の打ち上げでお酒を飲みながら楽しく話し、仲を深められてとても良かったです。同期とは日大の二年生全員とあまり関わる機会がなかったのですが、同期会を通して大東生と日大生の結束力が高まったのではないかと思います。そして私は移動班の一員として、全体で行動する際は声を出して動きやすいように指示をしたりなど責任を持って四日間過ごしました。また移動班のメンバーとも活動を通して信頼関係がより強くなったと感じました。今年は同期が皆生活班やイベント班などの役職についたことで、それぞれが自分の役職を精一杯頑張っていま

した。その姿を見て自分ももっと頑張らねばと感じたので、来年はその思いを生かして、より達成感のあるものにしたいです。最後に、夏合宿で気軽に声をかけられる人も増え、たくさんの人と仲を深められることができ、本当に参加して良かったと思いました。このような機会を与えてくださった梅沢先生をはじめ、この夏合宿全体を動かして頂いた四年生の先輩方に感謝致します。ありがとうございました。

大東文化大学　外国語学部　英語学科　１年　小林ななか
私は、日大も大東も関係なく今まで関わったことのない人たちに積極的に声をかけ人脈を広げるという目標を持って夏合宿に参加しました。自ら設定した目標通り、先輩も同期もたくさんの人に声をかけることができ縦と横の繋がりを広げることができました。特に私が人脈を広げることができたと感じたのはディスカッション班で普段のWS班とは異なるメンバーでディスカッションを行なったことです。全く話したことのない日大生や今まであまり深く関わったことのなかった大東生の人とも積極的に意見を交わし合い長い時間を共有したことで、仲が深まり今後のアカデミーにおいてどのような意識を持って活動に臨むべきかも考えることができました。また、総括の際には先輩方がどのような目標を持って夏合宿の準備をし運営にあたったのかを知ることができ、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。来年自分たちが夏合宿の運営に関わる際には総括で聞いた先輩たちの思いを思い出しながら運営に携わりたいと思います。最後に長野県戸隠のような素晴らしい自然環境の中で多くのアカデミー生と過ごした時間は決して当たり前ではなくとても特別な時間であり、それはたくさんの人の協力によって作られたものであることを忘れず今後のアカデミーの活動に参加していきたいと思います。梅沢先生をはじめ、先輩方にはとても感謝しています。ありがとうございました。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　１年　佐々木梨花
今回夏合宿に参加させていただいて、このサークルに入って良かったと、より一層強く感じました。バスや宿舎で話したことがなかった大東の人や日大の人と仲良くなれたり、山登りでは班の人に会って安心したり、ディスカッションでは先輩のいつもと違う真面目な姿を見られたり、4日間を大勢の人と関わりながら過ごすことで良い刺激をたくさん受けることができました。今年はとにかく楽しめれば良いと思いながら参加しましたが、楽しさだけでなく今後のアカデミー活動に対する気持ちが変わるような経験ができたと思います。また、総括のと

きに先輩方が泣きながら話をされていたことがとても印象に残りました。今年はあの場に立って話す機会がありませんでしたが、来年や再来年、四年生として最後にあの場に立ったときに、自分もあんな風に社会人交流会やそこで出会った人のことを話せるように、これからも頑張っていきたいです。

大東文化大学　国際関係学部　国際文化学科　1 年　佐藤萌夏
今回新規生として初めて夏合宿に参加し色々なことを感じました。まず、このような大きなイベントを成功させることはとても大変なことだと知りました。幹事の先輩方は夏合宿までに何度も集まり、合宿中は休む暇がないぐらい仕事をしていてとても驚きました。夏合宿を成功させるという目標ために、一人一人が自分の仕事をすることによって自分の成長にも繋がるのではないかなと思いました。なので、来年の夏合宿では役職に就いて頑張りたいと思いました。また、合宿では初対面の人たちと関わることが多く、いつものアカデミー活動とは全く違う環境に置かれ、今まで気づかなかった反省点にもたくさん気づけたので、これから良い方向に向かって頑張っていきたいです。

大東文化大学　経営学部　経営学科　1 年　柴田友貴
私は今回の夏合宿で成長できた事が 2 つあります。1 つ目は、コミュニケーション能力です。夏合宿が始まる前、先輩方から合宿の説明を聞いた時、行きのバスから初対面の方と隣になると知りとても不安でした。その不安は的中してしまいました、行きのバスでは隣の人と積極的に話すことができずに終わってしまいました。しかし、このままではよくないと思い、宿舎に到着してから先輩同期関係なく積極的に話しかけるように心がけました。自分から話しに行くことで、同じ宿舎の人ほとんどの人とコミュニケーションをとることができるようになり、成長したことを実感できました。
2 つ目は、自分から前に出て発表に行くようになりました。今までは、緊張するからなるべく前に出たくないと思っていましたが。それでは、いつまでも成長しないと思い、夏合宿では積極的に発表しに行くことができました。来年からは役職を与えていただけるかもしれないので、今年以上に頑張り成長したいです。

大東文化大学　経営学部　経営学科　1 年　島田拓真
3 泊 4 日の長野での合宿を通じ、沢山の人達と交流でき、とても有意義な時間を送ることができました。しかし、行く前は合宿に参加するかどうかとても迷って

いました。合宿に参加する前は同じ班の人としか話すことが出来ず、他班との交流が全くと言っていいほどなかったので、合宿で見知らぬ人と仲良く出来て、楽しめるかどうか不安だったからです。ですが先輩達から絶対行った方がいいよ！と言われ、今回参加させていただきました。実際に合宿に参加してみて、バスの座席や部屋割り、キャンプファイヤー、グループディスカッション、打ち上げなど、様々な場面で話した事がない人と新たに交流できる機会があったので、沢山の人達と交流を深めることができました。本当に行ってよかったと感じました。この合宿での出会いを大切にして、これからは班関係なく仲良くしつつ、互いに切磋琢磨していきたいと思いました。今後のアカデミー活動も自分にとっていい経験になることがたくさんあると思うので、しっかり目的意識を持って取り組んでいきたいと思います。

大東文化大学　外国語学部　英語学科　1 年　田中伶実
私は今回の夏合宿を通して縦と横の繋がりが想像以上に広げられたと感じました。お話してみたかった先輩方や顔見知り程度だった同期、全く関わりのなかった日大生など多くの方々との交流が深められました。特に大東、日大の合同ディスカッションではあまり聞くことができない自分の班以外での意見や考えを聞けたりアドバイスをいただいたりと貴重な体験ができました。1 日限りのディスカッション班でしたがそこでもまた輪が広がり、食事会の予定を企画しとても楽しみなものとなりました。また、総括では梅沢先生や先輩方の夏合宿に対する想いが強く伝わってきて来年は自分もこの想いを継いで後輩達に伝えていきたいと思いました。この素晴らしい夏合宿を作り上げてくださった梅沢先生をはじめ、幹事の皆様、先輩方、宿舎関係者の方々には感謝でいっぱいです。お疲れ様でした。本当にありがとうございました。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　1 年　内藤恵介
今回、初めて夏合宿に参加させてもらい、企画や運営には全く携わることはありませんでしたが、先輩のお言葉や先輩の姿を見ていると企画や運営をすることの大変さ、難しさを少なからず知ることができました。残念ながら、企画をしている先輩方の姿を直接見ることはできませんでしたが、運営をしている先輩方の姿は見ることができ、やはり頑張っている人の姿というのは本当に格好いいと思いました。来年はその先輩方を超えられるようこの 1 年間で力をつけていきたいとおもっています。また、少しでも多く自分から先輩、同期との話すという目標を達成することができました。今回の合宿では指示を受け、ただただ先輩

方についていくだけの合宿でした。何の運営もしていないからこそ、見えるものもあったと思います。今後はこの合宿での経験を次回の合宿にだけでなく、今後の色々な活動に活かしていくことで、今回の合宿がさらに意味のあるものにしていきたいと思います。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　１年　早川郁也
私が夏合宿を終えて感じた事は、いろんな人との関わりの大切さです。それは、先輩後輩関係なく様々な人と話せるような素晴らしい環境があるからだと思います。私は、初対面の人と話すのがとても苦手でしたが、優しい先輩方が話しかけてくれて嬉しかったと共に、コミュニケーション力の高さを実感しました。また、先輩方は夜遅くまで話し合いを行っていたり、生活班や移動班などにわかれて運営を全てやってくださいました。先輩方がいなかったらこの夏合宿は成り立っていないと思うので、感謝しています。そんな先輩方になれるように、これから成長していきたいです。

大東文化大学　法学部　政治学科　１年　原田和弥
正直、私はこの夏合宿が始まる前とても不安でした。宿舎もディスカッション班にも仲の良い友人がいるとは限らないということが１番の要因でした。案の定、宿舎に親しい友人も先輩もいませんでした。しかし、合宿前のオリエンテーションでの先輩方の話や春季 WS などで、積極的に人に話しかけ自ら人脈を広げることの大切さを感じたので、初日から自ら話しかけることを意識して過ごしました。その結果、気の合う新たな友人を大東・日大問わず何人も作ることができました。ここで驚いたことは、友人つながりで新たな友人がどんどん出来るということです。これがまさに人脈を広げるということなんだと 4 日間の中で身にしみて感じました。また、話は変わりますが、学年会・登山などを通じて WS 班内の同期とも普段ではあまり話さないような深い話が出来たのも良い思い出となりました。この経験は秋季 WS をはじめ、これからの活動に活かしていきたいと思います。最後に、梅沢先生・幹事の方々をはじめとした諸先輩方。素晴らしい夏合宿をありがとうございました。来年は自分もその一員となり頑張りたいと思います。

大東文化大学　外国語学部　英語学科　１年　山浦美月
社会人交流会に入って初めての夏合宿を終え、私が一番に感じたのは仲間の存

在の大きさです。２日目の登山でつらい時も班のみんなのおかげでなんとか登りきることができました。宿舎では同じ班の女子がいなくてとても不安でしたが、大東の生徒だけでなく日大の生徒とも交流ができました。私は違う班の生徒とあまり交流がなかったので、宿舎やディスカッション班をきっかけにたくさんのアカデミー生と交流ができてとてもいい経験になりました。また先輩方が班の仕事をこなしているのを見て、来年の夏合宿では自分も先輩方のようになりたいと思いました。初めての合宿で不安も大きかったけれど夏合宿を通してたくさんのことを得ることができ、参加してよかったと心から思いました。来年もまた参加したいです。

大東文化大学　外国語学部　英語学科　１年　山本萌加
私が夏合宿に参加して感じたことは、この合宿に参加したことによって参加する前よりも確実に人脈を広げることが出来たということです。私は合宿に参加する前までは、一班の同期くらいしか知り合いがいませんでした。なので合宿ではほとんど一班の子たちともバラバラだったので最初は不安しかありませんでした。しかし行きのバスからあまり喋ったことのない先輩や同期と喋ることが出来たため当初の不安もだんだんなくなっていきました。宿舎ではより一層人脈を広げることが出来ました。知らない人と生活をするということは普段の生活では体験できないので、とても貴重な体験ができたと思っています。日大、大東関係なく仲良くなれるきっかけを与えてくれたこの合宿に参加して本当に良かったです。来年も参加して更に人脈を広げられるようにしたいです。

（２班）

大東文化大学　経営学部　企業システム学科　４年　北村健人
私は４年という最高学年として夏合宿に臨みました。夏合宿も４年目ということでいろいろと思うことが沢山ありました。１つ目は同期の素晴らしい姿と団結力を見ることができたことです。まず夏合宿が始まるまでの準備期間過去最高ではないかというくらい短く、その中で同期が、一生懸命後輩が安全に楽しめるように各班で動き連携し夏合宿を作り上げようという姿を見ることができました。また当日は幹事長をはじめ多くの同期が様々な変更や問題が出る中何とかしようという姿、またつらくてもその先の達成感を信じ頑張っている姿を見ることが出来ました。私はそんな同期の姿を見てこのメンバーでいやこのメン

バーだったからこそこの素晴らしい夏合宿ができたのではないかと思います。毎年４年生にもカラーがあります。盛り上がり上手な年、女性陣が目立っている年などいろいろあります。その中で私たちの代はとても物静かなメンバーが多くいます。いたって目立つような人は多くありません。しかし今回の夏合宿で多くの同期が声を張りみんなの前に立つ姿を見て人は状況で変わることが出来ることを改めて知ることが出来ました。２つ目は後輩の姿です。後輩の中には自分が２年生の時から仲のいいメンバーもいます。その後輩がそれぞれ自分の役職の中で先輩を助け、後輩の面倒を見ている姿を見て私は感動しました。それと同時にこのサークルは本当に人を成長させてくれる場所だなと感じました。また残り少ないアカデミー生活後輩のために一つでも残すことが出来たらいいなと思いました。組織は一人では成り立つことはありません先輩がいて後輩がいてそして先生がいることでなりっています。誰が欠けても成り立ちません。そうしたことを改めて実感し、学びました。今まで４年間夏合宿に参加してきましたがそれぞれが学年ごとに参加への思いまた終わった後の感想は違いますが、４年間を通して言えることは４回とも参加できてよかった、先生ありがとうございましたということです。また各宿舎の方にも感謝したいと思います。そしてあと半年間夏合宿をはじめサークルの素晴らしさを後輩に伝えていくと共に同期とサークル活動を頑張っていきたいと思います。本当にいろんな人に感謝しています。ありがとうございました。

大東文化大学　経営学部　企業システム学科　３年　湯浅充

私は今回の夏合宿で３年生として参加させていただきました。去年は骨折ということで夏合宿に参加できず、とても後悔していたことを今でも覚えています。私はこの３泊４日という短い時間の中で感じたことが沢山ありました。まず一つ目に、準備期間も含めてこれほど時間があっという間に過ぎてしまうものなのかと改めて感じました。４年生から吸収すべきこと、そして自分たちが後輩に伝えなければいけないこと、自分が気づかなければいけないこと、自分にはまだまだ沢山の課題があるのだと感じました。二つ目は多くの価値観が存在する中で同じベクトルを持つことです。最後の夏合宿を全力で成功させたいという４年生、今までお世話になった先輩方を全力で支えようとする３年生、役職に就き重みを感じながら色々なことを学ぼうとする２年生、人脈を広げ友達を増やしたい１年生などこのサークルには自分と違う考え方で夏合宿に参加し、社会人交流会に所属している人が沢山いるのだと感じました。その中でこの夏合宿をより良いものにしたいということを全ての夏合宿に参加した学生が思っているのだと感じました。そのような意識と目標を一人一人が思っていたことによっ

て、このような一生の思い出になるような経験をすることができるのではないかと思いました。この夏合宿を通して、改めて４年生の偉大さとアカデミーの大きさを実感しました。このアカデミーをより盛り上げるとともに、このアカデミーに貢献したいと感じました。最後にこのような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生に心より御礼申し上げます。本当に有難うございました。

大東文化大学　経営学部　企業システム学科　３年　眞田康平
今年の夏合宿は３回目の参加でした。今年はディスカッション班とアゼリア大部屋の部屋長を努めさせていただきました。3 年生になり 1 年生や 2 年生の時の夏合宿とはちがってたくさんの仕事を任される立場になりまとめる立場になったためとても充実した夏合宿になりました。ディスカッション班は５人しかいなかったのですが、2 年生がとても仕事に協力的だったため上級生の私たちも動きやすく助かったと共にすごいなとも思いました。去年の自分はただ参加していただけなのでなにか仕事をするということがなかったからです。また大部屋の部屋長だったため部屋の点呼や報告など大人数をまとめることの大変さも実感しました。今年の夏合宿は 1 年生にすごくたくさん話しかけ寄り添うことを目標にしていました。合宿が終わってから LINE でさなぽん今度飲みに行きましょうとたくさんの 1 年生に言ってもらえて目標が達成できたのではないかと思いました。今年は雨でキャンプファイヤーが中止になってしまったのですが５つの宿舎のオーナーさんのおかげでキャンプファイヤーの続きができて僕たちにここまでしてくださるのは長年夏合宿で信頼を築いてきたからなのかなと感じました。来年で最後の夏合宿になってしまうため来年は悔いを残さない素敵な夏合宿にしたいです。

大東文化大学　法学部　法律学科　２年　内野加菜
今回の夏合宿では、班に配属され去年とは違った立場で参加させて頂きました。間近で夏合宿を成功させようと頑張る先輩方の姿を見ることができました。私も来年、再来年と大きく成長できるようにアカデミー活動や私生活で色々なことにチャレンジして行きたいと思います。また、新規生をはじめ話したことのない方々とディスカッションや宿の食事の際に交流することができました。その中でこのような人もいるのだなと私の知り合いにいないタイプの方とお話しをする機会があり、また別の方とはアカデミーの外で意外な接点があったりなどたくさんの発見がありました。そして、面白い人、優しい人、気の利く人、真面目な人など、様々な人間がいるなと感じ私はどういう人になりたいか考えるこ

とができました。人脈が広がり様々なタイプの方と交流できる夏合宿は自己成長できる最適な場所だと改めて感じました。

大東文化大学　環境創造学部　環境創造学科　２年　佐藤豪磨
今回の夏合宿は学年が１つ上がり２年生という立場での参加となった。私はイベント班に配属され、仕事をもらうことが出来た。役職を持った上での夏合宿への参加は１年生でまだ何もわからないまま参加した時の夏合宿とは深みが違った。１年間過ごしてこのアカデミーへの愛着、慣れというものが産まれたこともあるが、１年生の時より楽しむこともでき、積極的に仕事をすることもできた。反省点はイベント班の役職を貰い気持ちをイベント班に多く向けていたことだ。その気持ちを同じくらいに宿舎や新規生に向けることができればよかったのではないかと感じた。１年生の時には気付くことのできなかった先輩の動きを吸収したことが今回の夏合宿の大きな収穫であり、来年への課題である。３年生に上がる前の残り半月は4年生の先輩の背中を積極的に観ていきたい。

大東文化大学　経営学部　経営学科　２班　當麻雄一朗
今回の夏合宿に2年生として参加させていただきました。1年生にどうやったら楽しんでもらえるか、仲良くなれるか考えながら夏合宿を過ごしていました。私はあまり多くの1年生と話した事が無かったのですが、同じアゼリアの宿舎や、ディスカッション班などの中で多くの1年生と交流を深めることができました。その1年生達が夏合宿後に「来てよかった。」「楽しかった。」などと言ってくれて涙が出るほど嬉しかったです。このような機会を毎年つくってくださる梅沢先生にとても感謝しています。また来年の夏合宿がとても楽しみです。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　有山佑佳
夏合宿を終えて、私はこの夏合宿に参加できて良かったと思います。夏合宿参加する前は、このサークルに入ってまだ3ヶ月で、知り合いも友達も少なかったので、とても不安でした。ですが、この夏合宿に参加したことで、ディスカッション班や宿舎で、今まで話したことのなかった人たちと、知り合うことができて良かったです。この夏合宿を機に仲良くなれた子がたくさんできました。また、今年は新規として参加し、先輩方にたくさんお世話になり、先輩方のおかげで楽しむことができたので、来年は先輩として、来年の新規の１年生を楽しませたいで

す。これからのアカデミー活動で、先輩方の動きを見て、目標の先輩方みたいになれるように頑張りたいと思います。

大東文化大学　法学部　政治学科　１年　岡村翔太
僕の夏合宿の目標は、「友達を増やす」「とにかく楽しむ」の二つでした。まず一つ目の友達を増やすという目標ですが、二日目のキャンプファイヤー、三日目の夜に行われた同期会、そしてディスカッション班など様々な場面で色々な人と仲良くなれました。夏合宿でできた新しい友達とは今後のアカデミーでの活動の中でさらに交流を深めていきたいです。二つ目の「とにかく楽しむ」目標についてですが、これは合宿前の活動の際に既存の先輩たちから言われたことでした。すべてのイベントをとても楽しむことができたので企画してくださった先輩方は本当に魅力的であると感じ、来年、そんな先輩たちについていけるのか少し不安にもなりました。また、今回の夏合宿では普段のアカデミー内でのワークショップ班のみんなとの親交も深めることができました。二日目の登山はとてもつらかったけれど、班のみんなと話したり写真を撮ったりしながら登ったのでとても楽しかったです。山の頂上にて WS２班で集合写真を撮った時の達成感は忘れられません。楽しいことも大変なことも沢山ありましたがとても思い出に残る夏合宿でした。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　１年　金坂興毅
かなり大きな規模のイベントで不安もあり、知り合いもほとんどいない状況でしたが、合宿前に先輩たちの体験談を聞き、アドバイスを受けて臨んだので、自分自身とても充実した合宿にすることができました。一年生で役職もなかったので、とにかく楽しむことに重点を置いていました。山登り、キャンプファイアー、学年別の飲み、ディスカッションと毎回違った人との交流の場があって、大東・日大、同期・先輩を問わずたくさんの人と話す場があったことがとてもおおきかったです。とくにいろいろな先輩からこれからの大学生活や社会人交流会での活動をどうすれば良いものにできるかの貴重なお話も聞けたことがよかったと思います。この夏合宿が楽しめたのも２・３・４年生の努力があってこそのものだと感じています。合宿中も深夜まで話し合い、緊急事態にもちゃんと対処している姿を見て一年生全体としても良い刺激を受けました。それを今後の活動にいかせていけたらと思います。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　酒井志織
夏合宿に参加するまでは不安ばかりでしたが、参加してほんとに良かったと思っています。今まで班の中や、一部の知り合いとしか関わりがなかった為、ディスカッション班やバスの中、宿舎などで日大生や、他班の人たちとも関わりを持つことができ、人脈を広めることが出来ました。また、ディスカッション時に同じ班になった新規生との、文章能力や積極性、コミュニケーション力などの差を痛感し、課題を見つけることができました。今後は積極的に行動していき、差を縮めたいと考えています。２日目の山登りで、体調が万全な状態で参加できなかったことも課題の１つです。周りの人に迷惑や負担をかけてしまいましたが登頂することができ、励まし支えてくださった多くの人に感謝しています。次回参加するときには、サポートする側に立ちたいです。
今回の合宿で、改めて先輩方の偉大さを実感しました。何日も前から夜遅くまで、会議などをして合宿を成功させるために、行動している姿がとても恰好良く見えました。社会人交流会ならではの貴重な体験をすることができ、自分の課題を見つけ成長に繋がる合宿となりました。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　１年　佐藤嘉紀
今回の夏合宿で私は多くの事を学んだと思いました。それは、縦と横のつながりや、みんなで何かをする事で得られる達成感、先輩の凄さだと思います。私は今回初めて夏合宿に参加し、右も左も分からなかったが、しかし、同じ部屋の先輩やディスカッション班の先輩などの多くの先輩に助けていただいて、とても感謝し、カッコいいと思いました。そして、それと同時に来年の自分は後輩に、しっかり、教えてあげられるのか不安になりました。今回目で見た事をしっかり目に焼き付けて、来年に活かしたいと思いました。また、今回の夏合宿では、山登りに挑戦したが、1 人で登るよりも多くの人と一緒に登る事によって得られた喜び、また、きつく辛い時にみんなで励ましあったりすることで、チームワークが生まれるということがわかりました。チームワークが生まれることで、頼るべき仲間がいることは非常に大きなことだと思いました。
今回の夏合宿で、自分たちが感じた事、役職を持った先輩方が働いている姿など、来年に活かせることが多くあると思うので、来年は役職を持ち、新しく入ってきた後輩に教えられる先輩になりたいと思いました。

大東文化大学　法学部　政治学科　１年　田中雅也

今回この夏合宿を経験して沢山の事を先輩達から学び、日大の1年生や先輩方と仲を深めたり色んな交流をしたりしてとても勉強になったし、いい思い出になりました。何より沢山の友達が出来てよかったです。ディスカッションでは新しく班を作って皆でアクティブラーニングして協力し合ったり、班で仲を深めるなどしていい経験になりました。そして最後先輩達の夏合宿の感想では泣いてしまうぐらい熱くて、感動する話を聞けて良かったです。夏合宿とても楽しかったです。また来年でれたら参加したいと思っています今回このようなイベントを開いてくれた先輩方梅沢先生ありがとうございました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　吉留裕貴
私は今回の梅沢人間アカデミーの夏合宿に参加して沢山の事を体験し、学ぶことができました。その中でも特に2つの事が印象に残りました。１つ目は人との繋がりの大切さです。私は今回大東生、日大生を含めたアカデミー生と３泊４日を過ごすという貴重な機会を与えてもらいました。その中で困った時に様々な人に助けていただきました。これまでのアカデミー活動内で感じた人との繋がりの大切さに改めて気づくことができました。2つ目は先輩方の偉大さです。私は今回の夏合宿が有意義な物になったのは先輩方の努力があったからだと感じました。私も先輩方のようになりたいと思った4日間でした。来年は私も先輩になるので先輩方のようになれるようこれからのアカデミー活動に参加して行きたいと思います。このような機会を与えていただきありがとうございました。

(３班)

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　３年　久保田佳貴
今回で夏合宿に参加するのは 3 回目ということもあり、全体の流れもよく知っていて今まで一番の有意義な夏合宿を過ごすことができました。そのように確信できたのは私にとって大きな二つの出来事があったからです。
一つ目は夏合宿では私は大きいものから小さな沢山の目標を持って参加しましたが 3 回目でも一番大きな目標は沢山の人と交流することでした。この目標はおそらく夏合宿に参加するほとんどの人達が掲げている目標だと思います。私はほとんど人達が掲げているということはそれほど大事なものだと思っていますし、 ただがむしゃらに声を掛けるのではなく、イベントが終わった後に部屋が同じ人達に感想を聞いたり、食事の際には積極的に初めての人達の机に行く

よう心掛けるなど行き当たりばったりではなく計画的に効率良く沢山の人達と交流することで今まで参加した夏合宿より一番交流も出来ましたし、去年一昨年は出来なかったであろう交流の仕方も出来るようになっていて、来年も参加することが出来たら 1 回目から 4 回目を通して何人の人達と交流することが出来たのかと来年の夏合宿も楽しみになってきます。
二つ目は同期会での出来事です。机に沢山のお酒とお菓子を用意し本音が出やすい状況を作って WS での良かったことや反省などを言い合った結果として同期同士のわだかまりや本音が聞くことが出来てこれからの活動のモチベーションになりました。その中でも私のアカデミー対する意識が同期内でも低かったのではないかということを実感できた為この同期会はこれから私がよりアカデミーでの良い行動するために必要なものとなりました。正直こんなに沢山のことが三泊四日で起こったのかと思うと夏合宿は参加しなくてはならない行事ですし、来年にはどんなことが起こるかわからなくて不安とドキドキです。来年には既存生で迎える最後ということもあり今までて一番の夏合宿にするために後期のアカデミー活動では三年生としての自覚と行動で後輩だけでなく同期や先輩方にも久保田ここにありと思ってもらえるように精一杯取り組んでいきたいと思います

大東文化大学　経営学部　企業システム学科　３年　西島秀彰
私は今回の夏合宿で一番強く感じたのは時間は有限であるということです。自分は 3 回目の参加ですが、夏合宿は大きな節目だなと考えています。そして 1 回目、2 回目を思い返して経験量と成長量が比例していないなと気づきました。ただ参加して経験しても成長しようと自分から動かなければいけないと思いました。学生のうちにやれること、学ばなければいけないことは多く、残された時間は多くありません。自分で考えて動くことができれば今まで以上に成長することができると思います。また同期の活躍をみて、もっと頑張らなければいけないなと感じました。周りには尊敬できる人がたくさんいます。学生という立場で自分を磨くという環境でこれほどよいサークルはないと思います。夏合宿で自分も周りもモチベーションが高まったと思います。これからさらに切磋琢磨していきたいなと感じました。

大東文化大学　経済学部　現代経済学部　３年　山田隆誠
今回は 3 回目の夏合宿。昨年は同期が役職をもらっての参加に対して、私は無職での参加で同期との差に悔しく思ってました。今年は、移動班、会計班の役職

を頂いての参加でした。たくさんトラブル等生じたが、班の人と協力して仕事を全う出来たのではないかと思います。今回の夏合宿で 1 番印象的だったのは 3 日目の打ち上げで行われた同期会です。一人一人がアカデミーについての思いを話しました。一人一人の話にみんなが泣くということはなく、終始笑いの絶えない会でした。これが私たちの同期の色なんだなと思いました。改めて卒業までこのメンバーで一緒にいたいと強く思います。他にもたくさん思うことがありますが、今回の夏合宿は今までで本当に 1 番充実した夏合宿になりました。また、自分の WS 班の後輩がいろんな人と交流出来てる姿を見て WS 班長として、とても嬉しく思いました。来年は最後の夏合宿。4 年生として、同期や後輩達と協力して素晴らしい夏合宿を迎えられたらいいなと思っております。最後に梅沢先生をはじめとする幹事の皆様、本当にありがとうございました。

大東文化大学　文学部　英米文学科　２年　北原瑞輝
私は今年の社会人交流会の夏合宿を通して様々な事を学ぶ事が出来ました。今年は 2 年生でしたが、夏合宿に参加するのはこれが初めてでした。1 年生の時は参加出来ず、初めての合宿で 2 年生の先輩として乗り越えて行けるかどうか不安でしたが、同じ大学、他大学の先輩達も合宿の事について丁寧に優しく教えてくれたり、後輩達も良い子ばかりで話しやすくとても楽しかったです。私は自分から人に話に行くという行動がサークルに入る前は全く出来ませんでしたが、サークルに入り、夏合宿に参加してから自分から話かけに行くという行動が出来るようになりました。こういった事が出来たのは、サークルで行った同じ班の人達とのグループディスカッションや、夏合宿での他大学混合のグループディスカッションを行ったおかげだと考えます。この合宿に行けたおかげで話した事無い人や他大学の人とも関わりを持つ事が出来て、話せる人がたくさん増えました。なのでこれからのサークルの活動も頑張って行けると思えました。春季ワークショップが終わり、これから秋季ワークショップがあるので今までより 2 年生で先輩であるという事を理解し、努力していきたいです。

大東文化大学　文学部　日文学科　２年　小池敦大
二度目の夏合宿。同学年の皆が役職に就く中、自分は就きませんでした。右足を直前に怪我し、参加出来るか微妙な状況であったと言い訳をすることは出来るものの、やはり心の中に負い目を感じてしまう結果になってしまったと感じています。反省点として、人間力どうこうという前にやはり身体が資本であると痛感しました。山登りの際も登頂を成し遂げることが出来たことには自身の評価

になりますが、先輩、ましてや後輩にも心配させてしまい、先輩としての役割が何一つ出来なかったように思います。良かった点というのも細部にこそありますが、反省点のが大きく挙げるほどのものではありません。差を埋めるというのは簡単なものではありませんが、この悔しさ、反省を忘れることなく次の成長に繋げられたらなと思います。ありがとうございました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　２年　小菅美咲

二回目となる今回の夏合宿では、先輩方や同期はもちろんですが、後輩と関わることを特に考えていました。幸いにも宿舎に素晴らしい談話室があったのでそこを利用したり、宿舎の部屋長や移動班という役職を頂いておりましたので、その仕事の中で偶然共にした一年生と打ち解けあったりと、移動時のバスや食事に山登り、ディスカッション以外の場面でもかなり積極的に関わることが出来たのではないかと思います。さらに、4 日間生活を共にした同じ部屋の一年生には行事の感想を聞いたり、不安なことはないか気にかけてコミュニケーションをとることで仲良くなり、普段のアカデミーに対する密な相談もしてもらえたことが嬉しく思います。また、新規生たちと話す中で「同じ班の二年生にお世話になっています。」等の、同期である二年生が話題に出ると自分の知らないところでみんな頑張っているのだなと感じると共に、私もそうやって話題に挙げてもらえるような面倒見の良さ・仕事振りを身に着けられればと思いました。昨年とは違い、今年は夏合宿を支える立場になりました。先輩方には到底及びませんが、微力ながらもそのお力になれるよう、「今自分が出来ることは何か、どう動いたらいいか、何を求められているのか」など常に考えながら動くことに努めていました。しかし、不測の事態には圧倒的に同期の方が指示が的確であり、うまく立ち回れず状況に置いていかれる自分が酷く悔しくもありました。現状を素早く理解し、冷静に考え動くことは社会へ出てからも大切なことなので、今後のアカデミー活動を通して成長していきたいです。最後に、夏合宿 3 日目のディスカッションの議題にもあったように「このアカデミーの魅力とは？」をこうして夏合宿を終えた後に振り返りますと、たくさんの方々と知り合い、そうして広がる人脈や、自分を深く見つめ直す機会が出来ることがこのアカデミーの魅力だと思います。このような素晴らしい夏合宿を作り上げてくださった梅沢先生に心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　２年　島嵜健

今回の夏合宿は１度経験していましたが、遅刻者として参加させていただいたので、全日程参加させていただいたのは今回が初めてでした。私はアコールデでの部屋長と移動班という役職をいただきました。昨年とは全く異なった立場におかれた私は、きちんと全うできるか不安でした。ですが、頼れる先輩方のおかげで迷うことなく仕事をやりきれたと感じています。加えて昨年とは大幅に交流できたアカデミー生が増えたと思います。私の部屋は２年生が自分ひとりしかおらず、指示をきちんと伝達できるか不安でしたが、昨年の夏合宿で話したことのあった４年生の佐々木さんがいらっしゃったので、分からないことはとにかくすぐ聞いて早い対応を心がけました。１年生たちも自分の話を聞き漏らさず聞いてくれて、スムーズに話が通りました。また、仲良くなれるかも気がかりでしたが、自分から話を振って話していくと１年生たちから「健さん、健さん」と話しかけてくれたのでそれが何よりも嬉しいことでした。移動班の仕事は基本的に先輩方と協力して動いたり、指示があったのでプレッシャーをそこまで感じずにできたと思っています。ですが、学年会の終了時１年生の宿舎移動の際にごたついてしまいどうしたらいいのかわからないなか遼太郎さんら先輩方の的確な指示のおかげでとてもスムーズに送り返すことができました。先輩方の臨機応変に対応できる頼もしさと同時に自分自身の力不足を痛感いたしました。この密なスケジュールをこなしていく際に移動が必ずつきまとうので時間を短縮する重要さ、また、これだけの人数を１度に１人も漏らさず送り切ることの大変さ、大切さを理解することができました。納得のいく仕事ができたかといえば、自信をもって頷けないですが、自分の力不足を感じることができたので、次の機会ではそういった経験をもらすことなく活かせたら自分の成長につながると感じました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　北方綾音

今回の夏合宿は自分にとってとても刺激的なものでした。初めましての人と一緒の部屋に泊まったり、ディスカッションをしたりと、普通ではなかなか出来ない事を経験させていただきました。その中で自分から積極的に話しかけるようにした結果、たくさんの知り合いができた事はもちろん、自分自身も楽しめた夏合宿になりました。また、班の仕事で全然部屋にいることのない先輩方をみていて来年は私達もこうなるのかと思うと、楽しみでいっぱいになりました。みんなで集まって仕事をしている先輩方は忙しそうでしたが笑顔で溢れていてとても楽しそうでした。来年は自分もその立場になって今年とはまた違った楽しみ方をしたいなと心から思いました。来年は先輩という立場で参加することになるので、今の先輩方のように後輩の鑑となれるよう、自分も楽しみながら仕事をこ

なしていきたいです。

大東文化大学　環境創造学部　環境創造学科　１年　山宮佳央
夏合宿で学んだことはたくさんありますが、特に２つのことを強く感じました。１つ目は仲間とのコミュニケーションの大切さです。宿舎内でのルールや時間の管理など仲間と上手くコミュニケーションを取りスムーズに行動することできました。さらに新しい仲間もでき、人脈を広げることができました。コミュニケーションは人間力向上にとても大切なことだと思います。物事を対処する場でのコミュニケーションや、常日頃からの挨拶もその１つです。これからもっとコミュニケーション能力を養い、就職活動に役立てたいです。２つ目は、１つのことに全力で取り組む先輩達の姿勢を見て学ぶべき部分がたくさん見つかりました。今回の合宿の例ではレク班の先輩が、雨で急遽中止になるというハプニングに対して涙している姿を見て、レクに対して自分では考えることができないくらい、情熱を注いでいたのだなと感じました。１つの事をやりきる力が今後社会に出て大切になるのではないかと感じました。僕も先輩方を見習い、１つの頼まれ事や目標などに対して全力で打ち込み、成功、達成に辿りつければと思います。

大東文化大学　法学部　政治学科　１年　曽根大輔
私は今回、初めて社会人交流会のサークル合宿に参加しましたがとても有意義な時間だったと思ってます。それは目標だった人脈作りが達成できたからです。初日は移動時間が多く最初にバスで隣あった人ぐらいしか話す機会がありませんでしたが宿舎についてからは同じ班の人達が気軽に話しかけてくれたり、皆でゲームをしたり楽しかったです。特に同学年の仲間達や普段親交を深める機会がない日本大学の学生と積極に交流できたのが良かったです。　２日目にあった山登りは本当に大変でしたがそれも仲間との絆を深める良い機会でした。登れば登るほど息が上がり汗を流しながら進む困難な道のりでしたが途中同じ班の先輩方に励ましてもらい、何とか必死になって辿り着い頂上から見た光景は素晴らしいかったです。私は終盤になるともう歩くのすら辛いという有様でしたがこれで班の皆と同じ体験ができたので良かったです。　その後にあったキャンプファイヤーも楽しかったです。実はキャンプファイヤーをやるのは初めてなのですが焚き火があんなにも燃え上がるものだとは思いもよらなかったです。火の粉が天高く舞い上がり幻想的でした。タイミング悪く雨が降って途中で中止になったのが残念ですが皆で一緒に踊って楽しかったです。ただ、心残りだっ

たこともあります。同期会でも積極的に交流し知り合いを増やしたかったのですがお酒を飲み慣れていないこともあって体調を崩してしまいあまり人と関わることができませんでした。 また今回の夏合宿では自分の未熟さと先輩方の優秀さも学ぶことができました。私が今回の夏合宿で得た成果は自分の力だけで成し遂げたのではない、運営の力があってのものです。何かあれば積極的に行動し体調を崩した時には声をかけてくれる、そんな先輩方がいたからこそイベントにただ集中できました。 来年からは後輩達を率いて役職をこなす立場になるので憧れの先輩方に追いつけるよう努力し、今の自分からもっと成長した自分になりたいです。

大東文化大学　外国語学部　英語学科　１年　中村魁
初めての夏合宿でたくさんの経験をすることができました、一番良い体験ができたのは他の大学の学生と仲良くなれた事です、自分は輪の中に自分から入るのが苦手でしたが向こうから受け入れてくれてとても親切でした、日大の人たちと UNO をしたりして友好関係を深めました、しかし自分から積極的に輪に入らなかったことは甘えだと思いました、なので反省点は自分から輪に入ろうとしなかったことです、次回合宿にくるときは積極的に輪に入っていこうと思います。初めての山登りは班の人たちと登れて楽しかったです、全員ではなかったので次回は全員で登りたいと思っています。2 日間しかいませんでしたが自分の繋がりが増えたりして良かったと思います、次回の合宿では自分から積極的に繋がりをも増やしていければと思っています。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　１年　松本真澄
私は、夏合宿参加前の自分、参加中の自分、そして参加後の自分について書きたいと思います。夏合宿参加前の自分としましては火アカで行われた夏合宿のビデオや先輩方のお話などを聞いて貴重なお話が聞けて嬉しかったですが、大東文化大学に入学し、社会人交流会に入って 4 ヶ月しか経ってないという事もあり、正直不安が 9 割くらい占めていました。3 班内では班長をはじめとして既存生の方々が色々なイベントを企画してくださって私もたくさん参加することができ、4 月の頃と比べてとても仲が深まりました。その反面、他の班との交流がほとんどなく、3 班以外では知り合いがほとんどいない状況で夏合宿を迎えようとしていたので他の班の同期や先輩と仲良くなれたり話すことができるのかと本当に不安でいっぱいでした。先輩方には「友達めっちゃできるよ」など言われましたが不安が消えずに同期に相談ばかりしていました。申し込みする前はや

っぱり夏合宿に参加するのはやめようかなと思っていたり、合宿直前になっても行きたくないなと思っていたりしました。参加中はその不安は多少残っていながらも色々な同期や先輩方に声をかけてもらい他の部屋の子達とも仲良くなることができました。山登りでは同じ班の先輩に励ましの声をもらいながら楽しく登ることができ、ディスカッションではそれぞれの考え方の違いに驚いたり、春季ワークショップで真面目にディスカッションをしたのとはまた違って楽しくディスカッションに参加することができました。参加後に思ったことは、夏合宿に参加して本当に良かったということです。たくさんの人と交流ができ、先輩方の凄さを改めて実感しました。また、この夏合宿に参加できたことにとても感謝しています。いい経験をさせてくださりありがとうございました。この夏合宿は先生を始め幹事長やたくさんの先輩方の努力があっての合宿だと思っています。本当にありがとうございました。来年も夏合宿に参加できるように努力し、楽しめる合宿作りに携わりたいです。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　１年　森田あさひ
私は今回の夏合宿は途中参加で、2 日目の夜からの参加でした。行きのバスや登山などに参加していないので、正直皆が既に仲良くなっている中に入るのはとても不安でした。でも今、夏合宿を振り返って思うことは、途中参加からでも行ってよかったという事です。最初は話に入れずうまく笑えてなかったけど、気がついたら馴染んでいました。途中参加の私がうまく場に馴染めたのは、夏合宿を作り上げてくださった梅沢先生と先輩方のお陰だと思っています。キャンプファイヤーやディスカッション、打ち上げなど、普段は話せない仲間とたくさん話すことが出来る素晴らしい環境を作ってくださったお陰で、楽しむことが出来たのだと思います。特に、キャンプファイヤーでイベント班の先輩方が場を盛り上げてくださり、途中参加で少し緊張していた気持ちが緩んで、とても安心できたのを覚えています。本当に先輩方は偉大だなと感じました。最後の総括で先輩方が話しているのを聞いて、どれだけ全力で夏合宿に力を注いでくださったのか分かったし、単純に凄くかっこよかったです。大学も年齢も性別も関係無く、人脈を広げることが出来るこのアカデミーは本当に魅力的だと改めて感じました。この合宿に関わってくれた全ての人に感謝したいです。本当にありがとうございました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　山川彩美
合宿の説明で話したことのない人と様々な場所で一緒になると聞いた時楽しみ

な気持ちもありましたが、不安な気持ちもありました。でも、この合宿を通してたくさんの人と交流できたと思います。４日間を通して色んな人と関われて良かったです。良い思い出になりました。また秋季の活動も頑張っていきたいです。

大東文化大学　法学部　政治学科　１年　山路健仁
私は夏合宿に参加して学んだことが 2 つあります。1 つ目はたくさんの人と関わる楽しさです。夏合宿に参加する前は同期や先輩と仲良くなれるか少し不安がありましたが、自分から積極的に話しかけるとすぐにみんなすぐに仲良くしてくれました。先輩達も私に積極的に話しかけていただき優しい人ばかりでした。たくさんの人と関わることで色々な個性をもった人たちと触れ合えて楽しいんだと学びました。2 つ目は先輩達のめりはりのついた行動です。多くの先輩達は役職を任せられていて、仕事をするときはしっかり自分の役割を果たして楽しむときは楽しむなど、めりはりのついた行動をしていて私の心の中で輝いていました。私も普段からやる時と楽しむ時の区別をして来年の夏合宿で役職を任せられた時はめりはりのついた行動ができるようしようと強く思いました。最後にこの夏合宿で学んだことを今後の火曜アカデミーに生かしたいです。

(４班)

大東文化大学　法学部　法律学部　4 年　森本時央
今年は最後の夏合宿ということもあり、とても楽しませていただきました。移動班では班長を務めさせていただき、とても大変でしたが、無事に戸隠に到着し、1 人もかけることなく帰ってくることが出来たと聞き、ほっとしています。とくに登山では先頭で登らせていただき、道を思い出すのに苦労しました。また、スピードを調整するのも大変でした。山頂に着いたときはとても嬉しかったです。また、1 年生がとても楽しそうに登ってくれていたのも印象に残っています。先頭を歩いてくれたみんなに感謝しています。心残りの 1 つ目は、たくさんの人と話すことが出来なかったことです。早退でみんなより時間がなかったので、もっと余裕を持っていたらよかったなと思っています。2 つ目は総括を聞けなかったことです。私は早退ということもあり、総括を聞くことはできませんでした。しかし、4 年生のみんなはきっと素敵な総括をしてくれたのだと思います。これが来年以降、合宿を運営してくれる後輩たちへ伝わっているといいなと願っています。4 年間たくさんの思い出ができました。本当に感謝しています。ありが

とうございました。

大東文化大学　経営学部　企業システム学科　３年　深野未来
私は今回の夏合宿を通して、先輩方の偉大さ、後輩の頼もしさを強く感じました。去年に引き続き、アゼリアの生活班を務めさせていただきましたが、雨の影響もあり当日の変更点が多い中で先輩方や同期が先生のご指導の下に臨機応変に対応している姿をたくさん目にしました。その中でも幹事長であった小口さんと佐野さんは私たち後輩に対して辛い顔一つ見せずに常に笑顔を絶やさないで接してくださいました。私は先輩方のそのような姿を見て、私が今先輩方と同じような立場になった時に同じように常に笑顔でいることができているのかと考えました。今、梅沢人間力アカデミーの規模がどんどん大きくなっている中で、今後班長などで後輩をまとめていく立場がとても多くなると思います。その時に周りの人に「この人なら信頼出来る。ついていきたい。」と思わせられるような人間になりたいと思うと同時に、笑顔を絶やさないということも重要なポイントの一つなのではないかと感じました。また、キャンプファイヤーやディスカッションの際に私が班長を勤めさせていただいているワークショップ４班の新規生たちが他班の同期や日大の先輩方と楽しそうに話している姿を見ることができました。４班は夏合宿に対して楽しみな気持ちはあるが、友達ができるだろうか、うまく周りと馴染めるだろうかといった不安を持っている班員が多かったため、私はとても嬉しく感じました。この夏合宿で新たに得た人脈をさらに深めて、アカデミーがより楽しく、切磋琢磨できる場になってほしいと感じます。この夏合宿の貴重な体験を今後のアカデミー活動に活かしていきたいです。そして来年は私たち３年生にとって最後の夏合宿となるので、同期とともに悔いの残らない最高の夏合宿にしたいです。

大東文化大学　法学部　法律学科　２年　佐怒賀大知
今回の夏合宿で私は素晴らしい経験をさせていただいたと思っています。今回の夏合宿は既存生として初めての夏合宿でしたが昨年とは違う視点で参加し４日間貴重な経験を得ることができました。昨年の夏合宿は新規生として参加してまだ高校生気分が抜け切れていないこともあり遊び半分で参加しているところもありましたが一年間のアカデミーでの経験をふまえて今回の夏合宿は一つでも何かを学んで帰ろうという意思の元、参加することができました。そして今回の夏合宿では団体行動の難しさを痛感すると同時にアカデミーにいることでいかに成長できるかを実感しました。今回の夏合宿は２００人以上が参加しま

したがそのような大人数を一つに束ねて何かをするには時間と個々の協調性が必要になってくると思います。その中でアカデミー生たちはこれからの予定の把握と時間の余裕をもち冷静に行動していました。自分も何から何まで先輩のお世話になっていた昨年に比べて、今年は協調性をもって自分でその時その時で冷静に行動できたような気がします。これは私が一年間アカデミーで他ではさせていただけないような素晴らしい成果だと思います。しかしまだ自分は同期たちと比べるとまだまだ状況判断能力や行動力が欠如しているように思えるのでこのアカデミーで精進していこうと思います。最後にこのような貴重な経験をさせていただいた梅沢先生に誠に感謝申し上げます。ありがとうございました。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　２年　等田裕緯

私はこの夏合宿を通して感じたことは、去年よりも多くの大東、日大生と交流が増えより楽しい夏合宿になったと思います。私は去年、大学の試験の関係で夏合宿には 2 泊 3 日で途中参加しました。その際、あまり多くの大東、日大生との交流は少なく、そのぶん自分の所属する班員たちとの仲がとても深まりました。特に山登りでは疲れを感じさせることないほど班員のみんなと話し尽くしていました。しかし、そのぶん夏合宿を通しての友人は少なく後悔しました。なので、今年の夏合宿では先輩、後輩、大東、日大を越え多くの友人をつくり交流関係を広めようと思っていました。また、今年の夏合宿では移動班という役職を任されました。正直、私はこの夏合宿で移動班という役職をまっとうできるか不安でした。しかし、周りの同期や先輩のサポートがあり問題なく移動班として活動することができました。また、移動班という役職をいかして宿舎から宿舎への移動の際、早退、遅刻者の付き添いの際には積極的に話しそこでも交流関係を広めることができました。宿舎では一年生たちにも交流を広めて欲しいと思い、宿舎の談話室を利用してみんなで各班の思い出やこの夏合宿で期待していることを話し合ったりしました。また夏合宿後には宿舎で仲良くなった後輩たちと予定を合わせて出かけることも多くありました。同期会では今一度、大東、日大生みんなと顔合わせました。同期会では、これからのアカデミーでどうやっていけば良いか、自分の班ではこういうことが良かったなど様々な意見交換をしました。また私自身、このアカデミーでより活躍していくにはどうすればいいか、他の同期たちと比べて自分はどこまでができていてどこまでができていないかなど個人個人の悩みも話し合いました。夏合宿後には、同じ移動班の同期たちの夏合宿での活躍をみてもっとこうしなければいけない、いまのままではなんも成長できないのではないのかなど反省をしました。後期ではこの反省をいかして活躍に励

みたいと思います。今年の夏合宿は、去年とは違った意気込みで参加しまた違ったものを多く得られたと思っています。

大東文化大学　経営学部　経営学科　２年　目崎壱成
今回昨年に引き続き夏合宿に参加させていただきました。既存生として初めて参加しました。私は役職に就いていなく、昨年とそんなに変わらない合宿でした。しかし、今まで話したことのなかった先輩方や後輩と話すことが出来ました。同期とは宿や同期会でたくさん話すことが出来ました。今回の夏合宿で一番印象に残っているのは同期会です。同期会では今まで話すことのなかった人と仲良くなることが出来たと思います。全体的にも同期の絆が強くなりました。なので、今回の夏合宿に参加してよかったなと思います。しかし、１つ心残りがあります。それは役職に就いていなかったことです。なぜなら、同期達が頑張っている中私はふらふらとしていました。なので、来年の夏合宿では役職に就いて頑張りたいと思います。夏合宿に参加してよかったです。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　１年　大竹玲佳
私は、2017年度梅沢人間力アカデミー夏合宿に二日間参加しました。同期の仲間や先輩方、また他大学の皆さんと寝食を共にするのは初めてのことだったので緊張しましたが、とても楽しむことができました。私の夏合宿を通して印象に残ったことは大きく分けて２つあります。まず初めは、自己紹介の時間で改めて実感した初対面の人の多さです。事前に200人以上の参加人数だと聞いて覚悟していましたが、1人ずつ自己紹介してもらうことで、人間力アカデミーの規模の大きさを感じると共に自分が本当に少数の方としか関わることが出来ていないと知りました。もちろん、友達は量が全てというわけでは決してありませんが、大勢で集まっていて1年生から4年生まで色んな価値観を持った人と関わる機会を大切にしたいと考え積極的に話しかける努力をしました。バスの中や宿舎での配膳のとき、また山登りの道中で、今まで関わる機会のなかった人とお話できたりしてとても嬉しかったです。宿舎では、先輩方が話を振ってくださったりして、全体で仲良くすることができました。２つ目に印象に残ったことは、上級生の先輩方がこの夏合宿を企画・運営を行っているということです。合宿前に直で先輩方からきいたお話などで、うっすらと1年生の私も理解していましたが、いざ夏合宿が始まり先輩方の仕事をされる姿を目の当たりにすると、その大変さをより感じました。私は早退をしたので、遅刻早退者の送り迎えをしてくださった移動班の先輩方のお仕事の様子は特に心に残りました。しかし、私たち1年生が見

えている部分というのは、先輩方の仕事のほんの一部だと思います。上級生になっていくにつれ、知っていき、また、自分も周りを見て今から出来ることを探していけたらと思います。今回の夏合宿を通して、梅沢人間力アカデミーは1人ずつが何かしらの仕事を務めて全体で動いてると知ることができました。誰もこの夏合宿の経験をふまえて、秋季の活動も意欲的に参加していきたいと思います。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　１年　オスンデー平理
私は今年の夏合宿が初めてだったにも関わらず、家庭の都合で最初の1泊2日しか参加できなかったのでとても残念だったし、日大生との交流を深められるチャンスを逃してしまったなと思います。しかしながら、1泊2日という短い期間でもたくさんの人としゃべることができ、友達も増えました。自分から積極的に話しかけ、輪を広げることができたんじゃないかと感じています。行きのバスは池袋発で、日大生がたくさんいる方のバスでした。知り合いが少ない中で、隣の人と話せるかすごく不安でした。ですが、隣の日大生の男の子が気軽に話しかけてくれて、とても嬉しかったし、色んな話ができて楽しかったです。夏合宿の様々なイベントの中で1番楽しかったのは、やはり山登りです。結構な高さの山を登るのは素人にとっては大変なことだと思います。しかし、そのような山をみんなで力を合わせて登る事で、友達の輪を広げ、登りきった時の達成感を深く味わえたのではないかと思いました。山の景色はとても綺麗で、空気もとても美味しかったです。山の頂上は涼しいのではないかと思っていましたが、埼玉と同じぐらい暑くて驚きました。トンボなどの虫が多くて嫌だと感じることもありました。ですが、都会では味わえないので、貴重な体験でした。この夏合宿を通して様々な体験ができてとても良かったです。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　１年　小山一真
今回初めて合宿に参加させて頂き、すごく山奥で普段の生活では体験できない事だらけでした。大変なこともありましたが、それ以上に楽しいこと、具体的に宿舎それ以外で知り合いが増え、みんなで達成出来た登山や全力で楽しむことができたキャンプファイヤーなど色々とても楽しかったです。合宿前はこのアカデミーに知り合いが少なく、色々不安があったのですが、みんな気さくですぐ仲良くなれる人達が多くてほんとにこの夏合宿に参加して良かったと思います。また自分はアゼリアだったのですが、生活班や移動班、イベ班、撮影班の先輩方を見て、生活班は毎日夜遅くまで話し合っていたり、指示を出してくれていたり

ととても大変そうでしたが、見ていてすごくかっこいいと思いました。移動班やイベ班、撮影班もバスレクだったり、キャンプファイヤーの演出だったり、山登りでみんなの事を撮ってくれたりととても感謝しています。来年もし自分が役職をいただけた時には、みんなと協力して頑張りたいと思います。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　野村晃汰
今回夏合宿に参加させていただいて、普段できないような様々な経験ができました。なかでも印象に残っていることは山登りと宿舎で過ごしたことです。まず山登りをするのは初めてだったので楽しみと同時に不安も少しありました。とてもきついという話を聞いていたの不安でしたが、実際登ってみてきついとは思わずむしろとても楽しかったです。同じワークショップ班や近くの班の同期の人と話しながらだったので辛さを感じることもなく楽しみながら山登りができました。二つ目の宿舎で過ごしたことは私がこの夏合宿で一番楽しかったことです。最初は知らない人も多くて仲良くなれるか不安でしたが、2 日目の宿舎での親睦会で一気に距離が縮まりたくさん話したり遊んだりできました。たくさんの先輩同期と仲良くなれて嬉しかったです。また、この夏合宿で先輩が本当にかっこいいなと思いました。大人数をまとめていたり、いろんな企画を用意して下さっていて私もそんな先輩になりたいと思いました。今からもう来年の夏合宿が楽しみです。このような素晴らしい夏合宿に参加させていただいて本当にありがとうございました。

大東文化大学　国際関係学部　国際文化学科　１年　日南田剛士
自分は 2017 年度の社会人交流会夏合宿で 1 泊 2 日ながらも多くの事を学び、多くの友人が出来ました。自分は、今回の合宿を私情により 1 泊 2 日という短期間しか参加できなかったのですが、今まで関わることのなかった大東生や日大生といろんな話をする事ができ、とてもいい経験ができたと思います。唯一、心残りなのが山登りとキャンプファイヤーをできなかった事です。この二つでもっと多くの交流を深める事ができたと思いますし、合宿も大いに楽しめたと思います。この合宿で思い出に残っていることは、最終日の総括です。先輩方の心に染みるお話を聞いて涙ぐみました。また、2 年 3 年生の先輩方による 4 年生方への感謝の言葉とても感動しました。自分は改めて、人と人との繋がりの大切さを感じました。自分もそのような人間になれるように頑張ります。最後になりますが、このような素晴らしい合宿を企画していただいた梅沢先生をはじめ、サポートをしていただいた先輩方に感謝してます。来年は、初日から合宿に参加して、

多くの人達と交流し人脈を広げていきたいと思います。今回の合宿はとても楽しく、勉強になりました。ありがとうございました。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　１年　廣島文乃

私は、今回の合宿を通じて二つのことを強く感じました。一つ目は、先輩の偉大さです。合宿では、突然の雨が多く同期会、打ち上げの場所の変更、キャンプファイヤーを中断せざるを得ない状況など、予定通りいかないことも多くありましたが、このような出来事が起こっても常に後輩である私たちを気にかけて、どうしたらいいのかすぐに指示を下さる先輩方は私にとって、とても心強い存在でした。このような先輩方の姿勢は、すごくかっこよく、私の憧れとなりました。私も、先輩方に少しずつでも近づけるようにするために日々のアカデミー活動で先のことを読む力と物事を一つの面からだけでなく多面的に見る力をディスカッションなどで磨いていこうと思いました。二つ目は、アカデミー活動の特徴である人脈の広がりを実感したことです。なぜなら、自分から積極的に動けば普段の火曜アカデミーだけでは知り合えない日大生の人たちや、まだ知らない大東生たちと話すことができるチャンスが合宿中にはたくさんあるからです。実際に、私自身、日大生や今まで話したことの無かった先輩や同期と距離を縮めることができ、ご飯の約束や合宿後にご飯に連れて行ってもらうことができたからです。このような素晴らしい体験をすることができ、夏合宿に行って心から良かったと思っています。こんなにも素晴らしい合宿を作り上げてくれた幹事の皆さんをはじめとする先輩方、そして先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　１年　古屋大河

夏合宿を終えてまず良かったことは日大生との仲が深まったことです。火曜アカデミーでは日大生と関わる機会がなかったので夏合宿を通して話したり一緒に協力できたりと輪が広がりとても良かったです。それと元々仲の良かった人たちとはより仲を深めることができました。ディスカッション班やいつもの班色々なところで仲を深めることができ夏合宿に行ってとても良かったと思います。少し心残りなことは日大生の人たちと話せたと言ってもごく一部の人しか話せなかったということです。自分の悪いところの一つである消極的な部分がでてしまい積極的に話せなかったということです。ですが仲良くなった日大生もいるのでその人からより一層輪を広げられたらなと思います。来年になったら自分は二年生となり後輩ができます。一年生とは違い責任や役職などができます。来年は色々なことを考えて夏合宿に望みたいと思います。初めての夏合宿

で先輩たちの頑張りなどをみてやはりすごいなと改めてすごいなと実感しました。いつもみている先輩とは違い色々なことに気配りしている姿を見てぼくも来年は先輩たちのようになりたいと思いました。来年は撮影班をやりたいと思っているのでカメラの技術をあげて一枚でもいい写真を撮りたいと思います。これからのアカデミー活動では夏合宿での友人、先輩などとより深く関わり輪を広げられたらなと思います。

大東文化大学　国際関係学部　国際文化学科　１年　溝口洸輝
今回の夏合宿に私は三日目の昼から参加させていただきました。まず着いてから最初に行ったディスカッションではいつものWS班とは違った班でディスカッションをしました。ディスカッション班には知っている人が一人もいなくてちゃんとやれるか不安でしたが、班の方々が優しかったのでとても楽しかったです。また、いつもとは違う班の方々とも交流することができたのでそれだけでも合宿に参加して本当に良かったと思いました。また夜に開催された同期会では同じ大学でも違った班の同期や日大の方とも仲良くなる事ができて良かったです。また同期会で仲良くなった方々と夏休み中にご飯に行き仲をもっと深める事ができ同期との繋がりは非常に大切だと思いました。宿では自分の部屋の先輩方が大変そうに仕事をしているのを見て、自分はただ参加しているだけで情けないと思いましたし、来年は自分も夏合宿を成功させるために仕事を出来たら良いなと思いました。また全日参加した人の話を聞いて、山登りなども本当に楽しそうだと思ったので来年は全日参加して山登りにも参加したいです。最後にこのような貴重な体験をさせてくださった梅沢先生や先輩方ありがとうございました。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　１年　吉田遼太郎
夏合宿を終えて自分は初め、遊びに行くぐらいの気持ちで望んでいました。しかしいざ参加してみると、ケジメをつけて楽しむところは楽しみましたが、それよりも大勢の人との共同生活の大変さを知る夏合宿となりました。大人数が時間通りに行動する難しさ、予定通りに進行する大変さが先輩たちを見ていて伝わりました。将来、会社などでの会議で人数が多いいときに、時間は個人が守らなければ大幅に遅れ、周囲に多大な迷惑をかけると再認識しました。そして私は今回の合宿の最終日、自分が来年二年生になって合宿に行く際に、1年生を上手くまとめられるかという不安が頭をよぎりました。しかし、今年の合宿で一年生をまとめていた先輩たちのように行動すれば良いことにすぐに気がつきました。

先輩たちは私たちにわかりやすく、優しく指示をしてくれました。先輩たちの偉大さを身近でみることができた今回の合宿は、大学生活においてとても良い経験となりました。先輩たちを見習って来年の夏合宿を必ず成功させたいと思います。

（５班）

大東文化大学　法学部　政治学科　４年　和田遼太郎
私は最後の夏合宿を終えて、感じたことが２つあります。１つは「大きなことを成し遂げるには 1 人で仕事をこなすのではなく、仲間達を信頼し、協力して活動する重要である」ということです。私は今回、アゼリア宿舎長、生活班班長、移動班、ディスカッション班補佐としての役割を頂いて夏合宿に参加しました。どの役割も、私１人では全うできるものではありませんでした。しかし、班長の寺田や洞江、昨年もアゼリアの生活班を務めていた一場や深野、出崎、鷹野、野澤を筆頭に率先して仕事をしてくれた 2 年生のおかげでなんとか仕事をやり遂げられたのではないかと考えています。このように、仲間達を信頼して協力して活動をすることの重要性は昨年の大和ハウス工業のインターンシップで学んでいたのですが、その重要性をこの夏合宿で改めて感じることができ、とても良かったです。
そして、もう１つは「かけがえのない仲間達を得ることができた」ということです。私は今回の夏合宿で色々な人との仲を深められました。特に謝恩会でも一緒に活動していた上假屋、佐野、寺田とはより仲を深められたと思っています。幹事体制が決まってから夏合宿が終わるまでの期間、3 人とは数多くの話をしました。初めての生活班で班長を務めることになった際に困惑していた私をみんなは支えてくれました。当日も何かあるたびに連絡を取り合い、合宿を成功させようと努めていました。このように、数多くの時間を共に過ごし、協力して活動をすることが出来て本当に良かったです。上述の 3 人だけではなく、このアカデミーの同期や後輩たちとは卒業してからもずっと関係を続けていくのだと思います。
最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった梅沢先生、誠にありがとうございました。残り半年、全力でアカデミー活動に取り組みますのでご指導の程よろしくお願い致します。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　３年　須田裕貴
私は、今回の夏合宿で初めて生活班に任命していただきました。３年生になり後輩を本格的に指導する立場になり、不安でした。昨年とは、責任感も仕事量も増えていきました。夏合宿で皆が安全に過ごせるように事前準備は活動しました。アコールデの生活班として配属されました。私以外は、生活班は後輩ばかりだったので不安でしたが、他の生活班がわからないことは聞いてくれたり率先して動いてくれたので助かりました。宿泊するアカデミー生も率先して手伝ってくれたので嬉しかったです。宿舎で同じだった今まで話したことの無い学生とも交流出来たので良かったです。また、この度４年生の凄さを、再認識致しました。来年私達３年生が率先して、この夏合宿をしなければならないので学べる事をとことん学ぼうとしました。キャンプファイアーは昨年よりダンスの時間が多く多くのアカデミー生と交流を持てる事が出来て充実した時間を過ごす事が出来ました。山登りでは今まで以上に後輩をサポートしながら登りました。疲労はしましたが充実した時間を過ごす事が出来ました。今回の夏合宿で１年生や２年生に充実した時間を過ごしてほしいと思い、また自分が成長できるように積極的に人に声をかける事を心掛ける事によって多くの人に自分の事を認知して貰える事が出来ました。嬉しかったです。今回の夏合宿で学んだ事は今後体験出来ない貴重な体験でした。来年は４年生に負けない様に夏合宿を、引っ張って素晴らしい夏合宿していきたいです。最後にこのような貴重な体験をさせていただいた梅沢先生に心より感謝申し上げます。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　３年　庭山達成
今夏の合宿では会計班とイベント班として夏合宿に参加しました。会計班の仕事では事前の準備にはほぼほぼ参加できたのです、合宿後の会計処理の仕事に少ししか参加できず、先輩・同期・後輩に迷惑をかけてしまい申し訳なく感じています。イベント班の仕事ではキャンプファイヤーで使用する音響機材の手配などで色々な変更や費用の削減など後輩にも手伝ってもらいながらなんとか間に合わせることが出来ましたので良かったと思います。夏合宿に関わる役割を与えてもらい、この役割を通して先輩・同期・後輩に頼る事・頼られる事の大切さを痛感しました。夏合宿の初日では全体に向けての自己紹介と先生のお話の後各宿舎に移動でした。私の宿は「あぜりあ」の 3 人部屋でした。同室の 2 人は後輩で、うち 1 人は会計班で一緒の学生であったため 3 人での話はとても話しやすかったのを覚えています。2 日目はイベントとして登山とキャンプファイヤーがありました。私は昨年の膝のけがで生憎と登山はできませんでしたが、自分と同じように登山が出来ない大東の 1 年生と釣りの話などをし、普段全く接

点のない新規生と話す機会は作りづらいので話せたことはよかったなと思います。キャンプファイヤーでは、早めに夕飯をいただき、キャンプファイヤーの準備にあたりました。音響として音楽の操作をしていましたが、曲を途切れさせてしまう事が 2 回ほどあり、その点は来年の音響を操作する人にきちんと伝えたいと思いました。キャンプファイヤーで心残りな点は雨により中止になってしまった事です。予定していた時間を前に終了となってしまったのは楽しみにしていた新規生に申し訳なく思いました。3 日目のディスカッションでは初めて班長を任され、とても緊張していました。始まる前は自分以外の班の班長は火アカや木アカで班長を経験している 3 年ばかりで、自分がしっかりしなければと思うとともに報告が不出来であったら班員となった子に申し訳ないないという思いばかりでした。ですが TT の高橋さんや 2 年生に大いに助けられ無事に終えることができました。ディスカッションでは嬉しいことに WS 班 5 班の 1 年生が発表の際に多く発表していました。その後の３年会ではみんなで写真を撮ったりとても楽しくて、時間が許すのであればもっと続けたかったです。最終日の総括では 1 年 2 年のころは上級生が泣いている姿を見ていました。ですが自分が 3 年として合宿に大きく関わった今年は、無事に終わったという思いや助けてくれた多くの人に迷惑をかけたという思いから涙が出てしまいました。今年は登山に参加できなかったので来年は万全の体調で登りたいと思います。また最終学年として今年よりも仕事の責任の重さなどが違ってくるのでより頑張りたいと思います。最後になりますが、このような機会を設けていただいた梅沢先生、運営に関わった先輩、同期、後輩の皆さん誠にありがとうございました。

大東文化大学　国際関係学部　国際文化学科　２年　市之瀬桜

今回、夏合宿に参加するに至って２つの目標を立てて、挑みました。１つ目は、自分から積極的に話しかけてもっと多くの人と友好を深めることです。バス、宿舎や同期会などを通して初対面にも関わらず、相談しあえる仲にまで繋げることができました。また、同期とは、どのように進捗を捗っていくべきなのかといった深い話や自分自身に対する悩みを相談することができました。合宿で築けた信頼関係を今後の活動でより深めていきたいと強く感じました。２つ目は、合宿中に皆が居心地良く過ごす為には、自分がどのように動けば良いのか考えて行動することです。宿舎に滞在してる際に部屋員に連絡事を伝える時に素早く伝えたり、そのまま言われたことを伝えるのでは、なくて 1 年生が分かりやすいように言い換えて話すなどといった計らいを心掛けるように努めました。また、ディスカッションの際に輪に入れてない人に折角同じ班になったんだから楽しんでほしいと思い、自分から積極的に話しかけるなどといった行動を心掛

けて接しました。これらの行動を通して、自分がどのような状況でどう動けば良いのかといったことを学べたり、相手の立場に立って物事を考える大切さについて知ることができました。この考え方を多くの人に伝えていきたいと思ってます。最後になりましたが、1 番印象に残ったことについてです。お忙しい中、時間を割いて悩みを聞いて下さった先輩、班のために盛り上げてくれたり、的確な指示で纏めてくださった先輩方の総括は、凄く感動しました。私もこの 4 年間で自分のことだけでなく、もっと相手の立場に立って纏めたり、考えられるように頑張っていきたいと強く感じました。このような素敵な機会を与えてくださった梅沢先生をはじめ、心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　２年　上野真依

私は今回の夏合宿で宿舎での室長とイベント班に携わらせていただきました。去年と違い先輩として一年生のために気配りをしたり、指示したりする立場になったことで、ただ指示に従って楽しんでいた去年の夏合宿で先輩たちはこんな苦労があったのだと気づきました。宿舎では同室の一年生が指示どおりにスムーズに行動してくれたおかげで大きな問題もなく三泊四日終えることができ、本当に良かったです。しかし心残りとなったのは、イベント班が主催するキャンプファイヤーを予定通りに執り行えなかったことです。去年の夏合宿でも突然大雨にふられたので山岳地帯の気候的にもしょうがないことだとは思いましたが、よりによってキャンプファイヤーのタイミングで雨になったことが残念でした。合宿前に何度も集まって打ち合わせを重ね、イベント班の一人一人が参加者みんなにキャンプファイヤーを楽しんでもらえるように頑張っていたし、成功に向けて結束も高まっていたので、無事にキャンプファイヤーを終えることができず本当に悔しかったです。また今回の突然の雨のように、イレギュラーな事態に対する対応力という点で先輩方の力の大きさを改めて実感致しました。先輩方がおっしゃっていたように、このアカデミーの夏合宿は毎年違った成長ができ、自分の力を確認できる機会であると思いました。アカデミー生みんながこの合宿のために一生懸命取り組んで、そういったお互いを高めあえる環境の中で過ごせたことは、これからのアカデミー活動や大学生活において非常に有意義な時間であったと思います。このような素晴らしい機会を設けてくださった梅沢先生をはじめとする方々に感謝致します。お世話になった方々に対する謙虚な気持ちを忘れず、これからの活動に精力的にとりくんでいきたいです。

大東文化大学　環境創造学部　環境創造学科　２年　齋川侑嗣
今年は移動班の仕事を任せていただき、去年よりも責任感のある夏合宿だったと強く感じています。当日の動きなどは事前に確認を取り、当日問題が起こらないよう細かに連絡を取ったりなど去年は先輩方が自分達を楽しませてくれていましたが今年は 1 年生を楽しませる側になったので去年とはまったく違う夏合宿になりました。夏合宿中に大きな事故はなく、みんな楽しんでくれていたので自分の中の達成度はとても高いです。来年は 3 年生での参加となるので今年よりも責任感が強くなると思います。なので来年は今年よりも更に気持ちを強く持ち参加させていただきます。今後のアカデミー活動にも積極的に参加し、今の内からやれることを精一杯学んでいきますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　２年　福澤君義
夏合宿を終えて僕が感じたことは、1 年生の時に参加した夏合宿と比べ大きく変わりました。1 年生の時は、なんの役職にもつかずただただ楽しんでいたので、先輩、同期、様々な人とたくさん交友関係を持つことができ、楽しい夏合宿だったなという感想でした。しかし、2 年生になり、イベント班という役職をもらい、1 年生の時とは、大きく違うものを感じました。イベント班としては、夏合宿前の準備に始まり、いろいろ大変なことがありました。その中にも 1 番に感じたことは、先輩方の凄さです。なにもわからない僕たちに対して、何をすればよいのか、どのような仕事をすればいいのか、ということを、1 から教えてくださったのでとても動きやすかったです。そして夏合宿が始まり、イベント班の 1 番大きな仕事はキャンプファイヤーでした。しかし、キャンプファイヤー当日は、途中で天候不良のため、中止となってしまいました。後に、梅沢先生のご好意で、打ち上げの際にキャンプファイヤーの時に出来なかった通番ルーレットをやらせていただいたのですが、僕の中では、不完全燃焼で終わってしまったなと強く思いました。僕らはまだ 2 回夏合宿が残っているのですが、4 年生の松井さん、幸村さんたちにとっては、最後の夏合宿で、不完全燃焼で終わってしまったことを、とても申し訳なくとても悔しく感じました。その中で、4 年生 2 人は、今年の失敗を生かして、来年は絶対に成功させてくれと言ってくれました。僕はこのような 4 年生になりたいと強く感じました。松井さんも幸村さんも、絶対に悔しいはずなのに、そのような態度を見せずに、僕たちに気を遣ってくれてまさに人間力を感じました。来年の夏合宿は、4 年生お二方の為にも必ずイベント班としての仕事を、成功させたいと強く思います。
ここからは、イベント班としてではなく、1 人の 2 年生としての感想を述べてい

きたいと思います。まず初めに思ったことは、宿舎の１年生を初め、あまり１年生との関わりを持てなかったと思います。今回は、自家用車を出したので、移動班の手伝いなどで宿舎にいる時間がとても少なかったです。夏合宿の目標として 1 年生と多く関わるということを１つ目標にしていたので、少し心残りがありました。しかし、そんな中でも、１年生が会うたびに声をかけてくれたのでとても嬉しかったです。来年は、３年生になり仕事も忙しくなると思いますが、後輩と多く関われるように頑張ります。最後になりますが、夏合宿を終えるたびに３、４年生はとても凄いのだと感じました。夏合宿は、間違いなく４年生が作り上げているものです。なので４年生には、感謝したいと思います。今回の夏合宿で、関わった全ての人に感謝して夏合宿の感想文とさせていただきます。最後になりますが、このような素晴らしい夏合宿を経験させていただいた梅沢先生には心より御礼申し上げます。

大東文化大学　外国語学部　英語学科　１年　伊藤亜実

私は今回の 2 泊 3 日の夏合宿に参加し、お話ししたことのない先輩方や同期と交流を深めることができました。アカデミー生になってから初の合宿であり、さらに、参加人数が約 250 人と今までで最も多いことをお聞きしていたので、参加前日まで緊張と不安でいっぱいでした。行き帰りのバスや同じ宿舎では周りに友人が少なく、ほとんどの方と話したことがありませんでした。しかし、イベント班の方々が用意してくださっていたレクリエーションやキャンプファイヤーなどのイベント、宿舎での食事のおかげでたくさんの方と仲良くなることができ、お互いの学部や趣味の話をすることができました。今まで話したことのない方々と話すのはとても楽しく、このアカデミーに入って良かったと心から感じました。また、班に分かれてのディスカッションでは、普段一緒に活動している WS 班とは異なった先輩方や同期とディスカッションを行い、とても新鮮に感じました。私が今回の合宿の中で１番印象に残っているのは、2 日目に行われた WS 班での登山です。私は運動することが苦手なので登頂できる自信がなく、周りに迷惑をかけてしまうのではないかと不安に思っていました。しかし音楽を流しながら、会話をしながらの登山はとても楽しいものであり、登頂した時は大きな達成感を得ることができました。夏合宿での活動では、生活班やイベント班を始め、たくさんの先輩方にお世話になりました。活躍する先輩方を見ていて、自分も来年は合宿をサポートする側になりたいと強く感じました。そのために、これからのアカデミーの活動に真剣に取り組み、より多くの学びを得ることができるよう努力していきます。最後に、このような素晴らしい夏合宿に参加させてくださった梅沢先生に厚く御礼申し上げます。有難う御座いました。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　1年　小渕里桜
私は今回の夏合宿を通して学んだことが2つあります。1つ目は自分の語彙力、文章作成力の無さです。元々文章作成や人に何かを説明するということは苦手だということは感じていたのですが、自分が想像していた以上に力の無さを感じました。私はディスカッションの内容を発表させていただき、発表するにあたり班で出た意見をまとめさせていただきました。"まとめるだけ"と思っていたのですが、わかりやすくまとめようとすると内容の意味が変わってきてしまったり、そこを直そうとすると時間以内に発表できなくなってしまう恐れがあったりとなかなか思い通りにいきませんでした。結果は先輩のお力をお借りしてなんとかまとめることができたのですが、自分の無力さを痛感すると同時に先輩のすごさを改めて感じました。2つ目は縦と横の繋がりです。私は夏合宿前に日大生はもちろんのこと大東生のあまり関わったことのない人にも積極的に話しかけるという目標を立てていました。実際、同期はもちろん先輩方ともたくさん関われ、中でも同じ宿舎の方達とはとても仲良くなれました。そして今でも一緒にご飯に行ったり遊ぶ予定を立てたり同期からの紹介で違う同期と関われたりと縦横の繋がりの大切さを改めて実感することができました。これからも縦横の繋がりを大切にし、自分自身の成長にも精進していきたいです。

大東文化大学 文学部　英米文学科　1年　菅頭太成
自分は合宿を通して学んだことがたくさんありました。自分は初対面の人の方が多く、話す友達がいなくて不安でした。しかし自分は 5 班として活動していくメンバーに支えられました。その時人と話すことはとても大事なことだと改めて感じました。人と話していると元気と勇気が感じられました。合宿中にはたくさんのイベントがあったおかげでさらに距離も縮まって違う班の人たちとも関わりが多くなりました。限られた時間の中で日大の人たちにも自分から声をかける事も増えてとても良い関係を築くことができました。ディスカッション班での活動も自分から挙手して発表もできました。普段このような経験はしてこなかった自分からするととてもいい経験になりました。そして他の人の意見を聞くことの大切さを教わり参加してとても良かったと思えました。これらの行動は周りの人のおかげだとその時感じられました。今回この合宿で得られた積極性、取り組む姿勢を大事にして自分の将来のために必ず身を結べる活動をこれからもしていきたいです。

大東文化大学　文学部　英米文学科　1年　里村至恩
夏合宿はとても楽しかったです。なにが楽しかったかと言うと友達が増え関わる機会がたくさんあったことです。日数を重ねて行くごとに友達が増えてとても楽しかったのが印象に残っています。また、登山という自分にとって決して楽ではなかったイベントは、一人一人が助け合い楽しく会話をしながら登ったため1人ではなく、みんなで喜べた事にとても感動しています。最初は3泊4日という長い合宿が不安でしかたなかったのですが 1 日を過ぎて行くごとに帰りたくないという気持ちが出てきたことはとても驚いています。同期はとても面白かったし先輩方はとても優しく尊敬できる人でした。なにが尊敬できるかというとふざける時はふざけてしっかりやるとこはしっかりしていてONとOFFの区別がハッキリとしていて、どんなに疲れていても笑顔で優しく、疲れている素ぶりを見せず自分たち、新人を楽しませてくれたことがとても学ぶべきところだと実感しました。この合宿を通して、困ったり、苦しんだり、災難だったりと、苦難や困難、災難が無い無難な大学生成生活に比べてこの合宿でたくさん困ったし苦しんだりもできて逆に苦難や困難、災難を経験できるありがたい機会だなと痛感しました。以上のようなことより私はとても充実した合宿になったと感じました。

大東文化大学　法学部　法律学科　1年　篠田奏汰
私は今回の夏合宿で交流の少ない日大生との繋がりを持つことを意識して参加しました。宿舎に着いたときは本当に見たこともない日大生が多かったが、すぐに仲良くなることができ、毎日楽しく過ごすことができました。また同じ宿舎だけでなく、ディスカッション班の日大生の人とも仲良くなることができました。さらに、同期の大東生との仲をより深めることができました。また今回の合宿ではゼミ生が大人数いるにもかかわらず、的確に指示を出し、みんなをまとめる先輩方の偉大さを感じることができました。私はまだ 1 年生ですが、先輩という立場になったら先輩方のように後輩一人一人に気を配れる人になりたいと思いました。今回の夏合宿という素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生、誠にありがとうございました。

大東文化大学　法学部　法律学科　1年　関矢詩織
私が夏合宿で意識したことは、主に2つありました。1つ目は今まで関わった人との繋がりを強めることです。関わりのある先輩や同期全員と何らかの会話を

することを心がけました。2 つ目は人脈をより広げることです。日　本大学の先輩や同期とは話したことが一度もなかったので、日本大学の人を中心に関わることを心がけました。まず、1 つ目についてです。この夏合宿は、繋がりを強めることが出来るプログラムが組まれていると感じ、中でも、やはり登山が印象的でした。初めは会話が弾んでいましたが、次第に傾斜がきつくなり、後半は殆ど会話がない状況でした。そんな中でも、先輩方は大丈夫？と班員に声を掛けていました。その姿を見て、私も音楽を流して同期と歌ったり、もう少しで頂上だね！と会話することで、場を盛り上げながら登山することができました。頂上についてからは、景色を見ながら同期と写真を撮ったり、お疲れ様と声をかけ合うことで、達成感を皆で感じることができました。次に、2 つ目についてです。バスでは、行きも帰りも、初対面の方と隣になり、自己紹介をすることでお互いのことを知ることが出来ました。宿舎での食事では、毎回初対面の方が多い席に座ることを意識しました。そのため、宿舎のほぼ全員と会話をすることが出来ました。同期会によって、かなり多くの同期と会話をすることが出来ました。また、あぜりあでは OB の方が来ており、食事の席や廊下でお話しさせていただく機会がありました。このように様々な場面で、人脈を広げる機会があったので、とても充実した夏合宿となりました。アカデミーの夏合宿でしかできない素晴らしい経験をすることができました。このような機会を与えてくださった梅沢先生、諸先輩、宿舎関係者の方に感謝しております。夏合宿で築いた人脈を大切にしながら、今後のアカデミー活動に取り組んでいきます。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　1 年　永野楓

大学に入り初めての合宿を梅沢人間力アカデミーで体験致しました。しっかりと規律は守られていて、2.3.4 年生は自分の役職を責任を持って担当し、そんな忙しい中でも新規生の面倒を見てくれていました。山登りの時、撮影班の先輩方が坂道を走って上り下りしている姿を見て、頑張っている姿がとてもかっこよかったです。ディスカッション班では日大生の人達と合同で行い、全く見ず知らずの先輩や同期と顔を合わせることになり初めは少し不安や緊張がありました。ですが与えられた課題について班員で意見を出し合い、意思疎通をすることで次第に打ち解け合い仲良くなることも出来ました。大東生が日大生とここまで深く関われる機会は滅多にありません。これが実現できたのも梅沢人間力アカデミーの夏合宿に参加した者だけが得られる特別なものだと思います。ディスカッションでの先輩の話し方や意見、考え方はとても参考になり、私には出来ないような発言をしていて尊敬を覚えることも多くありました。キャンプファイヤーではイベント班が準備してくれたレクなどをして楽しむことができました。

途中で雨になってしまい最後まで出来なかったのがとても残念ですし、なによりイベント班の先輩方が悔しそうにしているのを見て辛く感じました。同じ部屋の先輩にイベント班の人が居て、きっと悔しくて笑うのも大変でしょうに、部屋に帰ってくる頃には明るく接して下さり強い人だと思うと同時に私もそんな人間になりたいと思いました。今回の合宿で、あまり話したことのない人とも関わりを持ったり、同期とも仲良くなれました。こんな素敵な機会を作ってくださった梅沢先生や先輩方にはとても感謝をしています。充実した 3 泊 4 日をありがとうございました。

大東文化大学　法学部　法律学科　1 年　古田侑史
今回初めて参加した夏合宿でしたが、一番良かったことは知り合いが増えたことです。合宿は日によって違うグループで活動できたのでそのグループごとに友達ができていい機会でした。また、日大生とも同じ宿舎の人はとくによく話す機会があり一緒に楽しく過ごすことができました。自分の宿舎は携帯の電波が繋がりにくく、最初来たときは不便だなと思ったけど、そのおかげでみんなで集まって話したり、トランプなどゲームをして交流をする機会ができたので、結果的に携帯を使わないのも良かったなと思いました。そして、今回の合宿は先輩が準備や指示をしてくれました。今まで準備や雑用などは後輩の仕事だと思っていたのですが、先輩たちがやってくれている姿を見て感謝をしなければと思いました。来年合宿に行けば、今度は自分たちがその立場になるので自覚をしないといけないなと思いました。合宿は短い間でしたが貴重な経験ができました。ありがとうございました。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　1 年　山本新奈
私は、この夏合宿を通して、普段は同じ活動をしていたけれど話したことのなかった、先輩や同期と交流することができました。私はずっと、相手にどんな印象を持たれているのかを気にしていて、初めての人と話すことが怖いと思って、仲の良い友達や先輩を通じてでしか交流できていませんでした。しかし、夏合宿に参加する前に先輩方から、あの場は学年・大学関係なく交流できる貴重なもので、自分から積極的になることが大切と聞いていたのでまずは挨拶から始めました。実際に、これを機に多くの人と言葉を交わし、気の合う友人や先輩を見つけられました。まずは、自分を知ってもらおうと前向きに思えたことが、この夏合宿に参加できてよかったことの一つです。夏合宿で驚いたことは、先輩方が私たち後輩のために沢山動いてくださったことです。話し合いの際に使うブルーシート

の用意や朝食の準備、バス内での清掃などを先輩は率先してやってくださいました。また、後輩が「代わります」とやろうとするとほかの指示を与えてくださって効率的にその場を動かしていました。そのように周りをしっかり見て的確な指示が出せるようになりたいと思いました。もう一つ刺激になったのが、日大生や違う班の人とのディスカッションです。いつもとは違う角度からの意見を聞くことで、新しい考えが生まれ、活発な意見交換が行われました。また、相手はどんな人なのか、話す様子からだんだん人柄や性格が見えてくるのも楽しかったです。この夏合宿では、様々な人が声を掛け合い、密に連絡を取り合う姿が見受けられました。楽しい裏には、多くの支えや入念な準備あってこそだと、改めて感じました。この大人数でこの大きな行事を動かす労力は計り知れません。合宿の最後、多くの先輩が涙を流す姿に私の胸にも迫るものがありました。そんな夏合宿を来年も成功させるために、私も支える一人になりたいです。夏合宿に参加したことで今後の活動も楽しみになりました。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　１年　山口麗

今回の夏合宿に参加させていただいて思ったことはやはり人脈の大切さと、先輩方の偉大さです。宿舎では知り合いがあまりいなくて同じ班の子も 1 人くらいしかいなく不安でした。ですが、高妻ロッヂの人たちはとても優しく、先輩方も遊ぼうって言ってくれてたくさんの人と話すことができとても充実した 3 日間を過ごすことができました。また、キャンプファイヤーや同期会、打ち上げなど様々なイベントで日大、大東関係なく色々な人と関わることができました。自分から声をかけに行くことがどれだけ大切かを知りました。山登りは思ったより大変でしたが同じ班の人と集まった時はとても安心感がありました。登りきった時の達成感は今でも忘れません。夏合宿が終わってからも今まで喋ったことない先輩方からも声をかけてもらえるようになりこの合宿に参加して良かったなって思います。これからもこのアカデミーに積極的に参加して行きたいです。ありがとうございました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　湯原亜美

私は夏合宿に参加することにとても不安を持っていました。それは私が宿泊したピアロッキーに仲の良い友達が居なかったからです。自分から話しかけることがあまり得意ではなく、受け身の姿勢で居ることが多いため、最初の頃は馴染めず、心細い気持ちになりました。しかし、先輩方が食事の時などに話しかけて下さり、最後は楽しんで生活することができました。私はこの時、「もっと早く

いろいろな人と話をすれば良かった」と後悔しました。それと同時に自分の仕事で忙しいにも関わらず、私たちに気を配って下さった先輩たちの偉大さに気付きました。また同時にWS班の大切さに改めて気付くことができました。WS班での活動の時や班員と一緒に居る時間は安心することができ、自分の居場所があるということ、仲間は大切だということを感じました。今回の合宿を通して、コミュニケーションの大切さ、先輩方の偉大さ、仲間の大切さを改めて学びました。最初は不安なことがあり嫌だと感じることも沢山ありましたが、今では合宿で仲良くなった同期、先輩方と遊ぶなど人脈も増え、とてもいい経験になりました。また、合宿後に宿舎打ち上を開催するなど集まる機会を作って下さり、今ではピアロッキーで良かったと心から思っています。これからは今回学んだことを忘れずに活動に積極的に参加し、来年先輩として参加する夏合宿では、少しでも周りの力になれる人として成長できるように頑張りたいです。最後になりますが、このような貴重な経験をすることができたのは梅沢先生をはじめ、幹事の皆様、先輩方のおかげです。本当に感謝しています。ありがとうございました。

（6班）

大東文化大学　文学部　英米文学科　４年　小口由季乃

今回は4回目で私にとって最後の夏合宿でした。そんな夏合宿で私は統括幹事という立場を任せて頂きました。今年は最後ということや統括幹事を任せて頂いたこともあって今までにない達成感を得ることができました。統括幹事に任命されたときはやりたいという気持ちは全くなく、成功させることができるのかという大きな不安しかありませんでした。更に今年は統括幹事が2人ということで、心強い気持ちもありましたが、前例がない状態で2人がどういった立場で進めていくのか想像がつかず、不安が募る一方でした。実際に準備期間中には全体との連携が取れていないことでうまく進まず、悩むときもありました。しかし、そんな準備期間中にアカデミーのOBやOGの方々に相談すると親身になって聞いてくださり、１つ１つ丁寧にアドバイスをして下さりました。当日も不安を抱えたまま迎えましたが、不安を感じる暇もなく天候などの対応に奔走する4日間でした。夏合宿の4日間は非常に忙しく大変でしたが、それ以上に同期や後輩と夏合宿を作り上げ成功に終わらせることができ、最終日には安心感と充実感を得ることが出来ました。

また、総括では後輩から楽しかったなど多くの声を聞くことが出来、とても嬉しく感じると共に、同期の総括を聞いて残りの大学生活の短さを感じました。今回

の夏合宿を無事に終わらせることが出来たのはアカデミーの先輩方が丁寧にアドバイスして下さったことや同期、後輩など多くの人が最後まで支えてくれたからだと思います。半月という短い期間での準備は辛い期間でしたが、同じ統括幹事の佐野と最後までやり切ることが出来、本当に良かったと思いました。残りの学生生活で後輩に何か残していけたらと思っております。今年も夏合宿を開催して下さり、有難うございました。

大東文化大学　経営学部　企業システム学科　３年　完倉健太
今回の夏合宿は WS 班長、イベント班大東側班長など、班長として参加したことで今までの夏合宿とは全く違った経験をすることができました。前回までの夏合宿はいかに自分が楽しめるか、ということを考えて参加していましたが今年は、後輩たちに楽しんでもらうにはどうすればよいのか、ということを考えて参加しました。特にキャンプファイヤーでは、事前に後輩たちを楽しませるための話し合いを何度もイベント班で話し合いました。その結果、後輩たちに楽しかったといってもらうことができ、合宿を通して仲良くなることができました。また、私たち３年生が１年生の頃からお世話になってきた４年生の先輩方と一緒に参加できる最後の夏合宿だったため、一日一日を大切に過ごしました。最後の総括の場では、４年生に向けて笑顔でお礼をいうつもりだったのですが、お世話になってきた４年生の先輩方の顔を見ると涙が出てきてしまいました。その時になって私にとって先輩方がどれほど大きな存在であったのか知ることができました。今後は私も後輩たちにとって先輩方のような大きな存在になれるよう人間力の向上に勤めていきたいと思います。今年も夏合宿という素晴らしい体験をさせていただき有難うございました。

大東文化大学　文学部　日本文学科　２年　鷹野祐輔
今年度の夏合宿は２年生になり、１年生のときとは全く違った経験、学びを得ました。多くの学びがございましたが、３つにまとめて述べさせていただきます。
１つ目は、事前準備の大切さについてです。今年度、私はアゼリア宿舎の生活班という役目をいただき、夏合宿に参加させていただきました。昨年度にはなかった役職を知り、社会人交流会における組織としての側面を改めて感じ取りました。生活班は夏合宿が始まる前に、スケジュールの確認や、役割の明確化を事前準備として行なっていました。安全管理係、宿舎係、予約係の３つに分かれ、私は宿舎係でした。お酒の手配、宿舎のメンバーの割り振り、他の班との連携の確認、様々な事前準備を行ました。しかし、当日、私がアゼリア倉庫にてお酒の分

配をしていると、ビールの数が足りないということがわかりました。和田さんに報告して、解決しましたが、お酒の数について、事前の確認不足が原因で生じたミスだったそうです。逆に、確認や、準備が十分に行われていた場面ではミスは起きていなかったと思います。事前の準備は大変重要で、やればやるだけ、本番のクオリティに活きてくるのだと学びました。
２つ目の学びは、学年の仕切りがない合宿作りです。私は宿舎がアゼリアでした。昨年度、先輩方が１年生を楽しませてくださったように私も、2 年生として１年生の楽しめる宿舎雰囲気を作りたいと思いました。積極的に 1 年生とトランプや、ウノなどの遊びをして、たくさん話しました。同期の當間や、出崎、黒沢、内野も他学年と仲良く過ごしていました。初日はよそよそしかった大東と日大、1 年生と 2 年生と 3 年生と 4 年生。この仕切りも合宿終盤には、打ち解けて、キャンプファイヤー、打ち上げのときには、仕切りは全くなくなっていました。夏合宿の終わったあと、宿舎ごとの飲み会を催されていて、仕切りのない夏合宿になったと確信しました。３つ目は先生のおっしゃったことに遵守するということです。総括の際、先生は学生に名前を 2 回言いなさいとおっしゃりました。私はそれを聞き逃して、名前を 1 回しか言いませんでした。先生のご指摘で気づき、言い直しました。注意散漫な私を情けなく思いました。これからはこのようなことがないようにしたいです。申し訳ございませんでした。
以下３つが夏合宿で私の得た学びです。これらのことをゼミ活動、これからの人生に活かしていきたいと思います。最後に、素晴らしい夏合宿という機会を設けて下さった梅沢先生に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました

大東文化大学　法学部　法律学科　２年　村山加畝
私にとって 2 度目の夏合宿はとても特別な経験をさせていただくことができました。今回は生活班に配属していただき、ピアロッキーの生活班として多くのことを学ばせていただきました。来年は 3 年生としてもっと活躍できるように躍進して参ります。

大東文化大学　外国語学部　英語学科　１年　秋田和浩
夏合宿の４日間を通して私が一番印象に残ったことは先輩方の偉大さです。イベント班や撮影班など様々な班に分かれたと思うのですが、中でも特に生活班の方々には大変お世話になりました。宿舎での私たちをまとめたり、最後に寝て最初に起きてみんなを起こしたりしているのを見て今後自分が生活班という役職を頂いたと仮定して、果たして自分がそれを全うできるか考えた時にここま

で頑張れるか不安でした。それほどに生活班はすごいなと感じました。以上のことから少しでもその先輩方に近づけるよう今後の活動に活かしていきます。

大東文化大学　文学部　英米文学科　１年　宇田川夏帆
私は、夏合宿に参加して特に良かったと感じたことが二つあります。一つ目は、自分から積極的に関わりに行くことの大切さを学べた事です。夏合宿は大東と日大が合同ということもあり、まず人数の多さに驚かされました。部屋やバスの席も知らない人と同じになることが多く、自分から積極的に自己紹介をしたり話しかけたりした事によって、宿舎内や班活動以外でも声をかけていただく機会が多く、人脈の広がりを感じました。二つ目は、先輩方が仕事をしている姿を間近で見られた事です。先輩方は皆それぞれ、夏合宿の成功に向けて与えられた役職に全力で取り組んでいて、一年生の私にはその姿がとても印象的でした。知らない人も多く、初めての夏合宿参加で不安もありましたが、先輩方が一緒に行動してくださったり、指示を出してくれたことで、私達も不安を取り除くことができました。それと同時に、私達も来年はこのように行動できるようにならなければいけないという自覚を持つことができました。最後に、夏合宿という大きなイベントに参加させて頂いたことで、自分にはまだまだ至らない点が沢山あると感じました。来年は学年も一つ上がり、上級生としての自覚を持った行動ができるように、普段のアカデミー活動から意識して頑張っていきたいと思います。

大東文化大学　文学部　英米文学科　１年　大栗和佳奈
今回、初めて夏合宿に参加させて頂き、改めて縦と横の繋がりを感じました。これまでも、WS や普段のアカデミー活動で感じていましたが、夏合宿では大学内だけではなく、日大との繋がりも深くあるのだと強く感じました。バスで隣の席が日大の男の先輩だったり宿舎の部屋で知ってる人が少なかったり、行く前は不安ばかりでしたが、いざ行くと大学など気にならず、沢山の先輩や同期と知り合い、仲良くなることができました。そのため、帰る頃にはしばらく日大の人達には会えないのかと寂しく思いました。たった４日間でそれだけ思えるほど、夏合宿は濃いものでした。また、先輩方の仕事をする様子を見て、臨機応変な対応に驚きました。特に、生活班であった同じ部屋の先輩方は殆ど部屋に居らず、夜も会議等で遅くに戻ってくる姿を見て、これだけ大きな組織を動かす大変さと、それをやり遂げる凄さを間近で感じられ、とても良い経験になったと思っています。

大東文化大学　法学部　法律学科　１年　小笠原将冬
私は今回アカデミーに入って初めての夏合宿でした。行く前はとても不安で友達が出来るか、部屋のひとたちと仲良く出来るかどうか、先輩たちとはなせるかどうか等ありました。しかし、合宿に参加してみるとそんな不安はなくなっていきました。 私が夏合宿で印象に残ったことは先輩方の活躍です。私たち新規生が合宿を楽しむことができたのは先輩たちが尽力してくださったお陰だと思います。特に 2 日目のレクリエーションではキャンプファイヤーの最中に雨が降ってしまいどうなるかと思ったのですが、先輩方の素早い対応をしてくれて物事がスムーズにいき合宿のムードを壊さずに楽しむことができました。夏合宿ではたくさんの人と話す機会がたくさんありました。おかげで同期の友達が出来て、先輩方とも仲良くできることができました。来年は私たちが新規生たちを楽しませる番なので精一杯努力して夏合宿を成功させたいと思います。 最後にこのような機会を設けてくれた梅沢先生や合宿を盛り上げてくれた先輩たちに感謝したいと思います。ありがとうございました。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　１年　高野純平
私は夏合宿に参加させていただき、多くのことを学ぶことができました。中でも印象的だったのが先輩のすばらしさと仲間の大切さを再確認できたことです。以前の私は先輩の行動力、発言力などがすごいと尊敬していながら、アカデミーで毎回会うため、なかなか常には考えることができていませんでした。しかし、この合宿であらためて先輩の行動、言動を見て、先輩のすばらしさを再確認することかできました。さらに、私は以前まで仲間の大切さを感じでいながらも、毎日の生活の中で考えなくなってしまうこともありました。しかし、この合宿で初めて話した新規生や既存生、アカデミーでいつも話す新規生や既存生、と会話するなかで仲間の大切さ、尊さを再確認することができました。今後は先輩の行動、言動をいままで以上に注視し、自分の今後のアカデミー活動に活かします。さらに、仲間の大切さを常に忘れず、コミュニケーションを積極的にいろいろな人ととっていきます。今回このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

大東文化大学　文学部　英米文学科　１年　杉山千秋
今回アカデミーに入って初めての夏合宿ということで、行く前の私の心境は期待と不安が半々の状態でした。今振り返ってみると、2,3,4 年生の先輩方がいる

ので不安を感じる必要は全くありませんでした。私が夏合宿で最も印象に残ったことを挙げるとしたらそれは先輩方の勇姿です。私が夏合宿を楽しむことが出来たのは先輩方が努力して下さったお陰です。特に宿泊したアゼリアと入浴時に行ったアコールデの先輩方には本当にお世話 になりました。時には規則や時間管理などの注意をしてくださり、時には怪談やトランプなどで楽しい時間を過ごさせていただきました。夏合宿中には多くの人と関わることが出来ました。特に普段関わることが少ない日大生とは池袋初のバスの移動中などの会話が印象に残っています。また 2.3.4 年生とお話をして食事に誘っていただけるようにもなりとても良かったです。人付き合いは苦手な方ですが、今後の活動でも交友の輪を広げていきたいです。この合宿で決心したことがあります。 それは今後のサークル活動に積極的に参加し、来年の夏合宿で仕事を任せてもらえるような人間になることです。 そして来年入ってくる後輩に夏合宿を楽しんでもらいたいです。最後にこのような機会を設けて下さった梅沢先生や先輩方に感謝の意を示したいと思います。本当にありがとうございました。

大文化大学　法学部　法律学科　1 年　畠山幸洋

私は今回初めての夏合宿に参加させていただき、多くの人と関わることができたのを嬉しく思いました。これまでの活動では関わることのできなかった同期や先輩、また、特に日大生と関わることができました。バスの座席や部屋割りなどを見て、初めのうちは不安でしたが、仲良くなるきっかけを与えてくださったのだと感じました。山登りのときの頂上では同じ部屋の日大生を始め、他の日大生とも話ができたのでよかったです。私が夏合宿で一番印象に残っているのは、先輩方の姿です。合宿前のオリエンテーションやしおりの準備、合宿中も夜遅くまで仕事をしている様子を見て、私たち 1 年生がこの合宿を楽しく過ごせたことについて、先輩方の力は大きいものだと感じました。来年は先輩になるので与えられた仕事をきちんとこなし、合宿を支える一員として頑張りたいと思いました。今回、私は 2 日目の途中で帰ることになってしまい、キャンプファイヤーやディスカッション、同期会などに参加できなかったことを悔しく思います。来年は最後まで参加して、縦横のつながりを深められるようにしたいです。最後に、このような機会を与えてくださった梅沢先生、企画運営にご尽力いただいた先輩方に心より御礼申し上げます。

大東文化大学　文学部　日本文学科　1 年　古川礼花

私は今回、初めて夏合宿に参加させていただき、日大や大東、先輩や同期関係な

く交流を深めることが出来ました。合宿へ行く前は、関わったことがない人と仲良くなれるか不安でいっぱいでした。ですが、今まで話したことなかった人と仲良くなれたり、縦と横の繋がりを増やす良いきっかけとなりました。また、自分から積極的に話しかける勇気も身につけることが出来ました。そして各々役職に就き、夏合宿をより良いものにするために頑張ってくださった先輩方の姿を近くで見ることが出来たことが、私にとって良い刺激となりました。みんなのために頑張っている先輩方はかっこよくて、私も来年役職をもらい、先輩方のようになりたい！そんな先輩方を超えられるようになりたい！という目標が出来ました。こんなことは口ではいくらでも言えますが、口だけにならないよう今まで以上に精進して行きたいと思います。今回、こんな素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生をはじめ、各宿舎のオーナーをはじめとする従業員の皆様、先輩方、そして同期のみなさん本当にありがとうございました。

大東文化大学　法学部　法律学科　１年　松本浩太朗
夏合宿を通して学んだことは大きく分けて 2 つあります。1 つ目は積極性を大切にすることです。日大生との交流の際に今回の夏合宿では自分から進んで話すことを心がけました。その結果多くの友人を作ることができ、連絡を取り合える友人が出来たのはとても貴重だと思い、これからも積極性を大切にしていきたいと思います。２つ目は役割の大切さを学びました。生活班やイベント班などの役割をやっている先輩を見て夜遅くまで仕事をしたり、朝早く起きて準備したりする姿を見て先輩たちや梅沢先生にはとても感謝しています。ありがとうございました。そして自分が２年生のときには役割をしっかりこなしていきたいと思いました。夏合宿を通して自分の積極性や与えられた役割をしっかりこなす努力を今後の大学生活でも活かしていきたいと思い、夏合宿を参加させて頂きとても良い経験になりました。また来年も宜しくお願い致します。

大東文化大学　法学部　法律学科　１年　苗村好希
今年の夏合宿は私にとって初めてでした。夏合宿に参加して感じたことが２つあります。1 つ目は先輩や同期との親睦を深められたと思いました。なぜなら今回の夏合宿で私は大部屋でした。先輩や同期、日大の方たちと同じ部屋で 2 日間過ごしました。当然、お風呂も大部屋の仲間と共にしました。2 日目には山登りも体験し、他の班の方や日大の方ともお話しする場面が多くありました。そのことから先輩にも名前を覚えてもらうことができ、同期の友達を増やすことができました。２つ目は先輩方がやはりすごいと感じたことです。私は今回が初め

ての夏合宿で分からないことが多々ありました。その時に教えてくださったのが同じ班の先輩や同じ宿舎の先輩でした。先輩方は 1 年生を誘導する時も迅速に誘導していてやっぱり先輩方はすごいと思いました。この夏合宿を終えて自分の未熟さを知りました。1 年生の頃からこのような貴重な経験をできて嬉しいです。

大東文化大学　経営学部　経営学科　1 年　吉川舞
私は今回の夏合宿を通して人脈を広げることができました。今まで日大の方と関わるのはワークショップで見かける程度で話す機会はありませんでしたが、夏合宿では宿舎やディスカッション班が大東と日大が合同だったため話す機会がありました。最初は緊張していましたが、3 泊 4 日という期間で徐々に話すことができました。特に同じ宿舎だった人とは 1 つの部屋にみんなで集まり話すことで多くの人と話せました。3 日目ディスカッション班では初めて会う人もいるなかでそれぞれの意見を言い合うことで緊張が和らぎました。また、意見を聞くことで自分にはない考え方も知ることができ貴重な時間でした。行き帰りのバスも隣の席は話したことのない人でしたがこれを機に話すことができて良かったです。2 日目の山登りでは辛い経験をしたことでより一層班員との仲が深まった気がします。私は山登りが初めてで、想像よりも辛くゴールが見えませんでしたが道中では班員と話したりして辛さを乗り越えられました。山頂で見た景色はとてもきれいで大きな達成感を得ることができ、とても良い経験でした。このような様々な経験ができた夏合宿に参加して良かったと感じています。
夏合宿を企画してくださった梅沢先生、様々なイベントを考えて楽しませてくれた先輩方に感謝します。ありがとうございました。

(7 班)

大東文化大学　経営学部　経営学科　4 年　上假屋優花
最後の夏合宿は、沢山の人に支えられた 4 日間でした。私は今回、生活班と会計班の他に、めるへんひゅっての宿舎長を務めさせて頂きました。今まで当日の運営に携わったことが殆どないうえに、もともと先頭に立って引っ張ったり纏めたりすることに苦手意識を感じていたので、宿舎長の任命が決まった時は不安でいっぱいでした。しかし、当日はめるへんの生活班の山口、赤坂、菅谷が率先してくれ、少しずつ不安が消えていきました。また、生活班以外のメンバーも「何

かやることはありませんか」と聞いてくれたり、宿舎内の様子を見て相談してくれたり、一人ひとりが夏合宿を成功させたいという気持ちを持っているのを感じ、めるへんの宿舎長を務めることができて良かったと思いました。また、準備期間と当日は、自然と同期に相談したり頼る場面が多くありました。昨年の夏合宿で行われた同期会では、大東と日大の壁を感じることが問題点としてあがっていましたが、今年は壁を感じずに準備期間から当日まで同期みんなで取り組めたのではないかと感じました。今年の夏合宿は、天候に恵まれなかった関係で例年より少し交流する場が限られてしまいましたが、例年以上に充実した夏合宿となりました。残り約半年間はアカデミーに貢献しながら、同期や後輩と沢山の思い出を作っていきたいと思います。この度は貴重な機会を与えて下さり、誠に有難う御座いました。

大東文化大学　経営学部　企業システム学科　３年　高橋慧

今回の夏合宿では色んな方面から責任の重さを感じたということが一番印象に残った夏合宿でした。理由としては３つあり、１つ目が後輩から「慧さんこれはどうしたらいいですか」「慧さん大変そうですね」といった質問や心配の言葉をかけられて、運営する側として心配をさせてしまったことなどを踏まえて上級生としての自覚をもって行動しなければならないなと実感しました。２つ目は撮影班班長として務めさせて頂いたことで、事前準備が必要な撮影班の仕事も至らないことが当日になって明らかになってしまったことがとても悔しくてさらに念入りに考え込まないといけないなと感じました。３つ目は自分たちが今３年生で来年は自分たちが主体となって運営しなければならないと総括の際に４年生から来年は期待しているという言葉を頂いて気付きました。この３つの責任は夏合宿におけること以外でも同じだと考えています。そのため日々の活動ではより一層気を引き締めて参加していきたいと考えております。また、感想といたしましては後輩が２学年もできたため１年生をリードする２年生をみて成長を感じたことが印象的でした。そのほかにも話しかけてくれた１年生が沢山いたために私自身大変嬉しさを感じておりました。１年生が大勢いる中で今回の夏合宿で関わることの出来なかった１年生など今後のアカデミーで関わっていきたいと思います。最後に貴重な機会を与えてくださり、誠に有難うございました。以上を夏合宿感想文とさせて頂きます。

大東文化大学　文学部　日本文学科　２年　野澤銀平

2 回目の参加となった今回の夏合宿で、私は移動班を務めさせて頂きました。去年はただ楽しむだけで終わってしまった夏合宿でしたが、今年は役職を与えられて、多くの時間を先輩方と過ごしたことで、改めてこのような大きな組織をまとめあげている先輩方の偉大さに気づくことが出来ました。私は今回の夏合宿に参加して良かったと思う点が 2 つあります。1 つ目は、同期の仲がさらに深まったことです。3 日目に行われた同期会では、大東も日大も関係なく話す機会に恵まれ、双方のアカデミーの様子や班で行っている活動のことなど、実に様々な情報を交換し合うことが出来ました。そのことにより、アカデミーに対するモチベーションが上がっただけでなく、話題を共有出来たということから、今までで以上に交友を深めるきっかけになったと考えます。2 つ目は、最終日に行われた総括です。アカデミーに 1 年間在籍し、先輩方と活動を行ってきたことで、去年とは違った思いで総括を聞いていました。1 年生の頃は、4 年生の方々が感極まりながら話されている姿を見て、なぜここまで涙を流しながら話をされているのだろうといったような疑問を抱いていました。しかし、実際に仕事を任されて多くの先輩方と行動を共にしていくうちに、少しずつですが、4 年生の夏合宿に対する思いや責任感に触れることが出来ました。このような気持ちで最後の総括に臨む姿はとても輝いて見え、自分もこうなりたいと強く実感しました。今回の夏合宿を通じて、より一層同期の繋がりを強いものにできたと痛感しています。また、先輩方のような頼れる人間になりたいという明確な目標も出来たため、より実りのある夏合宿になったと感じています。最後になりますが、このような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生を始め、運営、企画に携わってくださった先輩方に心より御礼申し上げます。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　２年　八木澤寿幸

今回の夏合宿を通して、アカデミーの組織の凄さと先輩方の人間力の高さを再認識できたとともに私自身を大きく成長させてくれました。夏合宿では、イベント班として活動させて頂きました。私は役職を頂けるとは思っていなかったので、どのような行動をしてよいか分かりませんでした。しかし夏合宿前のイベント班での活動で、尊敬している先輩方の必死さを見て、私は先輩方を少しでもサポートできるように行動しようと決めました。しかしイベント班として一番大切だと言っても過言ではないキャンプファイヤーで、任された仕事が出来なかったです。先輩方には本当に申し訳なかったです。キャンプファイヤーでの後悔は、後輩達に去年私が経験した感動を体験させることが出来なかったことです。来年は必ず最後まで後輩達に、キャンプファイヤーを体験してほしいと強く思います。1 年生の頃も先輩方は凄いと思いましたが、2 年生になり夏合宿は視点

を変えて参加しようと決めました。そしてまだまだ分かっていないと思いますが、梅沢先生と幹事の方々と各班との組織としての凄みを感じました。梅沢人間力アカデミーに入っていることで、他人に差をつけることが出来る理由を改めて分かりました。山登りではWS班で登り日頃では話さないことを話せて、班員の新たな一面を見ることが出来ました。去年より多くのことを話せたのではないかと感じました。ディスカッションではディスカッション班に分かれてWS班とは違う人と話し合いをさせて頂いて、自分にはない考えを持っている人の意見を聞けたのが、大きな収穫ではないかと考えます。総括では先輩方の話を聞いて、夏合宿に懸ける思いは私の想像をはるかに超えると感じました。来年は先輩方のように、素晴らしい行動ができるようにしたいと考えます。そのためにも後期のアカデミー活動では今以上に人間力を高め、先輩方を驚かせるぐらい成長したいと思います。

大東文化大学　経営学部　経営学科　２年　山崎結依菜
今回の夏合宿は 2 度目の参加だったのですが、昨年は沢山の人と話すことを目標にしていたのに対し、今年は同期や先輩の動きを見ながら来年自分たちがどのように動いたらいいのか注目し、参加させていただきました。夏合宿を成功させるために、先輩達がどのように動いているか、1年生の時には気付かなかったことも気付くことが出来ました。また、夏合宿で 1 年生や日大の先輩と仲良くなったということを実感しました。来年は 3 年生として、みんなに楽しんでもらえるような夏合宿が出来るように頑張っていきたいです。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　２年　松江海斗
夏合宿の目標として大東生、日大生問わず多くの人との交流を深めるということを目標に夏合宿に参加しました。夏合宿を通して同じ宿舎だった人やディスカッションを通して多くの人と会話ができました。普段あまり絡みのない日大生とも会話することができ、サークルについての新しい発見もありました。社会人交流会には 2 年ながら新規で入ったため、夏合宿は初参加で不安もありましたが充実した 3 泊 4 日を過ごすことができました。今回の夏合宿では役職についていなかったので、来年の夏合宿では役職につきたいです。

大東文化大学　経済学部　現代経済学部　２年　横山聖也

私は今回夏合宿に参加してたくさんのことを学びまた感じました。まず自分が未熟だと痛感したことです。これはディスカッションのときにとても感じました。自分はディスカッションの副班長だったので、少しでも先輩方の負担を減らせるように頑張ろうと思いましたが、結局何も力になれず何もできないまま今回のディスカッションは終わってしまいました。そこで先輩方の大人数の場の回し方や一人一人の意見のまとめ方など改めて凄いなと感じました。また今回は学年が 1 つ上がり初めて先輩という立場で参加し、去年とはまた違った目標や視点から臨む事ができました。その目標の 1 つとして、後輩たちに笑って楽しい夏合宿だった言ってもらえるように努力することでした。夏合宿が終わったときに一年生に聞いてみたところ全員が楽しかったと言っていたので、目標が達成できてとてもうれしかったです。今年は楽しんで終わる夏合宿ではなく、楽しみながらたくさんのこと肌で感じ学びました。この感じたことを忘れずに今後に活かしていきたいです。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　１年　大作優奈

夏合宿に参加する前に自分の中で 2 つの目標を立てました。1 つ目は、普段のワークショップ班から離れた状況でも臆することなく自分の意見を言うということ、2 つ目は、他大学の人と積極的に交流するということです。この 2 つの目標を達成できるように行動しようと決めました。4 日間すべての出来事が濃い経験でしたが、特に 2 日目の山登り、3 日目のディスカッション、打ち上げが心に残っています。山登りでは、普段の生活では味わえない自然を強く感じることができました。山道は急な傾斜、足場が不安定などと登るのに苦労しましたが、ワークショップ班の先輩や同期と励ましあいながら山頂まで登りきることができました。ディスカッションでは、日大と大東のアカデミー生で新たに結成された班という少し緊張感のある環境でのディスカッションとなりました。しかし、すぐに打ち解けあい話し合いもスムーズに進み、意見が言い易いようにと先輩のアシストもあったおかげで自分の意見をはっきり述べることができました。それだけではなく、日大生とはディスカッションする機会がなかったのでとても貴重な経験になりました。最後の打ち上げでは、全体で集まった後、学年ごとで分かれて交流会が行われました。私は、あぜりあでの交流会に参加しましたが、同期の話を聞くことで自分の価値観が広がっていくように感じました。また、アカデミーに入った頃より人と話すということに抵抗がなくなっていることに気づきました。この夏合宿を通して、少しでも自分を成長させることができたと私自身感じています。目標を決めることによって具体的にどのように行動すべきか明確にできたことが今までの私とは大きく変わった点です。そして、合宿前に立

てた２つの目標を達成することができたと思います。しかし、これに満足せず、今後のアカデミー生活も自分自身が成長できるように努めていきたいです。また、梅沢先生をはじめ、合宿を成功させるために動いて下さったたくさんの先輩方、お世話になった宿舎の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　１年　大峰脩季

夏合宿を終えて私はたくさんの人と交流をし、人を知ること自分を知ることを目標に夏合宿に参加しました。夏合宿初日、私は期待に胸をふくらませ集合場所である、池袋へ向かいました。池袋は大東文化生よりも比較的日本大学生のほうが多く、初めてお会いする方が多かったので多くの人と知り合えるチャンスだと思い気合十分でバスに乗車しました。バスでの一番の印象は、隣の座席の方との自己紹介そして他己紹介です。私の隣の座席だったのは日本大学の二年生の女性で、とてもフレンドリーな方でした。自己紹介ではお互い人見知りしない性格でしたので、最初からたくさんお話をさせていただき、以外な共通点や相違点で盛り上がりました。その後の他己紹介では、全員の前でその場に立ち上がり、紹介しあう形で周り方もいろんな個性を持っており、大変面白かったです。宿に到着し、同じ宿の方たちと初めて顔を合わせました。宿が一緒だった皆さんは、フレンドリーな方々ばかりで話しかけると笑顔で言葉を返してくれたり、向こうからよろしくと声をかけてくださったりすぐ仲良く打ち解けることができました。軽く挨拶が済んだ後すぐに全体での集まりで自己紹介をしました。そこで私はいろんな方に自分を知って欲しいと思いインパクトを残そうと冗談をはさみました。そのおかげで後に、あの冗談を言っていた人でしょといろんな方から話しかけられるようになったことが、勇気を振り絞って良かったと思いました。初日は、多くの方と顔見知りになることができ充実した初日を迎えることができたと思いました。２日目、WS 班で山登りをしました。山登りでは、みんなで苦難を乗り越え笑いあって班での結束がさらに高まったと思いました。そして夜はキャンプファイアー。私が夏合宿中一番楽しかったのはこのキャンプファイアーだと思います。社会人交流会のみんなが火をかこみ、歌って踊って最高でした。ただ途中で雨が降ってしまったのは残念でした。宿に戻り、宿のみんなで飲み会、そこでさらに宿のみなさんと仲良くなり宿での生活が一段と楽しくなりました。３日目、ディスカッション班に別れてディベイト。私はまた新しい集まりができ、胸を躍らせ 参加しました。ディスカッション班では、宿に一緒にいたり、声をかけて仲良くなるのとは違い、お互いに自分の意見を出し合い、この人はこうゆう風に考えるんだとさらに深く人について知れたと思います。私

はこのようにディスカッションをいろんな人を混ぜて取り組むという活動をもっとやってみたいと思いました。ディスカッションが午前、午後終わり、一日の締めの同期会。そこではいる人が皆、同期ということもありお互い気を使わず話せるのですぐ打ち解けることができました。最終日、初日のころとは違い、宿ではみんな挨拶を交わし合い話し合う光景が普通になっていた。最後の総括、前に立つ方が感想を述べているなか、泣いている方が私にはとても印象に残りました。私には涙社会人交流会の上下の繋がりの強さを物語っていると感じたからです。最後に、目標である　人を知ること　自分を知ることは大いに達成できたと感じた。夏合宿に参加して、十人十色いろんな人がいてそんな方達とお話ができて関係を作れる、これはほんとうにすごいことだなと感じることができました。これからも、社会人交流会に参加させていただき、もっともっと人脈を広げていきたいと感じました。夏合宿に参加させてくださり、ありがとうございました。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　１年　岸本康顕
私にとって今回の夏合宿は初めての夏合宿でした。その中で私は人と話す機会が多くありました。また、先輩方が大人数をまとめようと奮闘する姿や夏合宿を成功させようと自分の仕事を全うしている姿を見ることができ、感銘を受けました。私もこの社会人交流会で人脈を広げ、自分の仕事を責任を持って全うできるように今後の活動を積極的に取り組んでいきたいです。

大東文化大学　文学部　日本学部　１年　黒瀬泰雅
夏合宿はとても楽しかったです。私は夏合宿が始まる前、楽しみな気持ちと不安な気持ちが入り混じっていました。ほとんど知らない他大学の先輩や同期などと上手く話せるのか、仲良くなれるのかと不安でした。食事のときも今まで話したことのない人がいるテーブルに入れるのか心配でした。しかし、少し勇気を出して話しかけ、テーブルに入ることでみんな良い人が多くすぐに馴染むことが出来ました。夏合宿前に不安に思っていたことが嘘のようでした。夏合宿中に同期会などで仲良くなった他大学の同期とよく話すようになりました。夏合宿を終えて、少し勇気を出して知らない人に話しかけることがこんなにも大事なことだったのだと改めて実感しました。あの時話しかけられなかったら、とても楽しい夏合宿になっていなかったと思います。そして、梅沢先生や幹事団の皆さんのおかげで、私達新規生が楽しく三泊四日を生活することが出来ました。本当にありがとうございました。また、来年の夏合宿に向けて、生活班という役職に就

きたいと思いました。他のみんなの役に立ちたいからです。生活班の先輩方はほとんどの時間、部屋に居らず夜遅くに帰ってきていました。大変な役職だと思いますが、その分やりがいがあると感じました。私は、今回の夏合宿で学んだ経験をこれからの秋季ワークショップや他班とのご飯会など今後のアカデミー活動に生かしていきます。

大東文化大学　文学部　日本文学科　１年　齊藤貴士
私は夏合宿に参加できて本当に良かったと思っています。その最たる理由は、人脈を広げることができたことです。普段のアカデミーでは、基本的に同じ班のメンバーとしか関わりません。しかし、夏合宿には日本大学も参加するので普段では関わることのない人たちとも交流を持てました。これが成し得たのは同期会やディスカッションなど様々なイベントがあったことも大きな理由ではありますが、夏合宿の前にワークショップを行ったことも関係していると考えます。ワークショップでは多くの卒業生の方が「人脈は宝」「積極的に行動しよう」と仰っていました。そのお話があったからこそ、自ら積極的に話しかけようという意識を持って夏合宿に臨めたのではないかと考えています。最後に、このような機会を与えてくださった梅沢先生を始め、夏合宿を成功に導くために尽力してくださった先輩方には大変感謝しております。ありがとうございました。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　１年　関谷慶紀
私はこの夏合宿に参加するにあたって目標がありました。それは今まで喋ったことのない同級生、先輩方とたくさん喋り色々な人と触れ合おうという事を意識していました。ただそれと同時に不安もありました。今までとは違った環境で、慣れ親しんだ班員ではなく初対面の人と４日間同室で過ごし、打ち解けることができるのかという不安がありました。ですが、実際に合宿になり寮に行くと、部屋の先輩はとても優しく指示などもくれたのでとても頼りになり、この先輩たちと一緒の部屋でよかったなと思いました。部屋の日大の同級生ともすぐに仲良くなり盛り上がることができました。また寮長の須田先輩を初め先輩方がしっかりとした働きをしてくれたのでトラブルもなく楽しい寮生活だったと思います。寮で二日目の夜に行われた食事会では、色々な人と沢山喋ることができて交友関係がとても広がりました。二日目に行われた山登りは７班のメンバーと登り、途中疲れて大変だった時もありましたが、頂上まで登り切ったときの達成感はすごく景色もきれいで登ってよかったと感じました。夏合宿だけでの班でのディスカッションでは、皆あまり喋らず自分から会話に入ろうという意思

がみれず、そんななかでのディスカッションはとても大変で７班の班員がいかに優れているかを改めて実感しました。ですが４日目では３日目のディスカッションのときよりも積極性を感じられたので良かったです。この４日間の夏合宿を通して痛烈に感じたのは、先輩たちの偉大さです。２年生～４年生それぞれ役割を持ち周りを見て行動をしているのがとても印象的でした。夜遅くに会議をして寝る時間が遅くなっているのを聞いて本当にすごいなと思いました。これほどの事ができるのは夏合宿に対する熱意がとても大きいからだと思いました。４日目で先輩達が泣いてるのは心に残るものがありました。そんな先輩たちを見て自分も２年生以降は役割を与えられるように頑張ろうと思いました。合宿が終わり、沢山の人と触れ合い色々な体験をしましたが、失敗したなと感じたことがありました、それは合宿で知り合えた人達と夏休み何もなかったことです。折角知り合えたのに何もなかったのでこのままの薄い関係で終わってしまいそうなので、もっと何か行動を起こせばよかったと思いました。また、インターンシップにも落ちましたが、ここで終わりではないのでここで折れずに秋季ワークショップも頑張りたいと思います。

大東文化大学　法学部　政治学科　１年 相馬汐里

私は、事前に行われた夏合宿にむけてのワークショップの中で多くの先輩方からのお話を伺い、期待を膨らませると同時に、「新しい友人ができるのか」「登山は大丈夫だろうか」といった不安を抱いておりました。しかし今回の夏合宿は、多くの先輩方や他大生などとの人脈を広げることができ、また、学び多き合宿となりました。一日目のバスでは、まだ話したことの無かった他班の一年生や先輩方とレクリエーションを通し、仲を深めることが出来たと感じました。不安を感じていた二日目の登山は大変厳しく、途中何度も弱音を吐いてしまいました。しかし、頂上にたどり着き山頂からの景色を見渡した時、大きな達成感とその美しい景色に圧倒されました。三日目に行われた同期会では、今まで交流の無かった多くの日大生と知り合い、さらに人脈が広がりました。四日目の総括では、先輩方のお話をお聞きし、来年からは楽しむだけではなく先輩方のように感動して夏合宿を終えることの出来るよう、後期からも努力したいと感じました。最後に、このような素晴らしい機会を与えて下さった梅沢先生に厚く御礼申し上げます。

大東文化大学　環境創造学部　環境創造学科　１年　安田唯香

今回の夏合宿は、同じ大学の人だけでなく、他大学の人とも関わりさらに人脈を広げることができたらいいなと思い参加しました。私は、夏合宿参加前、同じ宿

舎にほとんど知り合いがいなくとても不安でした。しかし、何日間も一緒に過ごしたことにより、同じ部屋だった大東生とも日大生とも仲良くなることができました。夏合宿が終わった今は、ほとんど知り合いがいなかったという状況は、新しい友達を作るとても良い機会であったなと思いました。また、宿舎だけでなく、ディスカッションや同期会を通してもたくさんの人と関わることができました。特にディスカッションは、今までとは違う班で行ったことで、様々な人の意見を聞くことができとても新鮮でした。今回の夏合宿を通しての出会いを、今回だけのものにしてしまうのでなく、これからも今回の出会いを大切にしていきたいと思います。一年生として参加させていただいた私たちは、ただ参加するだけになってしまったが、私が今回楽しく参加できたのもたくさんの人々のおかげであったなと思いました。こんなにも大人数をまとめ、不測の事態にもしっかり対応していた先輩方の凄さを改めて感じることができた夏合宿でした。学生だけで組織を運営することは、とても大変なことであるが、とてもよい経験になるなと思いました。今回とても充実した夏合宿にしてくれた先輩方に少しでも近づけるよう、これからのアカデミー活動も頑張っていきたいです。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　１年　鎗田耕成
今回の夏合宿は、人脈を広げるということを目標として臨みました。結果的には新たな友人もでき、とても楽しく充実した三泊四日でした。合宿で印象に残ったのは、先輩たちが自分の役割をきちんとこなしていて、ちょっとした出来事にも臨機応変に対応していたことでした。そういう姿を見てとてもかっこいいなと思った反面、来年先輩たちみたいになれるのかという不安があり、そのうえで頑張ろうと思いました。

(８班)

大東文化大学　文学部　英米文学科　４年　洞江はるか
今年の夏合宿は、私にとって最後の夏合宿でした。今までの夏合宿の中で一番達成感を感じることができた、とても楽しい夏合宿でした。今年の夏合宿では、ディスカッション班の班長を務めさせて頂きました。今まで私は班長やリーダーとしての経験があまりなかったので、自分に班長の仕事が務まるのか不安でした。しかし、それと同時に、最後まで責任を持ってやりきり、夏合宿を成功させたいと思いました。夏合宿中は、240 名の学生を動かすことが思っていた以上に

大変でした。突然の雨でディスカッションが中断されることもあり、予定通りに進まないこともありました。そういった中で、同期や幹事と連携をとりながら夏合宿を無事成功させることができとても嬉しかったです。夏合宿終了後、１年生から、「夏合宿に参加して良かった」「大学間を超えて友達が沢山増えた」といった言葉を聞いた時は、とても達成感を感じました。また、夏合宿を通して、改めてアカデミーの素晴らしさを感じ、ここまで辞めずに続けることができて本当に良かったと思いました。残りのアカデミー生活では、今までアカデミーで貴重な体験をさせて頂いた恩返しができるよう、アカデミーに貢献していきたいと思います。このような素晴らしい夏合宿を開催して下さった梅沢先生に心から感謝致しております。

大東文化大学　法学部　法律学科　４年　中村祐

今回の夏合宿私は４年生であり、最後の夏合宿でした。この合宿で感じたことは２つあります 1 つ目は、今年も撮影班を務めさせて頂きました。撮影の仕事ではその場に行かないとわからないことが多いため、臨機応変に対応しなければと思っていました。しかし当日、山登りでの集合写真を撮る際に全員がうまく映れる場所が見つからず、かなり時間がかかってしまい移動班をはじめとするたくさんの人たちに迷惑をかけてしまったことが心残りです。２つ目は、後輩の頑張りが見れたことです。自分の WS 班の後輩が役職に就いて自分も頑張って何か力になろうとしている姿を見ることが出来ました。その姿を見て、来年からアカデミーの中心となる後輩たちに、何か一つでも残せるものを作りたいなと感じました。最後の夏合宿を終えて、当たり前のように、毎年行われていた夏合宿が来年からは参加できないのかと思うと、まだ実感が沸きませんし、あと半年もすればアカデミーから卒業しなければならないと考えると、更に感慨深いものがあります。今まで同期や後輩と共に過ごした時間は私の中で大切な宝物です。
今年も夏合宿を開催して下さり、誠に有難う御座いました。

大東文化大学　法学部　政治学科　３年　久保亮

今年の夏合宿は 3 年生ということもあり、先輩よりも後輩の方がはるかに多い立場にあったため、去年よりも後輩と仲良くなることをメインとしてこの夏合宿に参加致しました。バスの移動はもちろん、宿舎や食事の際も積極的に 1,2 年生とともに行動することを心掛けておりました。それが功を奏してか、初日から私の部屋に多くの後輩が集まり、トランプなどのカードゲームを通して仲良くなることができました。宿舎のみならず、山登りやディスカッションなどでも撮

影班として活動していた際に、「写真撮ってください」「久保さん頑張ってください」など多くの声をかけてもらい、去年よりもたくさんの人に顔と名前を覚えてもらうことができたと感じました。とても嬉しく思うと同時にもっと後輩たちに楽しんでもらおうという気持ちが湧きあがり、そのために自分ができることは何かを考えて積極的に行動しました。改めて今年の合宿を振り返ると、主に後輩たちを楽しませることを一番に考えていたと感じました。実際に合宿が終了したあとに、多くの後輩から「合宿とても楽しかったです」「夏休み明けのアカデミー活動でもお話ししましょう」などの LINE メッセージをいただき、楽しませることができて本当に良かったと強く思いました。来年は 4 年生として、主体となって全員をまとめ上げ、尚且つ楽しませる立場として合宿に参加するということで、これまでの経験を用いて素晴らしい合宿にしていきたいと考えております。そのためにも同期と協力し合い、今年の幹事長の佐野さん、小口さんをはじめとした 4 年生全員の動きを間近で見て感じたことを参考にして、これまで以上の素晴らしいものにしていきたいです。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　２年　鈴木詩織
私は夏合宿を迎えるにあたって一方的に認知するのではなく、相手にも私のことを知ってもらうことを目標にして臨みました。夏合宿を振り返ってみると概ね達成できたと思います。私は今まで後輩と接することに慣れていなかったため戸惑っていましたが、ディスカッション班や同じ宿舎の１年生が声をかけてくれて嬉しかったです。また、多くの同期が役職をいただき活躍していました。私も役職をいただきましたが私なんかと比べものにならないくらいキビキビと動いていて凄いな、私ももっと頑張らないと置いていかれる、そんな同期の足手まといになりかねないと思いました。今後同期に置いていかれないようにどうしらいいか、何をすべきか考えながら毎回の活動に取り組みたいです。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　２年　高野直紀
今年の夏合宿は私にとって 2 度目の夏合宿でした。今回の夏合宿は、自分の積極性の無さを実感するとともに、周りの同期との差が出てしまった夏合宿だったと思います。今回、私は 2 年生という事もあり、宿舎の部屋長という役職を頂きました。役職を頂いたのが初めてだったという事もあり、同じ部屋の人達に連絡事項を伝えたり、点呼を取ったりという事しか出来ず、周りを見て積極的に手伝ったりなどの行動をする事が出来なかったと感じました。しかしそれ以上に強く感じたことは、撮影班や移動班、生活班などの大きな役職を得て、仕事をし

ている同期を見て、この夏合宿で同期との差が広がってしまったと痛感しました。今後はこの差を少しでも埋められるように、努力していきたいと思います。また、今回の夏合宿では、去年の１年間では話すことが出来なかった、同期や先輩、後輩とも沢山話すことが出来、とても充実した夏合宿になったと思います。まだアカデミー生の中には、話したことない人も沢山いると思うので、これからのアカデミー活動で関わっていけたらと思います。以上の反省を生かし、来年度の夏合宿では積極的に運営などに携わっていきたいと思います。また、アカデミー活動も積極的に一生懸命取り組んでいきたいと思います。

大東文化大学　国際関係学部　国際関係学科　２年　中山恩恵
夏合宿の感想といたしましては、学年がひとつ上がり去年と違った目線だったので、学ぶ事が多かったです。今年は、役職をもらったのにも関わらず、先輩方の力になれませんでした。なので、先輩方がなにをしているのかを見ることを中心に夏合宿に参加しました。目的をもって参加した為去年とは違った目線で楽しむ事が出来ました。その一つに、後輩に楽しかったと言われ自分も嬉しかったです。去年は自分主体で楽しみましたが、今年は、自分以外の相手が楽しんでいるのを見てとても嬉しい気持ちになりました。先輩になり、学ぶことも多く、楽しいだけでは終わらない夏合宿となりました。

大東文化大学　法学部　政治学科　１年　五十嵐彩音
私は夏合宿に参加することを通して多くの人と関わりを持つことの楽しさを改めて学びました。最初は、合宿にいつも親しくしている友人が参加していなかったことと、新しく会う人とうまく話すことができるかどうかということで頭が不安でいっぱいでした。しかし、同じ班の先輩の友人の方が話しかけてくれたり、同じ部屋の人たちと仲良くなることができたりするうちに少しずつ不安が無くなりました。その後は、自分から話しかけたり関わったりすることができました。また、同期だけでなく先輩方、日大の方々とも話すことができました。今までも人との出会いを楽しいと思う機会はありましたが、今回の合宿での新しい出会いは今までよりもとても印象に残り、楽しいと感じました。夏合宿に参加するかどうかとても迷っていましたが参加して本当に良かったと思います。また、夏合宿を良いものにするために寝る間も惜しんで頑張っていたり、大人数をしっかりとまとめていたりする先輩方を見て、改めて先輩方の偉大さを感じました。そんな偉大な先輩方に少しでも近づけるように、そして今回できた友人との関わりを大切にしてこれからのアカデミー活動に積極的に参加していきたいと思い

ます。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　池田悠樹
今回の夏合宿に参加させていただいて、貴重な経験だったと同時に、初対面の先輩や同期と仲良くさせていただいたことがなにより１番の思い出でした。バスレクや山登り、キャンプファイヤーなどの多くのイベントのなかで社会人交流会の方々といろんなお話をさせていただいたり、協力して行動するということが多かったので、コミュニケーションをとりながらいい関係を築いていくことが魅力的だなと思いました。ディスカッションでは、普段のワークショップ班とは異なるメンバーで活動したので、最初は不安でしたけど、いろんなことを話すにつれ、とても新鮮な気持ちになりました。2 泊 3 日という短い時間でしたが、たくさんの方々と関わることができ、素晴らしいなと思いました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　高和弘
今回の夏合宿に参加する前は、自身の怪我の諸都合で山登りに参加出来ないと分かっていたので楽しめるか不安でした。しかし、とても楽しむ事ができ、貴重な４日間を過ごせたと思いました。夏合宿の様々な活動を通じて、感じたことが大きく二つあります。一つ目に友達がたくさんできた事です。合宿中のディスカッション班の活動、同期会、宿舎が同じ人とご飯を食べたりする様々な場を通じて、普段話す機会のないワークショップ班が違う方々、大学の枠を越えた同期、先輩方と話す事ができました。秋季ワークショップ等では、日大生の友達と会える機会があるので、これからのアカデミー活動が楽しみになりました。二つ目に臨機応変に対応する力です。キャンプファイヤーで本来やろうと思っていたレクが天候によりできなくても翌日の打ち上げの予定を少し変更して皆が楽しめるように計画していた先輩方々は、普段の行動よりも時間を要する集団行動で臨機応変に対応していて、凄いと感じました。自身もこのような臨機応変に対応できるような人になりたいなと思いました。最後に普段に皆で行かないような自然に囲まれた環境でこのような夏合宿という貴重な機会を与えて下さった梅沢先生、宿舎の方々に心より御礼申し上げます。そして、夏合宿の企画、運営をして下さった先輩方には、とても感謝しています。本当にありがとうございました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　１年　杉本星夜

夏合宿を通して、これまでにない貴重な経験や学びを習得することができました。1 日目の自己紹介では、とても緊張しましたが、他の新規生は、笑顔で明るく話せていたので、自分のコミュニュケーション能力の無さを痛感しました。2 日目の山登りでは、予想以上に大変でしたが、登山中に周りの人と会話したことにより、8 班の仲がより深まり、他班の人と仲良くすることができたのでとても良かったです。登頂した時は、達成感と充実感が湧いてきました。3 日目の班別ディスカッションでは、自己紹介の時から、班との仲を深めることができ、一人一人の意見を聞いて、視野が広がり、良いものを吸収できました。4 日間を終えて、率直に思った事は、先輩の偉大さです。先輩方は、素晴らしい合宿にするために、1 年生がゆっくりしている時も、活動してくれたり、みんなをまとめたり、計画を立てたりしてくださったので、先輩の活躍なしでは合宿は成り立ちませんでした。そして、これから信頼して付き合っていけるような仲間ができ、そして先輩方からたくさんの有意義なお話を聞かせてもらうことができました。この合宿での経験を大切にし、これからの活動に励んでいきたいです。

（９班）

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　４年　清水皓平

今年の夏合宿は、私にとって四回目の夏合宿となりました。年々、顔と名前が一致するアカデミーの仲間が増えていき、三年前の夏合宿と比べて、余裕ができたと感じました。そのおかげか、心に余裕をもって話したことのない一年生ともお話をすることができました。今回の夏合宿で、特に印象に残ったことは、二つありました。一つは、はじめて夏合宿で宿舎の部屋長という役職をし、楽しむ側ではなく、楽しませる側にたったことです。私はもともと人見知りで、自分から話の話題を振ることがとても苦手です。そのため、部屋員をまとめることがとても大変でした。そんな中、後輩が私に「しみこう先輩」と慕って話しかけてくれたことがとても嬉しかったです。私はこのようなことから、梅沢人間力アカデミーは同期だけでなく、先輩後輩の信頼関係がしっかりしていてすばらしいと改めて感じました。二つ目は、最後の夏合宿としての想い出です。私はディスカッション班の仲間で、大東と日大の壁を越えるようにするにはどうすればよいのか、真剣に話をすることができました。お互いに本音を言い合い、同期の仲間と意見を共有することができました。そんな中で、自分も今まで以上に、自分だけでなく身の回りの社会に貢献しなくてはいけないと強く感じ、人として成長することができました。来年は社会人となりアカデミーを卒業しますが、ここで得た経

験を、精一杯全力で社会に貢献できるよう活かし、頑張っていきたいと思います。

大東文化大学　経営学部　経営学科　４年　的場麻美
私は今年で 4 回目の、最後の夏合宿でした。今回の夏合宿を通して強く感じたことが 2 つあります。1 つ目は同期の大切さです。昨年の夏合宿のときには、来年私たちが最高学年となって今までの先輩方のようになれるのだろうかと不安しかありませんでした。しかし、今年は幹事を中心にどんなことにも臨機応変に対応することができ、今までと同じくらい最高の夏合宿にすることができたと感じています。4 年間みんなと活動をしてきて、今までの友達とは違うかけがいのない仲間ができました。卒業までの残り僅かな時間を後悔のないよう、これからも沢山の思い出を作っていきたいと思います。2 つ目は自分自身の力の無さです。夏合宿を通して、私は今まで後輩指導ができていなかったことを痛感しました。私は今回会計班と撮影班に所属しており、活動の中で班長や 4 年生として後輩のためになる行動をしなければならないのにも関わらず、自分本位の行動になってしまいがちでした。そのため、残りの半年では 2、3 年生に積極的に仕事を振ったり、私の持てる知識をできる限り伝えていったりと、後輩のためにどう行動をすべきかということを常に心掛けて日々邁進していきたいと思います。最後になりますが、今年も夏合宿という素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生に誠に感謝しております。ありがとうございました。

大東文化大学　文学部　日本文学科　３年　赤坂聖馬
今回の夏合宿で感じたことは、全体を見ることの難しさと同期の大切さです。統括幹事の小口さんと佐野さんを中心に、4 年生の幹事の皆さんが夏合宿の運営をしている姿を見ていて、先輩方の凄さと頼もしさを改めて実感しました。夜遅くまで翌日の日程を確認したり、何かあるごとに連絡を取り合っていたりと、アカデミー生全体を動かすために尽力している姿がとても印象的でした。私自身も上假屋さんの指示のもと、めるへんひゅって全体を見るということをさせていただきましたが、うまく運営することが出来ずに 2 年の小菅、菅谷、山崎に頼りきりになってしまいました。彼女たちが私たちの指示に迅速に対応してくれたおかげで、なんとかスムーズにめるへんひゅって全体を動かすことが出来ました。来年は、最高学年としてアカデミー生全体を引っ張っていく立場となるので、今回の夏合宿の反省を活かしたいと考えています。また、同期がそれぞれの役割について仕事をこなしている姿を見て、来年の夏合宿がとても楽しみになりました。3 年生は人数こそ少ないですが、一人ひとりの個性が非常に強くてとても

居心地が良いと感じました。3 日目の打ち上げの同期会では、他愛もない話で盛り上がりました。卒業まで同期が一人も欠けることなく活動していきたいと強く思いました。今回の夏合宿は、幹事補佐と生活班を兼任させていただいて、非常に学びのある合宿となりました。この学びを来年に活かして、今回の夏合宿以上に活発な夏合宿にしたいです。

大東文化大学　法学部　法律学科　２年　梅林傳嗣郎
今年の夏合宿を通して私は、気がついたこと二点と今後の課題一点があります。まず、気がついたことの一点目は、同じ班の後輩の成長です。四月にアカデミーに来たときは表情が硬く、自ら人に話しかけることができていない後輩がほとんどでした。しかし、今回の夏合宿では全員が自ら話しかけ、宿舎ではカードゲームに誘っている姿を見ることが出来ました。今後の成長が楽しみになるのと共に私自身、後輩に負けられないという危機感を持ちました。二点目は、役職について夏合宿を成功させるために頑張っている同期の姿です。私は役職にはついていませんでしたが、合宿の同期会で同期から話しを聞くと、顔つきが生き生きとしていて羨ましい気持ちと悔しい気持ちがこみ上げてきました。ですが、役職についていないことで時間に余裕ができ、役職についている人の手伝いや沢山の人と関わることができました。今後の課題としては、日々成長している後輩への接し方と指導の仕方を模索して更なる成長につなげられるように努力をしていきます。また、私自身、次回のイベント等で役職をいただけるように積極的にアカデミー活動に取り組んでいきます。最後にこのような貴重な機会を与えて下さった梅沢先生をはじめ、幹事団の皆様、戸隠の皆様に御礼申し上げます。以上、私の夏合宿の感想とさせていただきます

大東文化大学　法学部　政治学科　２年　及川真子
今年の夏合宿は生活班となり、去年とは違った立ち位置で参加しました。私は正直言うと生活班としての役割を果たせるかどうか合宿前まで不安でした。宿舎の高妻ロッジでは生活班経験者が日大 4 年の根本萌さんかしかおらず、後は 2 年生だけで根本さんが会議などで抜けた場合、ゼミ生を監督出来るかなど思うことは多かったです。しかし、生活班 2 年の野田と隆が自分以上にしっかりと仕事をこなしていて、自分が不安に思っていたことはなく、一緒に協力して頑張れました。根本さんも宿舎を離れる際に、2 年生の私達に指示をしてくださって、やることが明確だったため、動きやすかったです。高妻ロッジの生活班として働けて良かったです。また、高妻ロッジの様子としては、1 年生と既存生が仲良くな

るのが早く 2 日目の朝から先輩と一緒にごはんを食べる 1 年生も見られました。宿舎での飲み会は大いに盛り上がりました。そして、2 年生会では當間、野田、佐藤、林田などの男子が日大大東で話しやすいように、仕切ってくれてとても楽しい会となりました。普段は一緒に働かない同期、先輩と共に過ごし知らない一面や、学ぶことが多く、今回の夏合宿は去年より素敵なものになりました。来年も生活班として頑張れたらよいなと思います。

大東文化大学　文学部　日本文学科　１年　石井秀弥
夏合宿を終えて、先輩たちのすごさを改めて実感した。夏合宿前は、他の班と関わることが少なく、夏合宿に行ってもしゃべれないのではないかと思っていた。しかし、1 日目から、先輩方が日大大東問わず話しかけてくれ、また、仲良くなれるようにサポートしてくれたおかげで、多くの人と関わることができ、友達もたくさん増えた。また、移動班、イベント班、生活班…など、役職に就き、夜遅くまで活動しながら、辛そうな様子を出さないで、場を盛り上げてくれ、4 日間を非常に充実したものにしてくれた。そして、来年の合宿での目標もできた。それは、今度は自分が先輩たちと一緒に、充実した合宿を作っていき、新 1 年生を楽しませることである。しかし、今の自分のままでは、人を楽しませることや、より良い合宿づくりに貢献する能力はまだまだ足りない。だから、これからのアカデミー活動で、人間力を向上させ、成長していきたい。来年の合宿も楽しみである。

(１０班)

大東文化大学　文学部　英米文学科　４年　安岡万菜
今回の夏合宿は 4 回目で私にとっては最後の参加でした。自分たちが 1 番上というのは、予測しないことが起きた場合に頼れる先輩方がすぐ近くにいないため、全て自分たちで考え、周りに素早く的確な指示を出さなければいけない状況でした。私は勧誘班班長の他にアコールデの宿舎長も任せて頂いたのですが、先を見据えて指示を出すことの難しさを合宿中毎日感じていました。しかし、同期が円の中心に立って声を張り上げながら周りに指示を出している頑張りを見るたびに、私も頑張ろうと勇気をもらえていました。また、率先して 1 年生をまとめてくれる 2、3 年生の存在も私の中で大きく、頼もしい後輩がいて本当に良かったと思いました。同期にも後輩にもサポートしてもらいながらの夏合宿だっ

たので、残り半年間ではありますが、少しずつ恩返ししていけたらと思います。振り返ってみれば、ただ参加して楽しんでいただけの 1 年目。役職をいただいて必死に先輩たちについて行った 2 年目。4 年生の偉大さを真近で見ることができ、来年も絶対に成功させると誓った 3 年目。そして悩みながらも自分たちが中心となって夏合宿を作り上げた 4 年目。夏合宿にはこれまで 4 回参加しましたが、学年ごとに目標とすることや感じることが異なりました。しかし、4 回とも楽しい 4 日間であったことと、参加して良かったと思えたことに変わりはありませんでした。今年も夏合宿を開催してくださり、ありがとうございました。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　３年　南雲大輝

今年で 3 度目の夏合宿への参加となりました。一昨年と去年の夏合宿と比べると異なった点が幾つかあったため、刺激的な 3 泊 4 日を過ごす事が出来ました。まず、初めて班の役職に就かせて頂き、イベント班の班員としてバスレクの司会やキャンプファイアーでの設営関係の仕事などを務めさせて頂きました。これらの仕事を通して一番強く感じた事は、周りにいる同期や後輩たちの大きな存在でした。去年までの夏合宿では、ただ楽しむ側として合宿に参加していたのですが、今年は同期と協力をし合ったり、お互い助け合ったりしながら、参加者全員を楽しませるように心を一つにして仕事を全うすることができました。イベント班での仕事を通して、先輩や同期、後輩たちとの絆を深め、また信頼関係を築くことが出来たのでとても良かったと感じています。３日目のディスカッションや親睦会では、今まであまり関わりを持つ事が出来なかった日大生たちと交流を深めることができました。今年は去年以上に一年生の参加人数が多かったので、その分今まで話したことが無かった後輩たちと関わる機会を多く持つことができ、新たな人脈を広げることができたので非常に嬉しかったです。また、私にとって一番刺激的だった事は、4 年生の先輩方が懸命に頑張っていた姿でした。総括で涙を流しながら語っていた姿は今でも非常に印象に残っています。私も来年は最高学年として夏合宿に参加させて頂けるように、今後のアカデミー活動を頑張っていこうと強く感じました。最後になりますが、今回このような貴重な機会を与えてくださった梅沢先生をはじめ、今年の夏合宿を盛り上げるために懸命になって頑張ってくださった先輩方、共に協力してくれた同期や後輩たちに感謝申し上げます。本当に有難うございました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　２年　國島拓己

今年の夏合宿を終えて、たくさんの事を学べました。今回の夏合宿は社会人交流

会の中での立ち位置が 1 年生から 2 年生になり、多くのことが変化したと思います。去年は自分は単純に友達が出来て、先輩達とも関わりいい夏合宿になっていました。今年は 2 年生となり役職に付き頑張ってる同期や先輩方を見て積極的に行動しなくてはならない夏合宿でした。それぞれの場所で班員と共に行動して夏合宿を頑張ろうと企画したり盛り上げたり出来たのは非常にいい経験になりました。そんな中で日大や大東の新しい同期と繋がれたり、ディスカッションや、宿舎などで 1 年生とも仲良くなれ、いい思い出です。山登りも班のみんなが楽しそうに登ってる姿を見て山登りはきついところもあるけどその中でも楽しいところやみんなで頑張れるところがすごくいいものだと思いました。自分は去年に比べるとこの社会人交流会で頑張ろうという気持ちがすごく強くなりました。たくさんの人と繋がることが出来て、その中でそれぞれの人の就職や、今後の大学生活について聞けたことがとても素敵だと感じました。そんな夏合宿の中で、3 年生と 4 年生の頑張ってる姿かとてもかっこよく、自分もあんな先輩になれるよう頑張ろうと思いました。この合宿は去年も良かったのですが、新しい事に気づき、先輩達のようにかっこよくなりたい、来年も頑張りたい、そう思える合宿に自分の中でなりました。こんな貴重な経験をできた夏休みがとても嬉しく思います。これからは、今まで以上に社会人交流会をがんばろうと思います。

大東文化大学　経営学部　経営学科　２年　野田伊吹
夏合宿では生活班を務めさせていただき、そこで多くのことを学ぶことができました。まずはアカデミー全体の動きを把握し自ら率先してまとめていくことの難しさです。こういった大人数での集団生活をする事はあまりないと思うので貴重な体験ができました。そして、情報伝達の重要性についても気づかされました。合宿以前から打ち合わせなどを行い当日混乱の内容に計らってはいたのですが、やはりハプニングはつきもので色々とイレギュラーな事態が起きていました。その中で先輩方は絶えず動き回っていて、自分達 2 年生にもしっかりと仕事を振ってくれていたのですごいスキルだと思いました。

大東文化大学　経済学部　社会経済学科　１年　稲垣序宇
夏合宿を振り返って私の一番の感想は今回の夏合宿を企画してくださった梅沢先生をはじめ幹事の先輩方の偉大さをとてもはっきり感じました。夏合宿の運営をしている先輩の姿を見て、とても忙しく働きながら後輩のことも気にかけていてとても大人だと感じましたし、来年は自分も先輩方のように頑張りたい

と思うようになりました。なので今回の夏合宿で感じたことを今後の生活に生かして、自分のレベルを高めていきたいと思います。今回夏合宿を企画してくださった梅沢先生、幹事の先輩方本当にありがとうございました。

大東文化大学　法学部　法律学科　１年　上野瑞仁
今回夏合宿に参加したことで多くの知識、経験が身につき、サークルの先輩や同期との仲もより深まり、そして大学生活、サークルへの意識も格段に変わったと感じました。夏合宿ではサークルに於いての仲の深さをより一層築くことが出来て、またこの合宿での経験が自らのサークルへの意識を高めました。山登りでは互いに助け合い山を登っていくことで相手から信頼してもらうことが出来て相手に対して自分も強い信頼を置くことが出来ました。そして声を掛け合い互いを尊重し合うことで仲が深まりました。班としての活動も縦と横の繋がりに活かせた部分でした。先輩や同期と様々な活動を通じて経験していくことで学ぶことも多くありました。最後に夏合宿を通して、反省すべき点が多々ありましたが初めて経験出来たこともありました。とても楽しかったです。今後は、夏合宿で感じたことをサークル活動に活かせるよう取り組んでいきたいです。

大東文化大学　経済学部　現代経済学科　１年　小河原百映
初めての夏合宿は、合宿前に、先輩方に目的や目標を持って合宿に望むことでより充実した時間を過ごすことが出来ると教えていただいたので、同期や先輩方との輪を広げる事を目標として参加しました。その結果、夏合宿を通じて、日大の人、大東の話したことのなかった人、班の先輩方はもちろん班以外の先輩方ともお話することが出来ました。たくさんの人と関わりを持つことが出来たので、充実した楽しい５日間を過ごせました。しかし、それは、夏合宿を行うにあたって先生や多くの先輩方が様々な事を考え、動いて下さり、機会をたくさん設けて下さったからこそ、先輩方や日大の人、大東の人とたくさん関わりを持つことが出来たのだと思います。もし、宿舎やバスの席、ディスカッション班などの様々な場面で今まで話したことのない人と話す機会が無かったら、目標を掲げていてもこんなに話すことはできなかったのではないかと感じました。今後は、機会が与えられていなくても、輪を広げるためにはどうしたらよいのか、考え行動していかなくてはならないなと思いました。普段の生活の中で、挨拶や何気ない一言でも自分から積極的に話しかける事を大切にしていきたいです。夏合宿に参加する前は様々な不安でいっぱいでしたが、実際に参加すると楽しくて、５日間があっという間に過ぎてしまいました。合宿で様々な機会を与えて下さったこ

と、多くの人と関われたことに感謝の気持ちをもって、今後のアカデミー活動に取り組んでいきます。ありがとうございました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　1 年　鈴木大晴
私は今回の 3 泊 4 日の夏合宿に参加させていただき、感じたことが 2 つあります。まず 1 つ目は、人脈を広げることの楽しさです。今回の合宿で交流の輪を大きく広げることができました。これまで他大学の同期、ましてや先輩方とは話したことすらなかったのですが、今回のこの合宿のおかげでお互いに知ることができ、人脈を広げることができました。さらに同じ大学の同期で顔見知り程度だった人とも仲良くなることができました。今回の合宿で仲良くなれた人と夏休み中に食事会を開いたりと、今でも交流が続いており、今後の社会人交流会の活動もより一層楽しみになりました。2 つ目に感じたことは、先輩方の偉大さです。今回私たち一年生は先輩方におんぶにだっこで、特に苦労せず合宿を楽しませていただきました。総括の時に涙を流しながら社会人交流会について語っていた姿はとても印象に残っています。200 人以上もの大人数をまとめている先輩方はかっこよく、私も少しでも早くそんな先輩方に近づけるように努力しようと思います。今回このような機会を与えてくださった梅沢先生をはじめ、先輩方にとても感謝しています。本当にありがとうございました。

大東文化大学　経営学部　経営学科　1 年　田村果菜
私は夏合宿に参加して、人と繋がる大切さと、大きな集団で行動するにはたくさんの方々の努力と協力で成り立っていることを学びました。合宿参加前は、バスの座席や、宿の部屋割りなど、今まで自分と関わりのなかった人と長い時間を共にすることに多くの不安がありました。しかし、バス移動の時間には、自己紹介の時間があったり全員参加のゲームがあったりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。私の座席が前から 2 番目だったこともあり、イベント班の先輩方のたくさんの努力と工夫を感じることができました。ワークショップ班での活動は、1 日目の自己紹介の時間と 2 日目の山登りでした。今までは、班員のことをそれまで深く考えたことはなかったのですが、合宿中に班員に会う機会があると、すごく安心してリラックスしていることに気が付きました。前期の活動を通して、10 班の班員全員が、私にとって大切な家族のような存在になっていると感じることができました。山登りでは、声を掛け合ったりゲームをしたり写真を撮ったりして、楽しみながら登りきることができたので良かったです。山登りの時はもちろん、その他の移動の時間には必ず、移動班の先輩達が危険の

ないように見守ってくれていたり、道を教えてくれたりして、頼れる先輩がいつでも近くにいてくれました。宿では、今まで深く関わったことのなかった同期や、初対面の先輩方とも、何度も一緒に同じ食事を食べることで、距離が近くなり合宿が終わった後も連絡を取り合うほど仲良くなることができました。また、生活班の先輩方が常に見回りをしてくださっていたため、夜でも安心して過ごすことができました。たくさんの仕事を生活班の先輩方が協力して効率よく行っている姿を見て、すごくやりがいのある仕事だと感じ、私も来年は生活班として合宿に参加したいと思いました。先輩方のように仕事ができるよう、成長していきたいと思います。たくさんの方々のおかげで、三泊四日の夏合宿がかけがえのない大切な思い出になりました。来年の夏は、今年よりももっとたくさんの友達に囲まれて、たくさん楽しめるよう、後期のアカデミー活動も力を入れて頑張っていきたいと思いました。

大東文化大学　法学部　法律学科　1年　野口嶺也
今回は初めて夏合宿に参加させて頂きました。以前から先輩方に楽しいと聞いていたので行く前からとても楽しみにしていました。また自分は 2 日目に帰らないといけなかったので、初日からいろんな人に積極的に話しかけるよう努力しました。このような目標を持ったおかげで仲の良い友達とはより仲が深まり、初めて話した人とも仲良くなることができました。このような機会を作ってくださった先生や、何もわからない一年生達を引っ張ってくださった先輩方にはとても感謝しています。夏合宿の日程が知らされた時、一日しかいられないので行こうかとても悩んでいました。しかし、先輩方の意見を聞いて、行くことに決めました。すると、合宿はとても楽しく途中で帰るのが嫌でした。来年の合宿も参加したいと思いました。また、この合宿で人脈も少し広がったので、これからの活動でもっと広げていきたいです。

(11 班)

日本大学　経済学部　経済学科　３年　山田知玄
私はこの夏合宿で先輩の偉大さと同期の大切さを実感しました。先輩の偉大さについては約 250 人の参加者のいた夏合宿をまとめた幹事長をはじめとした４年生のみなさんが自分達も疲れているはず、もっと大変なはずなのに「大丈夫か」「さっきはありがとうな」などと気遣ってくれたことです。このような人たちだ

ったからこそ今回の夏合宿が成功したのだと思います。また、同期の大切さとしては、私の同期はほとんどなにかしらの役職に就いており夏合宿を成功させるために頑張っていました。それらを見て私は、同期がこんなに頑張っているのだから自分ももっと頑張らなければならないと感じ自分は撮影班だったのですが、精一杯取り組ませて頂きました。このようなことを実感できるのも夏合宿の醍醐味だと思うので参加してとてもよかったと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　出﨑葵
私は去年、夏合宿を早退しなければならなかったため、いくつかのプログラムに参加できませんでした。今年は全て参加できるので去年できなかったものを特に楽しみにしていました。そのうちの１つ、登山は思っていたよりも山道がきつくてとても大変でしたが、山から見た景色はとても綺麗で感動しました。最終日の総括はそれぞれどんな思いで参加したのか、なにが楽しかったのかなどを聞けてよかったと思います。去年の先輩たちの総括が聞けなかったのが残念です。また、今年は 2 年生になり生活班をさせていただくことになり、去年はただ参加しているだけだった夏合宿の準備にも携わりました。約 250 人参加する夏合宿の準備はとても大変で時間もかかってしまいましたが、とても勉強になりました。当日は、ディスカッション時の設営やお酒の仕分け、声かけ、掃除などの仕事を行い、去年の自分はあまりこういった仕事をしている先輩の姿が見えていなかったと感じました。今年は頑張っている先輩方や同期の姿を見ることができたので来年に活かせるように頑張りたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　石橋遼一朗
私は今回の夏合宿での多くの人との交流を経て確実に成長できたと思います。なぜそう思ったかというと、夏休み前ではクラスが同じ人を除いて、仲の良い班員でさえ木アカの時間や飲み会などでしか話す機会が無かったのですが、夏合宿では 4 日間寝食を共にすることができ、その結果班内ではさらに仲が深まり、他班や大東を始めとする他大学の同期や先輩とも交流を深められ、コミュニケーション能力が高まりディスカッションにさらに積極的に参加できるようになったからです。
また、宿舎での自由時間や登山では日大の先輩からサークルのことだけではなく、大学の授業やゼミのことについても教えていただくことができました。
さらには夕食時に OB として来てくださった武藤さんと同じテーブルで食事をすることができ、社会について貴重なお話を聞くことができました。この体験から、

私は改めてこのアカデミーの色々な意味での「大きさ」を実感し、活動へのモチベーションが高まりました。
今回これほどまでに不自由なく充実した 4 日間を過ごすことができたのは、梅沢先生や OB の方々、そして先輩方のおかげなので、来年は自分もアカデミーの夏合宿に貢献したいと思います。

日本大学　経済学部　産業経営学科　１年　飯山涼斗
私は今回の合宿を通して参加して良かったと思った点が、二つあります。一つ目はサークルの先輩方はとても頼りになる方々ばかりだということに気づけたことです。今回の合宿で先輩方が準備などをすべて行って下さったお陰で、私達新入生は合宿を思う存分楽しむことが出来ました。また、先輩方が率先して日大、大東問わずに私達に話しかけて下さって、緊張をほぐすことができました。来年からは私も先輩という立場になるので今回の合宿を通して見た先輩方の姿を忘れず、自分も恰好いい姿を後輩に見せられる様になりたいです。
二つ目は沢山の同期と知り合うことが出来たことです。今までは大東、日大どちらの同期についても全然知り合いがいなかったのですが、今回の合宿を通して友人を作ることができました。そして、グループディスカッションの際にも活発に意見を発する同期の姿を見て刺激を受けたので、これから切磋琢磨しあって、成長していきたいです。
今回の合宿全体を通して、このサークルでワークショップ班以外での縦と横の繋がりというものを実感することができました。今回の参加で得た繋がりを大切にして先輩、同期と共に活動していきたいと思いました。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　露木菜々子
夏合宿の前、私は大学関係なく多くの人たちと交流することを目標に参加しました。しかし、なかなか自分から話しかけることが出来ず受け身になってしまいました。向こうからの反応を待つのではなく自分からも積極的になろうと思いました。部屋が一緒になった先輩方や同級生、一年生会で話した人とも今後のアカデミー活動でさらに交流できたらと思います。
1 番に印象に残ったことは役職を全うしていた先輩方の姿です。本当に大変そうでしたが先輩方の総括を聞いてその役職に憧れを持ちました。来年、また夏合宿に参加して自分も役職に就いて後輩にそう思ってもらえるような先輩になりたいです。

日本大学　経済学部　産業経営学科　１年　三浦優希
初めての夏合宿でしたが自分の力不足さを感じられる貴重な経験ができました。友達を作ろうとしても自分から話しかけていけずあまり交流の輪を広げることはできませんでしたが、素晴らしい先輩と一緒に生活を共にすることで、人間力を高められたかと思います。また最後の感想発表で発表する機会を与えて頂き 200 人超の前で発表するという貴重な体験をさせていただけて良かったと思います。これからは様々な行事を通してさらに先輩や同期と共に自分のコミュニケーション能力などといった人間力を高めていき、自分の成長に繋げたいと思いました。ありがとうございました。

日本大学　経済学部　産業経営学科　１年　福井彩華
夏合宿では先輩方や他大の方など様々な人と交流することができ、また自分に足りないことを学ぶことができたと思います。最初は班の子が周りにいなかったりして、不安に思うこともたくさんありましたが、先輩方が話しかけてくれたりして交流の輪を広げられたと思えたのでよかったです。1 年生なので仕事や役割などはありませんでしたが、先輩方がみんなが楽しめるように計画してくれたおかげで素敵な思い出になりました。私が 2 年生になった時、先輩方のように行動できたらいいなと思います。また、自己紹介やディスカッションなどで発表する機会がありましたが、これからもっとたくさんの行事等があると思うので、積極的に行動できるように頑張りたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　要千尋
今回の夏合宿では、たくさんの大東生や先輩方と関わる機会が多くありました。私が今回泊まった宿舎には大東生がほとんどで、部屋も私だけ日大生でした。最初は、上手くやっていけるか、不安でいっぱいでしたが、一緒にご飯を食べたり、部屋でお話をして、とても仲が深まりました。今では、同じ宿舎の 1 年女子で LINE グループを作って、情報を共有しています。それから、とても憧れていた先輩やお話をしたかった先輩と宿舎が同じで、お話をする貴重な機会があり、合宿に来て良かったなと感じています。
ディスカッションでは、お話したことがない日大生の先輩方が多く、経営研究会の事やインターンシップなどの貴重なお話を聞くことが出来ました。今後の経営研究会での活動の際、班の人だけでなく、ディスカッション班で一緒になった方ともお話をしたいと考えています。

山登りでは、体調管理を怠ったために、途中で具合が悪くなってしまい、たくさんの先輩に迷惑をかけてしまいました。特に生活班の先輩方には、お世話になりました。来年の夏合宿では、もっと体調管理をしっかりしようと感じました。また、今回の夏合宿での先輩方の姿を見て、ぜひ役職について、アカデミーに貢献したいと感じました。そのためにも、今後のアカデミー活動にも、積極的に参加していきたいと思います。

日本大学　経済学部　産業経営学科　１年　安川沙希
今回の夏合宿では、たくさんの人と交流を深めることを目標にしました。夏合宿前は大東の学生たちとあまり交流がなかったですが、同じ部屋で生活を共にしたり、同期会などで仲良くなることができ、良かったです。また先輩方の行動を間近で見て、その偉大さに気付かされました。先輩方のおかげでとても楽しい夏合宿になりました。感謝でいっぱいです。私ももっと成長できるよう、今後のアカデミー活動を頑張っていこうと思います。

日本大学　経済学部　産業経営学科　１年　山川愛
夏合宿では、今まで話したことが無かった 1 年生や先輩方と話すことができてとてもいい経験ができました。役職を持ってみんなのために楽しめる合宿を企画してくれていた先輩方のおかげでとても素敵な思い出になりました。来年もし役職を持つ事が出来たら、先輩方のようにみんなのためにしっかり働きたいと思いました。

日本大学　経済学部　産業経営学科　１年　藤田竜也
夏合宿に参加して私は、新しい出会いや合宿中の様々な活動を通して、日常生活では得ることのできないものを多く得ることができたと思います。
まず、今まで話したことのなかった先輩や同期と話すことができ、他大学の先輩方や同期とのつながりを持てたことです。私は合宿の移動のバスではすべて隣が他大学の先輩や同期で最初は話すことができるか、仲良くできるかと不安でしたが、同期とはとても気が合い仲良くなることができました。先輩とは面識はあったが話したことがなかったので最初の内はとても緊張していたけれども、先輩が優しく接してくれたことによりたくさん話すことができ嬉しかったです。
2、3 日目のディスカッションでは班内でのディスカッションやゲームをしたことを通して大東側の 2、3 年生と仲良くなることができ、合宿後には食事に行く

までになることができました。いろんな形でたくさんの人と新しい出会いがあったのでとても嬉しかったです。
そして、山登りを通してワークショップ班の同期との仲をより深めることでき、登頂に成功した際には大きな達成感を得ることができました。私は去年の 10 月に交通事故に巻き込まれ、足を負傷し二度の入院と大きな手術を受けており、合宿に行く前や登山の直前まで登頂できるかとても不安でした。なんとか登頂することができとても嬉しかったです。しかし下山途中に長時間に渡り足を使ったことなどにより、足が痛くて動くことができなくなりました。そのときは悔しくてつらかったのですが同期や先輩方が心配して手を貸していただき無事に下山することができました。一緒に休憩してくれた同期や、下山に付き添ってくれた先輩にはとても感謝しています。その時に私はこのアカデミーには思いやりのある優しく素晴らしい人たちがいるのだなと感動しました。
このことから私は、夏合宿に参加して様々な活動を通して、いろんなことを経験し得ることできたと思います。とても貴重な経験になりました。この夏合宿に参加してよかったと思うしまた来年も参加したいと思います。

（13 班）

日本大学　経済学部　産業経営学科　３年　乾将大
私は今回の夏合宿では対話の大切さを学びました。ディスカッション班とイベント班として活動していく中でイベントやディスカッションの準備や作業で何度か手間取ってしまい、遅れてしまう事がありました。その点で班員と事前の話し合いを済ませて居なかった事が作業が進まなくなる要因となってしまいました。そのため夏合宿中にも事前には話し合いを行い、準備をスムーズに終わらせ活動に行く事に心掛けました。今後も事前に話し合いを行い、スムーズに進行出来るように心がけたいです。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　町田佳穂
今回の合宿は、去年の反省点である受動的な態度を改善しようと思い何事にも積極的に取り組むことを目標に参加しました。ディスカッションや宿舎での懇親会、生活班等様々な活動で自分から話しかけることで人脈を広げることができよかったです。また、同期会では日大・大東関係なく仲を深めることができたので今後も協力してアカデミー活動に取り組んでいきたいです。来年は 3 年生

として合宿に参加することになるので、今年よりも更に全体を見て行動できるようがんばります。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　木村優佑
夏合宿では今まであまり交流のなかった大東生と交流を深めることが出来ました。その中でも特に印象に残ったことが、大東 2 年生の同期の繋がりの強さです。集合写真を撮る時など 2 年生全体で動かなければならない時に私達日大生に比べ大東生は互いにコミュニケーションが取れていて、素早く動けていたと私は感じました。同期の繋がりが強ければアカデミーが辛くなった時などで助け合うことができ、脱落するものが少なくなると思いました。私は日大生も同期の繋がりを強くするために交流会などを企画しようと思いました。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　早川航太
私は今年の夏合宿を通じて、先輩後輩の大切さを実感しました。大東との仲を深めたいと思って今回の合宿に臨みました。自分の目標以上に大東の先輩や後輩と知り合えたと思います。特に日大、大東の後輩と仲を深めることができ、合宿後に飲み会に行きました。夏合宿での大きな目標だった、交流を広めるということが達成でき良かったと思いました。
反省点もありました。今回務めさせていただいた会計班の先輩方や宿舎での先輩方を見ていて、自分にはまだまだ至らない点が多いことに改めて気づきました。宿舎では状況や時間を考えて動く先輩方や同期、会計班ではミスがないように真剣に動く先輩方の姿を見ることができました。今回の合宿で気づいたことだったので、来年の夏合宿では、後輩への配慮や先輩のフォロー、仕事を率先して行うなど、積極的に動くことを目標にしたいと思老います。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　山崎綾香
1 年生の時では、先輩や同期とたくさんの人に話しかけようと思いがありました。しかし 2 年生という既存生という立場になって、イベント班や部屋長という仕事を任されたことで自分のことでいっぱいになっていた 1 年生の頃とは違い、もっと周りを見ながら行動する大切さを気づきました。それは今までしたことのない事だったので、大変だったけれど、そのぶんやりがいを感じました。この経験を後期の活動に活かしていきたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　西川和希
今回の夏合宿に初めて参加して私は始まる前は同じ部屋の人とは仲良くできるかまた、山登りは大丈夫なのか不安でした。ですが同じ部屋の室長の方が積極的に話してくださり、山登りも先輩方の引率によって気づいたら山の頂上までたどり着いていました。またキャンプファイヤーや同期会などで同学年との交流が多くそれによって大東文化大学の方々や日大のまだ話したことない 1 年生と仲良くなれました。今年は先輩方に頼ってばかりだったので来年は少しでも夏合宿の進行に貢献できるようにしていきたいと思いました。

(14 班)

日本大学　経済学部　産業経営学科　4 年　佐々木健浩
私は、アカデミーの夏合宿に参加するごとに夏合宿の楽しさを大きく感じるようになりました。1 年生の頃は、ただ参加しているだけでしたが、知らなかった同期の人と多く知り合うことができました。3 年生で参加した昨年の夏合宿では、移動班の仕事や部屋長の仕事があり、先輩の背中を追いながら夏合宿運営に携わることができました。そして、今年は移動班としても宿舎でも後輩を引っ張っていく立場となり、また幹事として頑張っている同期を支える立場で参加しました。その中で、今まで以上に夏合宿に深くかかわることで「自分たちがこの夏合宿を動かしている」と強く感じました。そのため、私が参加した 3 回の夏合宿の中で、今年の夏合宿は一番楽しく、大変であり、思い出に残る夏合宿となりました。
また、移動班の仕事で手いっぱいになっていた昨年よりも多くの新規生と言葉を交わすことができ、同期とは同期会で思い出話をしたり、そのあと早朝に散歩をしたりこれまで以上に親密になれたと感じています。
アカデミー生として最後の夏合宿が終わった今、後輩たちにも夏合宿は参加すればするほど面白くなっていくという事を感じて欲しいと思っています。「最高の夏合宿」を更新していくためにも後輩に伝えられることを伝えなければならないと改めて感じています。

日本大学　経済学部　経済学科　3 年　城理紗子
私がこの合宿で最も痛感したことは、アカデミー内の繋がりです。今年は、大幅な人数の増加で夏合宿の有無が彩踏まれた中、2 名の幹事長、幹事団、アカデミ

一生の協力のもと、最高の夏合宿になったと思います。
特に、今年の夏合宿では、天候不良などのため大幅なタイムスケジュールの変更もあったにも関わらず、4 年生の先輩方は、私たちに的確な指示をし、円滑に進行してくださいました。4 年生の姿から組織の連携の大切さを学びました。
また、今回の合宿では、改めて同期が同期でよかったと思いました。普段は、私たちを笑わせようとふざけてばかりの同期なのですが、やらなければならない時は顔つきが変わり頑張るところや仲間思いのところがあることを再確認しました。私たち 3 年生は、たしかに人数は少ないですが、エネルギッシュなひとが多いので、困難にぶつかった際は同期みんなで協力し乗り越えていけるのではないかと思います。来年は、いよいよ私たちの番なので、先輩方から学んだことを活かし、今年を越えられる夏合宿を作り上げるようこれからのアカデミーの活動をしっかり頑張っていきたいです。

日本大学　経済学部　金融公共学科　2 年　新井雄貴
今回の夏合宿では、1 年生のころとは違った感想を得ました。前回の夏合宿は、ただ合宿を楽しむことや、様々な人に話しかけていき、交流を深めていくことしか考えられていませんでした。
しかし、今回の夏合宿では移動班と部屋長という役職を頂いたこともあり、より近くで先輩方の活躍する姿を見ることが出来、また共に夏合宿の運営を行ったことで学んだことも違いました。特に移動班の活動では、団結して活動していくことの大切さを学びました。今年の夏合宿は去年よりも人数やバスの台数や宿舎の数が増えたのもあってか、移動する際の指示や統率が大変でした。そんな状況でも先輩方を中心に一致団結して行ったことで移動を円滑に進めることが出来たと思います。また、3 日目の夜は二年生会を開き、今まで関わりのなかった同期とも交流を深めていき、来年は 3 年生としてここにいる同期として共に夏合宿を成功させたいという思いになりました。今回学んだことを今後の活動に活かしていきたいです。

日本大学　経済学部　産業経営学科　2 年 黒沢将太
今年の夏合宿は役職を就かせていただいて臨んだ最初の合宿でした。私は今回アゼリアの生活班を任せて頂きました。先輩たちからは前からアゼリアの生活班はすごく大変だよということ何度も言われてきました。なので、今年の合宿は仕事をちゃんとこなせるか、先輩方にご迷惑をかけないかすごく心配でした。

実際に合宿が始まると多くの仕事が待っていました。3 日目、4 日目の宴会のために宿舎ごとにお酒を振り分ける仕事は合宿のなかで 1 番疲れた仕事でした。その他にも 4 日間で宿舎内の見回りや、お菓子の振り分け、お風呂の時間管理、トイレの点検、ゴミの分別、会場設営・片付け、配膳などたくさんの仕事があり、仕事に追われてばかりでした。仕事の疲れなのか、山登りはせっかくワークショップ班で活動する唯一のイベントなのに口数が減ってしまったことはすごく後悔しています。
また、今回の合宿では個人的な目標として、生活班の仕事をしっかり全うするという目標の他に自分の班員以外の 1 年生とはあまり話したことがないので 1 年生と多く会話をする・同期のもまだ話したことがない人がいるので積極的に話しかける、特に大東生とはほとんど話したことがなかったので、交流していくといった目標を持って臨みました。しかし、予想以上に生活班の仕事が大変で自分の部屋に戻るのも寝るときだけといった状況だったので新たな交流を深めるといったことはなかなか出来ませんでした。一緒の部屋だった人には申し訳ないなと感じました。来年もしまた生活班を任せられたとしたら仕事と交流のバランスを上手くできるように、もっと効率よく動けたらいいなと思います。
また、実際に運営する側に立ってみて先輩たちのすごさを去年以上に感じました。仕事をしていくうえで予定通りに行かないことがあってもそれに対し、臨機応変に対応している姿はすごくかっこいいなと思いました。私よりも多くの仕事をしているにも関わらず、疲れた表情を一切見せず的確に指示を出していて自分もああいう先輩にならないといけないなと強く感じました。
合宿の総括では先輩方が名前を挙げてよく頑張ってくれたと言って下さったときは、仕事が多くて、楽しむというよりかはみんなが楽しんでもらえるように働くという感じで正直しんどいなと感じることも多々ありましたが、そんなことを忘れるくらいの大きな達成感に溢れました。頑張ってきたことが報われたなと思いました。
来年は自分たちの代が中心となっていくと思うので今年の経験を活かせることが出来ればいいなと思います。

日本大学　経済学部　産業経営学科　2 年 橋本祥汰
今回の夏合宿が初めての参加でした。2 年生からアカデミーに入ったため、より多くの既存生と親睦を深めることを目標に参加しました。合宿中のアカデミー生は学年関係なく、どの方も優しく接してくださったため、合宿を通してたくさんの人と気軽に話すことができました。また、私は 2 年生でありながら新

規生であるため、合宿を運営する役職をもらうことができませんでした。合宿を通して同学年の既存生が様々な面で活躍しているのを見て、頼もしいと思うのと同時に、少し悔しさも覚えました。そのため、来年の合宿や今後のアカデミー活動においては、積極的に運営する立場に関わっていけるように努力して行きたいです。

日本大学　経済学部　経済学科　1年　稲葉紘司
今回初めて経営研究会の夏合宿に参加させていただきました。私は今回の夏合宿によって大きな学びを得たと確信しています。自分はワークショップの時にワークショップ班の人たちを中心とした小さな関わりしか持つことができていませんでした。しかし、この夏合宿では、大東と日大合同ということもあり、様々な方々による幅広い繋がりとそれらによって形成される大きな繋がりを持つことができました。様々なイベントが合宿中に行われました。その中で一番楽しかったのは山登りでした。今までの人生において初めて山登りをしたのですが、山登りがあれほどの苦労を伴うとは思ってもみませんでした。しかし、班の皆様と苦難を共にし、美しく貴重な自然に触れることで、班の皆様と今まで以上に仲良くなることができました。ディスカッションでは自分とは異なる考え、人間性や目標を知ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

日本大学　経済学部　経済学科　1年　松元春樹
今回、私は夏合宿に参加することにあまり前向きではありませんでした。しかし、同じ班や他の班の先輩方の合宿はいった方がよいという趣旨の発言が決め手となり参加することを決めました。
そして、参加決めたあとも正しい判断だったのか躊躇している間に合宿当日を迎えてしまいました。初日は、ずっと私は班の先輩方に逃げてばかりいたので、ほとんど話したことのない他の班の同期生と話すことができませんでした。多くの人と交友を深めたい、自分のことを知ってほしいにも関わらず、合宿最初の自己紹介でうまく自己 PR できませんでした。そのため、明日になれば登山で同じ班の人達に逃げることができると考えていました。いま考えてみると、日大・大東と多くの人がいて交友を深めなければいけませんでしたが、私は日大の人とも深められずにいました。そんな中で登山を終えキャンプファイアーが始まりました。しかし、天候不良により中断を余儀なくされ宿舎会へと移りました。宿舎会ではそれまでの反省を踏まえていたため不安な気持ちは

ありましたが、自分のことを知ってもらうことができ同じ宿舎の人達とも交友を深めることができました。しかし、ディスカッションでは積極性に欠け自分から発言することができませんでした。そのとき既存生目線から見た私は消極的で良い印象ではなかったと思います。私は、このことを遺憾に思い同期会では学校関係なく交友を深めることができたと思います。これは同期について述べましたが、他にも考えさせられることがありました。それは生活班や移動班といった役職についている先輩方が役職を持ったことに自覚を持っていたことです。高校時代までの私は役職を任されたときに任されることに責任のことしか考えていませんでした。同じ部屋でワークショップ 18 班の宮田さんに部屋長と移動班を掛け持ちしていることについて質問すると、大変だけどたくさんの人がいる中で役職を任されることがうれしいし、期待に応えたいという趣旨の言葉が返ってきました。この言葉で僕の考え方に変化が生まれました。信頼しているからこそ任せる、任せたい、頑張ってほしいに繋がると感じました。来年、私は先輩方に信頼され任せられるような人間になりたい、ならなければいけないと思っています。それは、信頼される人間になりたいということだけではなく、14 班の新規生が少ないことも影響しています。新規生が少ないからこそ自覚をもってアカデミー活動に取り組まなければいけません。私は、今回の合宿は楽しかったことよりもここでしか学べないことを勉強させていただいて良かったと強く思っています。３泊４日の合宿で勉強できたことをアカデミー活動だけでなく、学校生活や普段の生活に発揮できるようにします。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　三上香菜

夏合宿で特に印象に残ったものや得られた体験は、振り返ってみると大きく三点ある。

一点目は、先輩の対応について。

私は、３泊４日の間は年代を関係なく様々な人と過ごした。その中でこのようになりたいと思う先輩のエピソードが２点ある。まず、一年間もアカデミーにいるかいないかでの差を知った体験があった。私は、同期の中でも宿舎やディスカッションの際に大東文化の方々と組むことが多かった。そのため、緊張してしまいあまり最初は話せていなかった。しかし、大東並びに日大の先輩は、共感を持てるような話題を話してくれたり逆に質問を投げかけてくれたりと話しやすい雰囲気を作り続けてくれた。その中でも班長さんは、均等に私たちに意見を述べる場を作ってくれた。それと同時に、周りの意見をスムーズにまとめていた。その先輩方の姿を見て、私に後輩ができた際に後輩の意見をまとめて、さらに後輩の意思を尊重して発表に出してあげられることができるのかと考えた。今の私の

力では難しいと結論はでた。しかし、私は絶対に諦めるつもりはない。そのためには、このアカデミーで協調性やリーダーシップについて学ぶ必要があると考えた。今の 1 年生の私ができることは積極的に登壇して自分の考えを伝える事や班の意見を代弁することに力を注ぐことだと考える。また、先輩が私たちの意見をまとめている姿を目で見て盗むことや先輩の話には耳を傾けていくことなどを積み重ねていこうと考えた。
次に、先輩に叱られたことと助けられたことが同時に起こった体験があった。私は、帰宅の際に恥ずかしいことながらキャリーケースを自分の物と他人の物を見間違えてしまった。それに気づいたのは先輩のラインの連絡がきてからだった。今思えばあの連絡がなかったらおそらく家まで持って帰っていたと思う。しかし、連絡が来て中身を見た際は、血の気を引いたような思いだった。そのあとすぐにキャリーケースを持って行くと先輩は叱ってもくれたが、すぐに慰めてくれた。帰りの電車で、自分が先輩になった時にこのように迅速な対応をとることができるようになるだろうかと思い浮かんだ。今の私ではパニックになるだけだろうと思う。先輩たちのような対応ができるようなるには、様々なことにチャレンジすることを心がけようと思う。初めてのことは、アクシデントは付き物であるため自らアクシデントに怖がらずに進み経験を積み重ねていきたいと考える。
二点目は、自然について触れる事について
私は、生まれも育ちも山で過ごしたことは一度もない。せいぜい川があったため水には触れて育った。そのため、合宿の山登りや緑に囲まれてのディスカッションは新鮮であった。山登りは、とてもつらく道をただ進むということがやっとであった。しかし、班の子達と話すことが緑に囲まれた中ですると違った楽しさがあることを学んだ。ディスカッションでは、普段の都会の色に染まったビル大の経済学部と違って、清々しい空気の中ですることでとても気持ちがよくいつも以上に話が頭に入ってきたと実感していた。
三点目は、素晴らしい仲間が増えたことについて
私自身にとって一番の夏の思い出ではないかと考える。それは、大東文化にも日大にも友達ができたことである。私の班は、女性比率がすこし他の班に比べてみると少ない。そのため、あまり女友達がいなかった。合宿では、宿舎で友達を作ることができた。次に、そのつながりで先輩や同期の女友達などを紹介してくれた。大学でも経済学部ということもあり女友達が圧倒的に少ない、私自身が女子校出身であることもあり、女友達がいないことがとても寂しかった。しかし、合宿ではたくさんの友達を作る事ができ、様々な人から過去のエピソードを聞いたり話したりと有意義な時間を過ごすことができた。
以上の三点を振りかえっていて理解したと感じたものがある。それは、ワークシ

ョップで先輩方が言っていた「縦と横のつながりについて」だ。あの頃は、あまり理解できていなかった。けれども、少しずつ理解している。特にこの夏合宿で先輩も同期とも自然という手助けを借りながらもたくさん交流した。おかげで、縦と横のつながりを強く実感できたと考える。私は、この夏に合宿に参加することで少し成長したと考える。
このような合宿という場を設けてくださった梅沢先生と先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(15 班)

日本大学　経済学部　経済学科　４年　寺田佑
私はこの夏合宿で最も感じたことは、コミュニケーションの大切さです。それは、生活班の班長として、夏合宿の準備から当日までの活動で痛感しました。今年は準備期間が短く、班員とコミュニケーションを取る時間がなく、班員たちのモチベーションの低下や鬱憤が溜まっていることに気づけず、班が崩壊しかけました。そんな時に飲み会をしようと声をかけてくれた後輩がいました。彼の助言で、今までアカデミーの先輩方がどのようにコミュニケーションを取っていたのか思い出し、また一番大切な事を忘れていた自分が情けなく思いました。そして飲み会では班員たちと腹を割って話し合い、彼らが何を考えているのか知りました。また、自分の思いを班員に伝えることができ、生活班は初めて一つになることができました。その結果、当日は天候などから様々なイレギュラーがありましたが、確りと連携を取ることができ、無事夏合宿を終えることが出来ました。
今年が最後の夏合宿で来年から生徒として参加することができないと改めて実感し、寂しい思いで一杯であります。このような貴重な経験をさせて頂き、心から感謝致します。この度は本当に有難う御座いました。

日本大学　経済学部　経済学科　3 年　大田美沙希
私は今回生活班での活動を通して、人をまとめることの大変さを感じました。普段は WS の班長を務めさせていただいているため、人に指示を出すことはそれ程難しいことではないと思っていました。しかし、今回の夏合宿は約 240 名のアカデミー生が参加しており、知らない人も多く、大きな声を出して指示することを躊躇してしまう場面が何度かありました。一方、同期や後輩は積極的に声を出してアカデミー生をまとめており、自分の積極性のなさを感じました。
来年の夏合宿は、私 3 年生にとって最後の夏合宿です。今回の反省を生かして

今後のアカデミー活動に参加し、来年はより良い夏合宿になるよう努力したいです。

日本大学　経済学部　金融公共経済学科　2年　菅谷由美子
私が今回の合宿で印象に残っていることは生活班での活動です。私は合宿が始まる前、他の生活班のメンバーはとても積極的に動くことができる人ばかりだったので、自分では生活班の仕事をこなせるのかとても不安に思っていました。合宿前半は、スケジュールが予定通りに動いていたことや、宿舎のメンバーがしっかりと指示に従ってくれたこともあり、私は先輩の指示通りの仕事のみをしていました。しかし 3 日目になり、天候の関係で打ち上げの場所が変わってしまいました。その際、先輩方は他の宿舎の人とどこに何時集合すればいいのか、などの連絡を取っていて、宿舎のメンバーがどうしたらいいのかわからなく、戸惑ってしまっていました。そこで私はこのままではいけないと思い、初めて自分で点呼を取ったり指示を出しました。それまでは自信がなく、自分から行動できませんでしたが、そのことがきっかけで自分でしっかり判断して指示を出せると思い、その後は積極的に動くことができるようになりました。
来年の合宿では今年の経験を生かし、先輩たちのように動けるようになるように今後の活動を頑張りたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　2年　宮地駿明
今回の合宿は二度目の合宿でした。自然の中で宿泊をしたり、ミーティングを行うというのはなかなか出来ないことなので良い時間を過ごすことが出来ました。ただ、今回の合宿は二日目の夕方からの参加だったので、メインイベントの山登りに参加出来なかったのは残念でした。
この合宿で感じたことは、同期で仕事を任されている人や、生活班の先輩方が夜遅くまで担当の仕事をやっているのを見て、自分も頑張らないといけないなということです。今回は役職がなく途中からの参加ということもあり、積極的な活動があまりできませんでした。ですが、同じ宿舎の一年生と親睦を深めるといったことはもう少し積極的に行うことが出来たのではないかと思います。今回の反省を生かして今後のアカデミー活動に参加をしたいと思いました。
来年は三年生になり運営に携わる機会が多くなると思うので合宿にただ行くのではなく貢献出来るようにして、参加をしたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　2年　渡辺周平
アカデミーに参加してから2回目の夏合宿でしたが、1年目の時とは違った景色を見ることができました。まず、1年目の時と大きく違ったのは役職を与えていただけたことです。初めての役職であったため、撮影班の仕事を精一杯こなそうと意気込んでいましたが、逆に役職に意識を向けすぎて本来のアカデミー夏合宿の意図する所からは外れてしまい、一年目の時よりも、後輩や先輩、そして同期と関わろうとする意識が薄れていたことが、自分にとっての大きな反省点であり、とてももったいないことをしてしまったと感じています。
そしてなにより自分にとっての刺激となったのは同期の頑張る姿でした。同期会を盛り上げてくれた同期たちは去年とは比べ物にならないほど勢いがあり、焦りを感じました。また役職についた同期たちも自分よりも積極性があり、自分の無力さを感じる場面が少なからずありました。
今後は、力をつけた同期たちに置いていかれないように、アカデミー活動によりいっそう力を入れて取り組んでいきたいと思っています。

日本大学　経済学部　産業経営学科　1年　内山晴揮
夏合宿に行き、私が一番強く感じたことは、夏合宿に参加することで人脈が広がるということです。私の宿舎の部屋はみな大東生で、私 1 人だけが日大生でした。始めはなかなか馴染むことができませんでしたが、だんだんと打ち解けていくことができました。
また、夏合宿は広げた人脈を深めることもできると思います。例えば登山では、普段の WS 班であったため、今まで以上に仲を深めることができ、普段話せないようなことまで話すことができました。また、部屋で仲良くなった大東生と同期会で一緒になり、より深い話をすることができました。夏合宿後には、合宿で出会った2人と一緒に遊びに行ったり、飲みに行ったりする仲にまでなりました。
今後はその人脈をより深くし、そこから繋がる人脈を広げたいと思っています。
このような機会を作ってくださった梅沢先生には感謝しております。ありがとうございました。

日本大学　経済学部　産業経営学科　1年　加藤さらら
夏合宿に参加する前の私は、班内での交流はあったものの、他班との交流はほとんどありませんでした。そのため、私は「自分からたくさん話しかけて友達を作ろう」と目標を持ち、夏合宿に参加しました。
楽しみな反面、様々な不安がありましたが、同じ宿舎、部屋の人だけでなく、飲

み会などの機会で沢山の人とお話したことで、先輩、同期共に交流を深めることができ、当初の目標を達成することができました。
また、自分の仕事に責任を持って動き、不測の事態にも臨機応変に対処している先輩方の姿や、忙しい中でも私たちに笑顔で声をかけてくださる先輩方の姿を間近で見て、改めて先輩方の凄さを実感しました。そして、私も先輩方のようになりたいと憧れの気持ちを抱きました。
今年の夏合宿は一年生として参加させていただき、交流を深め、様々なことを学ぶことができました。しかし、来年はただ楽しむだけではなく、私も先輩方のように役職について夏合宿の成功に貢献したいと思いました。そのために今からどうしていくべきかということを考え、また、今回学んだことを活かしながら日々のアカデミー活動に取り組んでいきたいと思います。
改めて、このような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生、先輩方、本当にありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　1年　矢野俊哉
私は今回の夏合宿で感じたことが二つあります。
一つ目に200人を超えるこの梅沢人間力アカデミーの夏合宿の企画運営を行い、大成功に導いてくださった先輩方の偉大さを感じました。今回私は一年生としてこの夏合宿に参加させていただき、ただ楽しむだけの立場でした。しかし私が宿泊したあぜりあの宿舎では、あぜりあの生活班の先輩方が夏合宿のプログラムを円滑に運営する為に、迅速かつ的確な指示を出してくださっただけでなく、幹事団の先輩方などが不測の事態に対応するために常に話し合いを行い、寝る間も惜しんでよりよい夏合宿を作り上げてくださいました。それにも関わらず先輩方は私達が声をかければ辛い顔一つせずに気さくに対応して下さり、私達を楽しませてくださいました。総括でそんな先輩方の苦悩を聞いた時、強い衝撃を受けた事をよく覚えています。
二つ目に自分自身もただ楽しむだけでなく、先輩方のようにこの夏合宿の運営側の一員となりたいと感じました。そのためにも、秋季ワークショップをはじめとした活動の一つ一つに精力的に取り組み、来年の夏合宿では役職をいただくことで、今年の夏合宿とは異なる学びを得たいと強く思いました。
改めて、このような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生をはじめ、先輩方に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

日本大学　経済学部　産業経営学科　1年　山浦悠一郎

私は今回、梅沢人間力アカデミー夏合宿に参加したことによって、多くの人に知り合うことができました。この合宿には、懇親会などの行事が数多くあります。そこで、普段の経営研究会の活動で話すことのない人々と話す機会を持つことができました。普段話す機会のない人々と知り合うことができ良かったです。

日本大学　経済学部　経済学科　1年　吉原小太郎
私が今回の夏合宿に参加して最初に感じたことは戸隠の自然の豊かさです。普段目に触れることが無い草花や樹木は私にとって、とても新鮮なものでした。自由時間や親睦会では、今まであまり話すことが無かった他の班の人と交流することができ、自分が今までアカデミーのほんの一部の人としか交流が無かったのだと実感しました。今後は今回知り合った人も含めてアカデミー内でのより良い人間関係を作れていけたらと思います。
そして最後に一番印象に残ったのは合宿をより充実したものにするため奮闘していた先輩方の優しさと偉大さです。毎晩、夜遅くまで幹事会をし、自由時間を削って様々な準備をしている姿を見て、素晴らしい先輩方だと改めて感じました。自分もこのような素晴らしい先輩になれるよう精一杯頑張ろうと思います。とても楽しく、たくさんの仲間と学びを得た、充実した4日間でした。この合宿で得たことを今後のサークル活動、大学生活に生かしていきたいと思います。

(16班)

日本大学　経済学部　経済学科　4年　高橋奎太
私は今回、夏合宿の幹事と移動班の班長、宿舎長という重要な役職に就かせて頂きました。昨年以上に夏合宿を成功させるためにゼミ生の力を借りながら努めた結果、無事に成功する事が出来たと思います。また、学生としては最後に参加する夏合宿を全力で楽しもうと、あまり関わりの無かった同じ宿舎の1・2年生に話しかけた結果、多くの人と仲良くなる事が出来ました。この関係を夏合宿だけでは無く卒業後も続けていくために一緒にお酒を飲むなどより交流を深めていきたいと思います。

日本大学　経済学部　金融公共経済学科　３年　浅利誠吾
私は今回の夏合宿では初めて移動班という役職を持ち合宿を運営するという立

場に立ちました。実際に合宿当日では臨機応変に対応しなければいけない状況が多々あり、大変な仕事でありながらもやりがいがありました。
またディスカッション班では班長として初めて顔合わせする班員と円滑にディスカッションするための雰囲気作りとして既存生と新規生の交流を重視しました。その結果、短時間ではありましたが日大生、大東生ともに仲が深まったと感じました。今後も夏合宿でのディスカッション班との繋がりを大切にしていきたいです。いつものワークショップ班とは違うメンバーを一からまとめディスカッションする貴重な機会であり刺激的であり勉強になりました。この様な貴重な機会を与えて下さった梅沢先生をはじめとする、幹事の皆さま、先輩方に感謝致します。本当にありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　吉田真唯
私は、今年の夏合宿に初めて後輩を持つ立場として、またイベント班の班員という役職を頂き、夏合宿を運営する立場として参加しました。
初対面の後輩と話すのは緊張しましたが、一緒に楽しく会話ができる後輩を持つことができ、本当に嬉しく思いました。特に山登りでは、班の後輩と互いに励まし合いながら頂上を目指し、山頂までたどり着いたときの後輩の達成感に溢れた顔を見て、私も嬉しく、大きな達成感を得ることができました。また、去年よりも身近に先輩方を見ることができ、何事にも臨機応変に対応している姿に改めて強い憧れを抱きました。そして、率先して行動し、常に全力で物事に取り組んでいた同期に刺激を受け、私も努力しなくてはと奮起させられたと同時に、今後は更に仲を深め共に成長していきたいと感じました。この様な貴重な機会を与えて下さった梅沢先生をはじめとする、幹事の皆さま、先輩方に感謝致します。本当にありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　内田真衣
私は初めての夏合宿で特に感じたことが 3 つあります。
1 つ目は、多くの人と交流ができたということです。私の夏合宿の目標は、「日大生、大東生関わらず積極的に話しかける」でした。夏合宿に参加する前は、部屋やバスの座席などをしおりで確認した際、知っている人があまりいなくて不安が多くありました。しかし、合宿中では不安は消えとても楽しむことができました。また、積極的に話しかけたことで多くの人と交流することができました。この交流が今回の夏合宿だけのものではなく、来年やその先、もっと仲が深まるようにしたいと考えました。

2つ目は、登山をすることで感じることができた達成感です。私はこの夏合宿の登山が人生初の登山でした。今までは登山は大変だというイメージしかありませんでした。しかし、実際に登って頂上からの景色を見た瞬間、最後まであきらめず登って本当に良かったと思いました。また、班の皆で登ったことで大変なことよりも楽しいという気持ちが強まりました。そして達成感を感じることができました。今回の登山で感じたことは、最初から挑戦しなかったり、途中で諦めてしまったりしたら見ることのない景色や味わうことのない達成感があると思いました。私はこれからいろいろなことに前向きに挑戦していきたいと思います。
3つ目は、改めて先輩方の偉大さを知りました。先輩方は何が起こっても臨機応変に対応してくださったり、1年生がもっと話せるように話し合いをし、対策をとってくださったり、本当に感謝しています。先輩方のような人になれるよう精一杯努力していきたいと強く感じました。最後にこのような機会を与えてくださった梅沢先生、先輩方、宿舎の方に心から感謝致します。ありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　1年　小林瑶季
今回が初めての夏合宿でした。私は夏合宿以前、同じ大学の一部の人としか関わっていませんでした。そのため今回沢山のアカデミー生とコミュニケーションをとることを目標に夏合宿に参加しました。宿舎やディスカッション班には知らない方が多く、最初は不安でした。しかし、ディスカッションやキャンプファイヤー、宿舎での食事の時などを通して大学・学年関係なく多くの方々とコミュニケーションをとることができました。山登りはWS班でお互いに助け合いながら登りきったことで達成感を感じました。更に仲も深まりました。また、先輩方が的確な指示を出して下さり、急なハプニングにも臨機応変に対応している姿を見て改めて先輩方の偉大さを感じました。私も先輩方のようになりたいです。合宿に参加して自分自身成長することができました。更にこのような貴重な経験は今後のアカデミー活動に役立つものになると思います。夏合宿の運営をして下さった梅沢先生、先輩方に感謝しています。ありがとうございました。

日本大学　経済学部　金融公共経済学科　1年　高松創一
私は夏合宿に参加して 4 日間学び通せたことをとても満足しています。初めてだった登山はもちろん、キャンプファイヤーやディスカッションや大勢の人の前で話すことなど普段ではしない様々なことを経験することができました。た

くさんの先輩や同期と話すことで木アカや社会に出てからのディスカッションや、発表会での話し方や話のまとめ方など学ぶことができ、また自分の将来に対する考えの未熟さや甘さを知ることができました。それと同時に先輩方のしっかりとした考えや意志をもっていることにとても感銘を受け、１年からしっかり将来のことを考えて行動に移していこうと思いました。今年は新規生だったので役職もなく、先輩方のおかげで気兼ねなく楽しむことができ、梅沢先生や先輩方には感謝と偉大さを感じております。そして来年は既存生としての参加になるので今年の良いところはまね、良くなかったことは改め、今年の経験を活かしてより良い夏合宿にしたいと思いました。私はｗｓが終わったあと経営研究会に入ったので友達も少なく、経営研究会の雰囲気というものもまだ完全にはつかめていませんでした。しかし夏合宿を機に友達もでき、雰囲気もつかむことができ、最初私はそれらを目標に参加したこともあったので達成できたことをとても満足しています。そして４年間このアカデミーで自分を磨き、高めたいと感じたので来年も参加したいと思いました。

日本大学　経済学部　産業経済学科　１年　田中風太

梅澤人間力アカデミーの三泊四日における合宿を初めはそこまで期待していませんでした。しかしながら合宿が終わった今、私はこの微量しかなかった期待を良い意味で裏切られたと実感しています。そこで今回の合宿において特に印象に残ったこと三つ挙げてゆきたいと思います。

一つ目は二日目に行われた山登りです。木曜アカデミーで合宿の事前説明が行われたとき山を登るという話を聞いて「山登りとか小学生の林間学校みたいだな」と軽視していました。しかし、実際に登ってみると班の仲間と雑談しながら登るのはとても楽しく頂上に着いた時には小学生の時には味わうことのできなかった感動がそこにはありとても有意義な時間だったと思います。

二つ目はインカレサークルならではといえる大東文化大学との交流です。大学の垣根を越えて優しくしてくれる先輩がたくさんいて一年生で緊張していた私は安心したのを思い出します。さらに三日目の夜に行われた同期会においてはあまり親交の深くなかった日本大学の一年生はもちろん、大東の一年生とも様々な話をすることで親睦を深めることが出来、今後の人間力アカデミーでの活動が楽しみになりました。

三つ目は最終日に行った総括です。自分自身は発言することはなかったのですが代表して登壇した同期、先輩の姿が格好良く思えました。特に宿舎のほうでもお世話になった寺田佑さんの総括はこの人間力アカデミーで過ごした三、四年間の思いが伝わってきてとても印象に残り、私も最終学年になったときこのよ

うな思いのこもった総括ができるような人になりたいという大きな目標が出来ました。
この合宿を通して純粋に楽しかったという思いと一年生なのでしょうがないというのはありますが 4 日の間プログラムを運営し、盛り上げようとしてくれている先輩がいる中で何もすることが出来ない自分がいて、歯がゆさを感じました。来年の合宿は自分も楽しむのと同時に入ってくる後輩を楽しませるために積極的に行動してゆきたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学部　1 年　松原由衣
夏合宿に参加させて頂いた当初、私の胸には多くの不安がありました。特に、他大学も含めたアカデミー生の方々と上手く交流出来るか、ということが人見知りの自分にとって最も大きな心配事でした。しかし、事前のディスカッションを通してそんな自分を変えたいと思い、これまでのアカデミー活動で関わりを持った同期生や先輩方のもとを一旦離れ、合宿ならではの環境で新たな人間関係を築くことを自分の目標としました。そうして一日二日と過ごしていくうちに、山登りやディスカッションなどの大きなものから、話したことのない人と座らなければならない食事の席といった小さなものまでこの合宿は知らないアカデミー生と交流する為の場がとても多いことを実感しました。絶えずコミュニケーションを取り続けた結果、積極的に声をかける事に躊躇いがなくなりました。この様な環境に身を置けたことは本当に幸運だったと思います。
私はこの夏合宿を通して他では出来ない貴重な体験や、かけがえのない仲間を得ることが出来ました。来年も是非参加させて頂きたいと思います。
最後になりますが、昼夜問わずのお仕事で夏合宿を作り上げて下さった先輩方、そしてこのような素晴らしい機会を与えて下さった梅沢先生に心より感謝申し上げます。

日本大学　経済学部　経済学科　1 年　皆川亜弥夏
アカデミーに入って初めての夏合宿でした。私の目標は、『日大や大東関係なく交流を持つ』ことでした。私が泊まった宿舎は高妻ロッヂで、大東のメンバーが多かったこともあり、新たな交流ができました。また、山登りやキャンプファイヤー、ディスカッション班などの交流でも、初めましての方とも仲良く、前から仲が良かった方とももっと仲良くなれたと感じています。素晴らしい 4 日間でした。
この戸隠の自然に囲まれ過ごした 4 日間で、学んだこと・改めて気づいたこと

があります。『先輩方の偉大さ』です。同じ部屋の先輩が生活班でした。ほとんど部屋にいることがなく、たまに来ても、いつも忙しそうで、なにか手伝えることはないかと探しましたが、なにもできませんでした。また、あいにくの雨でキャンプファイヤーが中止になるなど、天候には悩まされましたが、移動班やイベント班、宿舎の先輩方の適切な誘導があったため、スムーズに行動できました。この２つの体験から、先輩方のご活躍の上に、夏合宿が成り立っているのだと痛感しました。同時に、新規生である私はとても無力だ、無力な自分がもどかしい、と感じました。来年は夏合宿の運営に携わり、少しでも先輩方の力になれたら、そして来年入ってくるであろう後輩たちを上手く導くことができたら、と強く思っています。さらに、最終日の総括での、梅沢先生のお話にありました「日大に期待している」というお話に感動しました。先生の期待に答えられるように努力したいと強く思いました。
最後になりましたが、夏合宿という素晴らしい出会いと学びの機会を与えてくださった梅沢先生と、企画・運営をしてくださった先輩方に感謝申し上げます。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

（17 班）

日本大学　経済学部　経済学科　4 年　山口将治
私は、今回 4 年生として 4 回目の夏合宿に参加いたしました。今年の夏合宿は昨年までとは違い、生活班という立場で運営側としての参加となり、夏合宿の準備の段階からの参加となりました。私の配属された生活班は、夏合宿中にアカデミー生の身の回りの事や風紀に関することのサポートを主な仕事にしている組織でした。準備段階から生活班のメンバーで集まって当日の動きを確認したり、新しくサポートできることは何かないかと、議論したりして合宿開始前からとても忙しく動いていました。そして、夏合宿当日になって実際に動き始めると、打ち合せ通りには動けずにその場で臨機応変に判断しなくてはならないことがたくさんありました。特に、今回の夏合宿は天候によって大きく変わることが多々あったので、自分が担当である宿舎のアカデミー生をどこに何時に集合させるのか、などといったことが非常に大変でした。さらに、後輩からは宿の使い方についての質問や、仕事についての相談などがたくさんありとても大変でした。その中でも、出来るだけ他のアカデミー生と交流する時間を作って少しでも話すことができたことはとても良かったです。今回で最後となる夏合宿は私の学生生活において貴重な経験となりました。最後になりました

が、今回このような貴重な体験をさせてくださった梅沢先生をはじめ、夏合宿を作りあげてくださった、同期の方々、後輩の皆さん本当にありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　４年　金子誠
私が今回の夏合宿で特に印象深かったのは、生活班の仕事と夏合宿の総括の時間でした。まず生活班では、合宿前の準備で宿舎割りと風呂シフトを行いました。今年の夏合宿は去年の夏合宿とは違い、５つの宿舎に泊まることになったので、その分部屋割りがとても大変でした。そして私は部屋割りと風呂シフトの作成を行う宿舎班のリーダーを務めましたが、後輩にあまり仕事が触れず、自分１人で仕事を抱え込んでしまうこと多くなってしまい、小さなミスをたくさんしてしまいました。そして夏合宿当日では、合宿準備時の反省を念頭に置いて、後輩達に指示を出すことを心掛けました。その結果、後輩達の協力のもと、合宿当日ではスケジュール通りにスムーズにことを運ぶことができ、夏合宿の成功に繋がりました。そして夏合宿の総括の時間では、100 人以上が前に立って、夏合宿の感想を発表していたため、十人十色の感想を聞くことが出来て、面白かったです。また自分の同期の総括はとても感動するものが多く、私は涙を流しながら聞いていました。
そして最後に、今年の夏合宿は参加者全員の協力があったからこそ、楽しく、充実とした夏合宿となったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　３年　新井良太
私はこの夏合宿を通じて、役職につき仕事をこなすことへの責任感を学びました。私は、移動班として２年目の夏合宿であり、頭の中では去年と同じようにこなしていけば大丈夫であろうと勝手に考えていました。しかし行きのバスの中からすでに去年とは違っており、運転手との値段交渉のために全く休む暇がありませんでした。宿についてからの３泊４日も生活班の手伝いや、イベントでの声かけ、雨の中でのアカデミー生の宿への送りなどとても忙しかったです。しかし、去年と比べて２年生が多く、さらにみんなが一生懸命仕事をしてくれたため、つらいと思うことは全くありませんでした。最終日では、同期、先輩たちにも助けられ、自分が不甲斐なくなりました。来年は最後の夏合宿となるため、今回の反省をしっかりと活かして夏合宿に臨みたいです。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　石丸恵登
今回の夏合宿は私が２年生へ繰り上がって初めて移動班という役職を頂いて臨みました。主な仕事内容を先輩方を見様見真似で行う中で、アカデミー生を引率して移動する時が１番大変であると感じました。大人数を移動させるためには常に計画性のある行動が求められます。しかし私は行動に対して無計画で、ただ大声を張って全体に指示をしているだけでした。来年度もしまた移動班をやらせて頂けることがあればもっと計画的かつ効率的な行動を取り、スムーズな誘導ができるよう尽力したいです。夏合宿全体を通した感想としては、初めて後輩を連れた合宿で部屋割りも後輩と一緒になれたことで今まであまり話したことのない人ともコミュニケーションを取ることができました。また、コミュニケーションを取る中で一人一人の魅力的な人間性を知ることができました。最終日の総括の際は同じ WS の４年生の先輩方と最後の合宿になることを痛感し、思わず涙してしまう場面もありました。総じて今回の夏合宿は笑いあり涙ありのとても有意義な合宿になったと感じました。最後にこの合宿を計画してくださった幹事団の皆様と梅澤先生に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　高橋悦
今回の夏合宿では、昨年とは違いイベント班と部屋長という役職をいただき、夏合宿を楽しむだけではなく裏方として皆様に楽しんでいただく立場にいました。イベント班ではキャンプファイアーを盛り上げるために、何回も打ち合わせしてより良いものにしようとしたり、行きのバスでのレクリエーションを考えました。バスでのレクリエーションは、四年生の先輩の元で、自分なりに盛り上げることが出来たので本当に打ち合わせを重ねてよかったと感じました。キャンプファイアーでは残念ながら途中で雨が降り予定通りにいかなかったのがとても悔しかったです。もし来年もイベント班という役職をいただけるのであれば必ず成功させたいです。この部屋長とイベント班での活動を通して１番に感じたことは、先輩がすごいなと思ったことです。去年は裏方の方達の活動は見ることはなかったのですが、いざ自分もそこに混ぜてもらうと、夏合宿をどう成功させようかと考えて悩んで討論してる姿を見てすごい先輩達がたくさんいるなと思いました。そんな方々になりたいと思いました。最後にこのような成長できる貴重な環境と機会を与えてくださった梅沢先生に感謝してます。ありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　大谷美穂
夏合宿を振り返って、今回私は２年生として参加して、去年とは異なる立場で合宿に関わることができて本当に嬉しく思います。今年からは、移動班として新たにやらなければならない仕事が増えた事もあり、周りとの協力がとても大事なことだということを痛感しました。また、この様に協力しあうことの大切さは、移動班の活動だけに言えることではなく、宿舎内や、ワークショップ班、ディスカッション班の活動においても強く感じ、お互いがそれぞれを支え合って自身のやるべき事を全うするというのは非常に良い経験になりました。今回の夏合宿は天候にも左右されることも多く、最初は無事に全てのスケジュールをこなせるのか心配でしたが、無事に過ごすことができ、新しく仲良くなった人も増え、有意義な時間を過ごすことができました。来年は今年以上に夏合宿を楽しめるように頑張りたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　齋藤立樹
今回の夏合宿では生活班という役職を与えられたことで、昨年度とは大きく異なった４日間でした。先輩という立場で後輩への立ち振る舞いを気をつけつつ、任された仕事をしっかりと行うという２点です。随所で１年生がつまらない思いであったり、また困ることがないように、常に気を配ることが意識の中心でした。このような小さなことであっても、合宿を終えて振り返ってみれば、想像以上に大切な事であったと思います。また、合宿を運営していくなかで、どんなに小さな仕事でも、組織の中では立派な一員として働いているということも感じました。失敗があれば、それは全体と大きく影響しあうということも強く実感しました。昨年度はアカデミーの中で自分がどういった力を必要とし、育てたいかを考えたのに対して、今年はそれらをより具体的に考えることができました。来年、再来年も合宿に行くことであれば、新たな環境を利用してさらに自分を向上させられるようにしたいと思いました。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　重田隆志
私は今回初めての夏合宿参加でしたが、生活班、部屋長をやらせていただきました。人前で話す事や、スムーズに生活できるよう考える事など、普段の生活では経験できないような体験をし、自身の人間力向上につながったと思います。三年生の夏合宿も是非参加したいと考えたと同時に今回の経験を今後のアカデミー活動に活かしていきたいと思いました。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　林田尚大
私は今回生活班という役職を頂き夏合宿に参加させていただきました。役職を頂いたことで、自分になにができるか何をすればいいかということを常々考え行動したい。という目標を持ち夏合宿に臨みました。初めての生活班で辛い部分も多く大変でしたが、それ以上に同じ宿舎の先輩や後輩、同期に『ありがとう』っていってもらえることが嬉しくて本当に４日間充実した夏合宿でした。
私自身ふと気づいたことがあり、以前の私は何か仕事を頼まれた際に『頑張ります』と答えていました。しかし、『いつまでにやります。』と答えるようなっていて、それも生活班で充実した生活を送れたからかなと思いました。
合宿前までは主に班のメンバーとばかり会話をしていましたが、夏合宿を通して大東の後輩や先輩と仲良くなれて、縦のつながりや横の繋がりが広がったなととても実感しています。
私もあと半年で２年生も終わり、３年生へと上がります。今以上に高い意識を持ち過ごしたいと思っております。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　青谷一輝
僕は今回夏合宿に参加して今まで話したことのない人と多く話すことが出来て良かったなと思いました。宿舎に居た時も大東の人達とトランプなどカードゲームを通じて話す機会を得られましたし、日大生の中でも話したことのない同級生とも話せたと感じています。
同期会やディスカッション班でも、いつもとは違う人と話すということで最初は緊張や不安もありましたが、徐々に話せるようになっていきました。とは言え同じサークル内で全ての人と話すことが出来たわけではないので、これからも少しずつでも話したことのない人と話せたら良いなと思います。知らない人と話す事自体は緊張もしますし、あまり得意ではないですが、こういったことは様々な場面で起こり得る事なので、サークルを通じて慣れていきたいです。
この合宿は様々な人と話す事が出来るので自分の中では参加して良かったです。今回は１年ということで合宿中特に何も仕事とかは無くて、全て先輩達にやっていただいて単純に楽しめたのと改めて先輩達には感謝しかありません。
まとめとして僕自身はこの合宿で良かったなと思う事ともう少し自分なりに積極的にいけたんじゃないかという満足した面と反省した面があります。ですが今回の合宿は良い思い出になりました。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　春本哲郎
多くの新規生が同じように考えていたことと思いますが、私は夏合宿に参加する上で、班の垣根を越えて多くの人と話したいと思っていました。そこに多少の不安があったことは否めませんが、特に大東生とは普段のアカデミーで共に活動できないぶん、よりコミュニケーションをとりたいと思っていました。言うまでもなく、人脈形成の機会が用意されていることは、アカデミーの強みであり、この舞台を活かさない手はありません。
その上で振り返ってみると、私は宿舎やディスカッション班に大変恵まれました。正直、私は１７班から離れて活動することだけでなく、既にコミュニティが形成されていた場合、積極的に歩み寄れるか不安でした。無論これは杞憂だったわけですが、宿舎では同期との交流こそやや希薄になってしまったものの、それ以上に多くの先輩たちといろいろな話をすることができ、最終日には多くの先輩が出会ってわずか四日にもかかわらず先輩方の話に感慨深くなるほどに距離が縮まりました。また、ディスカッション班では先輩同期問わず話すことができ、アカデミーの枠を超えた輪を形成できたように思います。それだけでなく同じ宿舎の先輩や合宿以前から顔を知っていた同期とはここで距離を詰めることができたと思うと、やはり私はこの二つに恵まれたことが合宿を有意義なものにできた一因であると思います。
また各々責任ある役職を持って活動していた普段とはひと味違う既存生の背中は、私の目標となりました。幹事の方々をはじめ、生活班や移動班などの班の方々あってこその合宿だということを四日間常に感じ、来年私が戸隠に帰ってくるときは、何かしらの役職を持って先輩たちを支えて成功させたいと思いました。
まとめとして、多くの人と話して知見が広がったこの四日間は貴重な財産となりました。これから秋の活動に向けて再び班での活動が中心となると思いますが、夏に得たものを活かして今後も班のため、自分の成長のため活動していきたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　長谷川恵理
初めて夏合宿に参加させて頂き、まずは率直に楽しかったです。ありがとうございました。そして多くのことを学ばせて頂きました。ここでは夏合宿で私が一番学べたと感じた積極性の大切さについて書きたいと思います。
夏合宿中、自己紹介をしない日は１日もありませんでした。毎日新しい出会いがあり、刺激をたくさん受けました。多くの方々とお話しさせて頂ける機会が

あるということは、『人見知りをせず気持ちよくコミュニケーションを取れるようになる』という、私自身の夏合宿の目標を達成する機会があるということでした。しかし実際は一歩踏み込めなかったり、先輩方に声をかけるのを臆してしまったりと想像より上手くできませんでした。
そんな中、同期の子達は積極的に周りに話かけていました。どんどんアカデミーの一員になっていく同期と、まだ新入り気分の自分との差に焦りまで感じました。
私も早く胸を張ってアカデミーの一員ですと言えるよう、積極的に行動しコミュニケーションをとっていきたいと思います。そして、夏合宿でより一層憧れの気持ちが強まった先輩方のような存在になれるよう、日々のアカデミー活動に取り組んでいきたいです。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　堀川絵未
今年の夏合宿を通して感じたことが二つあります。
一つめは、人脈の大切さです。私は、人脈を広げるという目標を掲げて夏合宿に臨みました。そして、実際夏合宿に臨んでみると、大自然の中で行われたディスカッションや３泊４日ともにする部屋のおかげで自然と人脈が広がっていくことを感じました。そして、同期や先輩方との人脈を広げることで経営研究会での自分の居場所ができるのだと実感しました。
二つめは、先輩方の偉大さです。私は、合宿に来て、先輩方が生活班や撮影班、移動班などの役職に就き、忙しくされている姿を見て、大変そうだなと感じました。しかし、先輩方は大変そうな顔をせず、楽しそうに話して下さったので、改めて先輩方の偉大さを感じました。また、自分は先輩方のように役職を果たすことができるのかと自分への不甲斐なさを感じました。この不甲斐なさをなくすために、今後も経営研究会の活動に参加させていただき、日々精進していきます。そして、来年の夏合宿は、もし役職に就かせていただければ、先輩方のように、また、自分なりにどんな役職でも全うしていきたいです。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　守屋佑
今回の夏合宿で大東の一年生と仲良くなれて活動以外でも交流ができ人脈がすごく広がった合宿になりました。また、上級生ともさらに親睦が深められ参加して良かったです

日本大学　経済学部　経済学科　１年　佐藤優希
今回の夏合宿を通して、自分に足りない２つのことを認識することができました。一つ目は、自分の意見をまとめることが苦手だということです。ディスカッションの際、自分の意見がまとまったと思い班内で話し、いざ文章に起こしてみると全く書き進めませんでした。その後ようやく出来上がった文を先輩に見ていただくと、「話の筋が曖昧」と言われてしまいました。そこで、頭の中で整理のついたと思っていたものが、実は全くまとまっていなかったのだと認識しました。これからの活動や日常生活を通して、しっかりと相手に意見が伝わるような話を構成できるように努めます。二つ目は、コミュニケーション能力のなさです。合宿前はきっと友達がたくさんできるだろうと楽観視していました。しかし、話したほとんどの人とは挨拶だけで終わってしまい、結局仲の良くなった人はごくわずかでした。なので、普段から社交辞令だけではなく、もう一歩先の話を持ちかけることで、相手との関係をしっかり築けるように心がけます。

(18 班)

日本大学　経済学部　産業経営学科　4 年　佐野恵美
私は今年度の夏合宿で大東４年の小口と共に統括幹事を務めさせていただき、組織の在り方や組織運営の難しさを学ばせていただきました。梅沢先生のご指導の下、アカデミーの夏合宿の統括幹事として自分はどうあるべきか考えながら行動することで、組織のなかで行動する難しさを感じることが出来ました。未熟な私はその点考えが至らない部分が多くあり、梅沢先生や宿舎の方々、運営に携わってくれた幹事団や班長、班員にはご迷惑をおかけすることもありましたが、一つ一つの問題に立ち向かう毎に多くの学びかあり、失敗も含めて貴重な経験をさせていただきました。
また、統括幹事の経験で学ばせていただいたことに加えて、アカデミー生との関わりに関しても多くの学びがありました。統括幹事の役割で悩みがあったときは、歴代の幹事長を務めていらっしゃった先輩方を始めとした多くの OBOG の方々に助言をいただきながら進めてまいりました。また同期や後輩とも、協力体制を築きながら進めていくことが出来ました。そして新たな出会いとして、同じ宿舎やディスカッション班で知り合ったアカデミー生も多くいて、今後も継続する関係を築きたいと感じることができました。こうして縦も横も多くの人と繋がっていけるアカデミーに所属させていただいていることを今回の夏合宿で

改めて実感し、感謝の気持ちとともに、今後のアカデミー活動でも繋がりを大切にしながら過ごしていきたいと感じました。
来春から社会に出て働く人間として、ほかでは経験できないような大変貴重な経験をさせて頂いたと改めて実感しています。自分には統括幹事は向いていないのではないかという不安の中、日々挑戦の連続で辛いこともありましたが、周りに支えてもらいながら諦めずにやり抜き、無事に夏合宿を終えることができたことは、一生忘れない経験となりました。
最後になりましたが、未熟な私を今年度の統括幹事として任命して下さり、連日にわたりご指導してくださった梅沢先生、誠にありがとうございました。今後もアカデミー活動の中で、多くの学びを得ながら成長していけるよう、活動してまいります。

日本大学　経済学部　経済学科　３年　佐野祐弥
今回の夏合宿では後輩・同期・先輩との仲がより深まったと思います。私はピアロッキーに泊まっていましたが、今まであまり関わることができなかった一年生が話しかけてくれたり、話しかけると快く応じてくれたので多くの１年生と仲を深めることができました。来年の夏合宿では私たち３年生がアカデミー全体を引っ張る立場となるので今年よりもよい夏合宿にしていきたいと思います。
最後 にこのような貴重な機会を与えて下さった梅沢先生、４年生に心から感謝致します。本当にありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　川﨑凌
私は夏合宿に参加して同期の頼もしさを実感しました。夏合宿では生活班や移動班などの役職がありましたが、私は今年役職につくことはありませんでした。しかし、私の所属しているWS班の班員やその他多くの同期が様々な役職についていました。私はそれをみて、同期の頼もしさを実感すると同時に来年は自分も役職に配属され夏合宿を運営する側に立ってみたいと感じました。なので、今後はアカデミー活動をもっと積極的に参加し、来年こそは役職に配属されるようにしたいと思います。

日本大学　経済学部　産業経営学科　２年　田幡将長
今回の夏合宿は昨年とは違って自分自身楽しむことに加え、先輩としてしっかりと後輩の面倒をみようと思って参加しました。しかし、私は移動班、部屋長と

いう役職をいただいていたので自分のスケジュール管理、同部屋の後輩たちへの指示などがあり実際は自分が楽しむ時間は無いのではないかと思っていました。
実際の合宿はとても充実した４日間でした。同部屋の後輩達は私が忙しそうにしていると何か手伝うことはないかと尋ねてきてくれたり、部屋長会議が終わって部屋に戻ると布団が敷いてあったりとたくさん後輩に助けてもらいました。また同じ宿舎の先輩や同期、後輩達とたくさん話すことができ人間関係という面から見てもとても充実したものでした。
しかし、移動班としての私自身を見つめるととても悔いが残ります。理由としては移動班として山登りなどで活躍する事が出来なかったからです。同期でも仕事を任されている人はいたのに私は特にやることはありませんでした。それはただ私が仕事を見つけるのが下手で、自分から仕事がしたいという積極性が足りなかったからだと思います。
来年の合宿では悔いは残したくありません。そのためにこれからの一年間しっかりと努力をし、成長して来年の合宿に臨みたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　三谷成央
昨年夏合宿には参加できず、今回が初めての夏合宿でした。まず初めての参加にも関わらず、ディスカッション班と部屋長を任せていただき、とても嬉しかったです。また、合宿に行き、感じたことが２点あります。
１点目は、生活班や移動班の存在の有り難みを感じました。私はディスカッション班という役職をいただき、ディスカッションに関する裏方の仕事をしました。グループの男女比やパワーバランスなどを考えて班を作成したり、当日のディスカッションの際に名札や時間の管理をしたり、大変でした。しかし、生活班や移動班のメンバーが手を貸してくれることがたくさんあり、とても助かりました。その他にも、たくさんの場面で、それぞれの班が仕事をしてくれているおかげで合宿が出来ているということを実感し、感謝しています。
２点目は、先輩、同期、後輩と、人脈が広がり、参加して良かったと感じています。同じ宿舎の先輩方とは、後輩への指導の仕方でアドバイスをいただいたことがありました。また、同期とは運営の班は違えど、スムーズに事が運ぶよう協力し合あうことができました。そして、後輩とは、特に同じ宿舎や同じ部屋の人達と話す機会が多かったですが、現在の WS 班の後輩と同じくらい仲良くなることができました。それぞれ大東や日大関係なく、アカデミー内で親しい人が増えたことがとても嬉しく、また自分のコミュニケーションにおける自信につながりました。

来年はいよいよ3年生として参加し、夏合宿を中心で運営する立場になります。今年、先輩方や同期か、学んだことを活かし、充実した合宿をなるよう頑張りたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　２年　宮田秀俊
今年の夏合宿は、学年も 1 つ上がり去年とは違う立場で参加することができました。去年と大きく違った点は移動班という役職を先輩方に与えていただいた点です。正直役職を与えていただけるとは思っていなかったので嬉しい反面、不安と緊張でいっぱいでした。自分が移動班の仕事を実際にしていく中、誘導や荷物の手配の際に先輩方には数え切れないくらい支えていただきました。そこで改めて先輩方の偉大さと自分の不甲斐なさ、また行事の運営に関わることの大変さを実感しました。先輩方には感謝の気持ちしかありません。また、同じ移動班の同期が誘導の際、率先して声かけをしている姿や、先輩方から仕事を任されている姿を見て刺激を受けたことを強く覚えています。自分も負けていられないな、と感じました。今後アカデミー活動で何か役職を任せていただいた際には自分から率先して仕事に関わりたいです。
夏合宿中、嬉しかったことがあります。それは自分の班の 1 年生が大学や学年関係なく、色々な人と交流していた点です。1 年生には今後もその繋がりを大切にしてほしいと思います。 天気に恵まれない部分はありましたが、非常に充実した 3 泊 4 日を送ることができました。ぜひ来年も参加したいです。

日本大学　経済学部　産業経営学科　2 年　山本将太
今年の夏合宿を振り返ってみて、何点か感じたことがあります。1 点目は先輩の偉大さです。私は、部屋長を務めさせて頂きました。その中で先輩たちと関わる機会が去年よりもたくさ んあり、先輩たちと様々な話をし、先輩の仕事ぶりを見て改めて先輩はすごいなと改めて感じました。2 点目は同期の大切さです。今回私以外の同期は役職に就いていて頑張っている姿をみて私も頑張らないといけないと強く思いました。
今回の夏合宿で感じたことをこれからのアカデミー活動に活かしていきます。

日本大学　経済学部　経済学科　1 年　大竹雄斗
8 月上旬、合宿という言葉の響きに嬉々とした私の心とは裏腹に、1 週間程重力に身を任せていた私の足腰は山登りなど到底出来るものではなかった。そもそ

も経営研究会の合宿とはなんなのか？と疑問に思いつつ、私は当日の朝を迎えた。これから 4 日間、私はかつての堕落した生活から離れ、この不思議な時間の中に入っていくのです。初日、主なイベントに自己紹介があった。幾度か見覚えのある顔もあったが、初めて知る人々の個性の豊かさに圧倒されつつ、出来る限り顔と名前を一致させるのに精一杯であった。また、この日は宿舎で何人か新しい友人ができ、皆こんな私にも優しく接してくれ、来て良かったと感じた。翌日、問題の日がやってきた。山登りである。もちろん体力の心配もあったのだが、元来多汗症である私は脱水も懸念していた。山を登り初めて三十分も経たないうちに“帰りたい”という一心が脳内を駆け巡った。良くない傾向である。こうなったら楽しんで山を登るしかない、そう考えた私はなるべく自然豊かな山林の風景を支えになんとか登りきることができた。途中、水が底を突き、脚がつりかけたがなんとかなるものである。この登りきったときの達成感たるや、残りの 2 日を含めても合宿中で最も嬉しい瞬間であった。無事下山、早朝までの不安を馬鹿らしく感じるようになっていた私は成長したのかもしれない。夜にはキャンプファイヤーなるものが開催されそのようなハイカラな娯楽は私には似合わないようにも思えたが、そんな思いは火の勢いによって疲れとともに吹き飛んだ。合宿の難所を越えたこの日の夜はよく眠れた。3 日目、半分を過ぎやっとアカデミーらしいイベントが顔を見せた。初めて接する人々とのディスカッションに緊張や不安はあったが、先輩方の助けもありなんとかまとめることができた。途中雨が降りだし場所などの変更も行われたが良い思い出である。最終日は総括（私は出番がなかったが）を終え、そのまま帰路につくバスに乗った。車内で合宿での出来事に思いを馳せつつ少しの間眠りについた。その後無事池袋に到着し、そこで合宿中に知り合った友人と食べたとんかつは美味であった。

日本大学　経済学部　経済学科　1 年　岡田昂大

今回の合宿で改めてコミュニケーション力の大切さに気が付きました。まずこの合宿では多くの知らない人と話す機会があったからです。行き帰りのバスや、宿舎、ディスカッション、など様々な場面、状況でコミュニケーションの取り方を対応させるのはとても大変でした。元々あまり初対面の人と話すことが得意では無いこともあり、不安もありましたがみんな気さくに話しかけてくれたり、会話を広げてくれたおかげで私も積極的にチャレンジすることができました。同期だけでなく先輩方に対しても多くの話す機会があり、先輩に失礼のないようにしつつ、自分を出すことはとても難しかったですが、うまく打ち解けることもできました。　　次に班活動です。この合宿中では直接班で行動したのは山登りだけでしたがその時間にもすごく濃い時間を送ることができました。その

他の時間を班員ではない人達と過ごしていることもあり、普段から一緒にいる班員と会っている時間は宿舎であった出来事の話などそれぞれがたくさん話したいことがあったこともありいつもの活動以上に話が弾み、より楽しむことができました。そこでもまたそれぞれの場や人に応じたコミュニケーションの取り方があることを改めて感じました。　今回の合宿に参加し、頑張ったことで私自身少し成長できたと実感しております。とてもいい経験ができました。来年は後輩がいる立場としてまた違ったコミュニケーションを学ぼうと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　川東直貴
今回の合宿では大変意味のある体験ができた。そのかなでも、印象に残ったことは二つある。一つ目は、人との繋がりの輪を広げることだ。合宿のかなでは宿舎では大東文化大学の先輩方、また食事・キャンプファイアー・登山・ディスカッションそして、打ち上げで様々な人達と交流することができ、また、人脈作りそして、コミュニケーションをとっていくことの大切さを痛感した。
二つ目は、先輩方の責任ある行動だ。私はまだ一年生ということもあり先輩方のように役職にはついてはいない。だが、目の前で活動がスムーズに行えるように先輩方がきびきびと行動していた姿はとてもかっこよかった。夜遅くまで見回りや、明日の打ち合わせなどをしている姿や、登山のときにカメラを持って走り回っている姿はとても印象に残った。それと同時に来年には自分もこのような素晴らしい先輩方のようになっているのかという不安や焦りもあった。まだ一年生だからといって受け身になっているだけではアカデミーの目標である自己成長には繋がることはできません。これから秋のワークショップなど大変貴重な体験をする機会がある。そこでは、積極的に関わっていき来年は自分が役職をもらえるような人間力のある自分の姿を想像しながら頑張っていきたい。
最後にこのような素晴らしい機会を与えてくださりありがとうございます。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　杉本桜花
初めての夏合宿は、私自身非常に良い経験になりました。今までまったく交流のなかった人と同じ宿舎や部屋で生活をしたり、ディスカッションをしたりすることに、自分から積極的に話しかけにいくことが苦手な私は、夏合宿に参加するまでは大きな不安がありました。しかし、実際に参加してみると、多くの同期や先輩、大東の方々と交流することができ、とても楽しかったです。それだけでなく、ディスカッションや生活を共にすることで、今までになかった考え方や価値観に触れられることができ、視野が少し広がったように思えます。

さらに、合宿中の先輩方の、周りやその場の状況をみて臨機応変に対応している姿や困っている人がいたら助け合いながら活動している姿に感銘を受け、今まで私は自分自身のことしか考えられていなかったことがわかりました。
これらの経験は合宿に参加しないと得られなかったものです。最初は参加するかどうか迷っていましたが、今は参加してよかったと思っています。今回の合宿で得た経験をこれからに活かしていきたいです。

日本大学　経済学部　経済学部　1年　竹久保来嘉
夏合宿はあっという間に終わってしまいました。最初は不安しか無かったけど、毎日楽しく4日間を過ごすことが出来ました。 その中でも強く印象に残っているのは、交友がとても広がったこと、先輩達の偉大さを知ったことです。私は大東おろか日大の同期でさえそれほど沢山友達がいたわけではありませんでした。しかし夏合宿のおかげで今まで話したことのない日大の他班の同期、そして両大学の沢山の先輩方と接し仲良くなることが出来ました。また、どの班の先輩方も役職をもらっている方は努力していて、会議や仕事があり、少ない睡眠の中で皆のために弱音を吐かず仕事をこなしていく姿を見て、自分の理想とすべき先輩を沢山見つけることが出来ました。
来年は、自分が「この人のようになりたい」と思われる立場になれるように、木アカや WS、報告会などには確実に参加し、役職を確実に貰うことを目標に掲げ頑張っていきたいと思います。
最後になりますが、このような素晴らしい機会を与えてくださった梅沢先生をはじめ、各宿舎のオーナーをはじめとする従業員の皆様、そして先輩方や同期の皆さん本当にありがとうございました。

日本大学　経済学部　経済学科　1年　田中大地
夏合宿を早退した私は最終日一日のことは全くわかりませんが合宿を通して数多く学びました。その中でも 1 番印象に残っているのは生活班の働きです。生活班は常に周りのことを考え、自分が疲れているのにもかかわらず夜遅くまで合宿所の人たちのタイムスケジュールなどを考え、それを実行できるよう常に声をかけに部屋をまわり役目を果たす姿はとても印象的でした。来年の合宿では、生活班の立場に立ち仕切る立場に立ってみたいと思いました。

日本大学　経済学部　経済学科　1年　田中麻椰

私は今回の夏合宿で人間関係の大切さを改めて感じました。私は自分から人に声をかけることが苦手でした。初めのうちはワークショップ班の友人に頼りっぱなしで自ら声をかけることができず、この合宿を乗り越えることができるのだろうかととても不安でした。ですが、色々な方と話をしているうちにその不安は薄まっていき、数回ではありますが自分から話しかけることもできました。今回の夏合宿でワークショップ班の方とも以前より打ち解けることができ、自分の交友関係が広がったのではないかと思っています。
これからは何事にも積極性を念頭に置き行動して、多くの方と交流を持てたら良いなと思います。この夏合宿での経験を今後の生活に生かしていきたい、そう強く感じました。

日本大学　経済学部　産業経営学科　1年　寺谷瞭
私は、夏合宿を通して得られたことがたくさんあると思います。その中で一番大きいものは人脈だと私は思います。今までのワークショップなどのアカデミー活動においては、班の人との交流が主で、なかなか他班の人と交流することがありませんでした。しかし、宿舎での食事やディスカッション、同期会を通して、日大大東を問わずたくさんの友達を新たに作ることができました。この人脈は、これからの大学生生活だけでなく、社会人になってからも重要になると思います。夏合宿で仲良くなった人とはアカデミー活動内外問わず、今後も交流を深めていきたいと思います。3泊4日の夏合宿はとても有意義な時間でした。梅沢先生をはじめ先輩方、コテージの方々に感謝しています。

日本大学　経済学部　経済学科　1年　東城美理
夏合宿に参加する前は、話したことのない方が多くいる中で 4 日間過ごすことに、不安を抱いていました。しかし、今回の夏合宿では多くの方々と関わりを持つ事ができました。同じ宿舎の方、ディスカッション班、大東文化の方などこれまで話したことのない方々と交流を持つ事ができ、非常に楽しかったです。
また、大人数で行動する中で、集団行動の難しさ、気の配り方等を学びました。合宿を通して、先輩方が夏合宿の運営の為に大変な努力をされている事に気付きました。組織の為に行動する先輩方に憧れを抱きました。今年は楽しむ事を目的に参加しましたが、来年は組織の為に行動できるようになりたいと感じました。大自然の中で過ごした4日間は本当に良い思い出となりました。

日本大学　経済学部　産業経営学科　１年　平塚愛
私は、「多くの人に自分から話しかけ仲良くなる」という目標を立ててこの合宿に参加しました。その結果、様々な人と仲良くなることができました。初めは、宿舎の部屋では私を除きみんな大東生ということでとても不安でしたが、勇気を出して話しかけるとみんな優しくすぐに打ち解けることができました。その後の登山や打ち上げ、同期会では日大、大東関係なく親睦を深めることができました。今後もこの合宿で得た繋がりを大事にしていこうと思います。
また、今回の合宿では先輩の偉大さを改めて知ることができました。合宿を楽しく終えることができたのは、先輩方が様々な準備をしてくださったからだと感じています。途中に雨が降るというアクシデントがあったにも関わらず、臨機応変に素早く対応していたのを見てとても頼もしく感じました。来年の夏合宿では、後輩に頼もしく思ってもらえるよう、先輩方を見習って行動したいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　廣瀬一樹
私は今回の夏合宿でとてもいい経験をさせていただけました。私は一年生ということで今回はもてなされる側として参加させていただきその中で先輩方の動きを見ていると今後の活動に対する士気が上がりました。また今まで関わることの少なかった方との交流もできてとてもいい経験ができました。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　松永大憲
今回、初めて梅沢人間力アカデミーの夏合宿に参加して非常に多くのことを学び、また自分の力の無さを痛感しました。具体的には、これだけの大人数での合宿を問題なく進めていく先輩方の行動を見ていて、的確な状況判断とそれに対する最善の対処法を素早く見つける能力が自分にはまだまだ足りず、欠如していると学びました。しかし、これまでほとんど話す機会のなかった大東文化大学の方々ともたくさんコミュニケーションをとることができたり、WS 班で山登りをして、より班の結束が高まったなどとても楽しく充実した夏合宿になったと思います。後期の活動では、前期、夏合宿で浮き彫りになった自分の弱点を少しでも改善し、強みにしていこうと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　松本達貴
今回、私は新規生の立場で初めて夏合宿に参加しました。この合宿に参加すると

決めてから、大東の同級生の友達を作る、ディスカッション班で気後れすることなく発言する、という２つの目標を立てました。合宿を終えて振り返ってみると、同部屋の大東の一年生は早く帰ったり遅れてて到着したりと慌ただしい中でもたくさん喋ることができ、ディスカッションでも自分の意見を言うだけでなく、班員の意見の反対意見を提案したりすることも出来ました。普段知らない人と喋ることを躊躇いがちな自分を改めて認識し変えていく努力をすることができる環境を目一杯活かせたと思いました。不便なこともあったけど参加して得たものがたくさんあったので参加してよかったです。また来年の夏合宿やこれからの木アカの楽しみがとても楽しみになりました。

(19 班)

日本大学　経済学部　産業経営学科　４年　根本萌
３年間連続で参加させていただいてきた夏合宿、毎年先輩の偉大さを体感してきました。今年は私達 4 年が最高学年として全体を引っ張っていく立場、ずっと憧れだった役職につかせていただいて頑張ろうと思っていました。しかし、私の過去の行いによってそれが出来なくなってしまい、正直何のために夏合宿に行くのか分からなくなっていました。立場がないにも関わらず私が仕事をしなければみんなに迷惑がかかる、とてもやりづらくて仕方なかったです。そんななか支えてくれたのは後輩でした。「萌さん頑張れ、俺たちはちゃんとみてるよ。」すごく響きました。立場がないからと言い訳をしていた自分が恥ずかしくなりました。こんな私なんかに言葉をかけてくれる大好きな後輩達のために出来ることは少ないけれど、卒業まで頑張ろうと思わせてくれる夏合宿でした。

日本大学　経済学部　産業経営学科　4 年　松井桃香
今年で 4 回目の参加となった夏合宿は、今までの中で一番印象深いものとなりました。それはイベント班の班長を任されたことです。私は 2 年生の時からイベント班の班員として活動し、毎年アカデミー生がキャンプファイヤーを楽しんでいる様子を見て達成感を感じていました。そして今年は班長を任せて頂き、初めは班員と協力しながら、積極的に活動していました。しかし当日が近づくにつれて、キャンプファイヤーを成功させることへのプレッシャーを強く感じるようになり、とても苦しい時間を過ごしました。そして当日は悪天候であったため、キャンプファイヤーは途中で打ち切りになってしまい、正直とても悔しかっ

たです。それでも同期や3年生から励ましてもらい、まだ話したことのない1年生からも「キャンプファイヤーすごく良い思い出になりました」「来年の夏合宿ではイベント班で活躍したいです」という声をたくさん聞くことができて、今まで懸命になって準備を重ねてきた甲斐があったと嬉しく思いました。来年は、後輩たちがより素晴らしい夏合宿を築き上げてくれることを期待しています！

帝京大学　医療技術学部　スポーツ医療学科　４年　吉澤幸村
私が今回夏合宿でイベント班と撮影班の2つに所属し活動させて頂きました。
その中で感じたこと、印象に残ったことは2つあります。1つ目は後輩と関わることの大切さです。2つの班に所属させて頂いたことにより普段関わる機会の少ない後輩たちと話す機会が増えたことや、今まで話をしてきた後輩たちと再度話す時間を設けることができ、互いに多くのことを吸収し成長できたと感じます。また夏合宿という特別な場で普段見ることのできない多くの後輩たちの頼もしい姿が非常に印象に残っています。
2つ目は、4年生にしてやっと同期と同じ舞台に立って活動できたと感じました。帝京大学という他に同じ大学の人がいないということで難しいことも多々ありましたが、皆に受け入れられ活動できた夏合宿は非常に有意義で楽しいものでした。
２日間で帰らなければならない状況で夏合宿当日から非常にバタバタした日程で、最後までいたかったという後悔もありますが、自分の頑張るべきことを応援してくれる仲間にも恵まれ結果として非常に満足のいく夏合宿となりました。
このような貴重な機会を与えてくださった梅沢先生に感謝致します。この度は本当に有難う御座いました。

日本大学　経済学部　経済学科　３年　一場空杜
今回の夏合宿を通して２つ感じた事があります。
１つ目は後輩の成長を感じました。私は今年昨年と同様に生活班を務めさせていただきました。昨年と大きく違ったのは、後輩の存在です。後輩を引っ張って仕事ができるのかとても不安でしたが、２年生が積極的にわからないことがあれば聞きに来てくれたり、動いてくれて不安を解消できたとともに、２年生の頼もしさをとても感じました。また、私の班の１年生が大東の１年生や先輩と積極的に話している姿を見て夏合宿に勧誘してよかったと達成感を感じました。
２つ目は同期の大切さです。今回の合宿で同期の活躍をたくさん見て刺激を受けました。また、３日目の夜に行われた同期会では、日大大東の垣根を越えて交

流していました。終始和気藹々とした雰囲気でとても明るい同期であると感じました。今後この期で切磋琢磨してアカデミー活動を盛り上げていこうと思いました。
今後、私たちの期が引っ張っていく立場であると思うので、さらに同期の仲を深め精進していきたいと思います。

日本大学　経済学部　経済学科　窪一希
夏合宿では、私は新規生という立場にも関わらずイベント班という役職を頂いたので、夏合宿を盛り上げようという気持ちだけでなく、役職をもらいたかった既存の 2 年生や最後の夏合宿である 4 年生のためにも、責任感を持って活動させていただきました。
そういった中で、夏合宿が終わってみて感じた事は、自分自身が自己中心的にイベント班の仕事をしていた事です。自分で処理できるような仕事を自分より多くの仕事を請け負っている先輩に安易に任せてしまい、無駄の負担を増やしていました。
自分のせいで、物事が円滑に進まなかった場面が何度かありました。
総括の時、4 年生の発表を傾聴すると、こんなに切羽詰った気持ちで運営しているのかと強く感じたと同時に、自分の責任感の不足も感じ取れました。
自分の役割の中で、自分で処理できるもの、協力が必要なもの、また、自分がやるべきでないものを取捨選択できる力がより円滑に物事が運ぶ事に繋がるのではないかと気づく事ができました。

日本大学　経済学部　産業経営学科　２年　内田里沙子
夏合宿では人との関わり、繋がりを学びました。日大だけではなく他大学の人々と触れ合う機会や、学年問わずコミュニケーションをとることができる夏合宿に参加でき、私自身も成長することができたと思います。
私はなるべく話した人の顔と名前を一致させることを目標としていました。そして、宿舎のメンバーだけではなく、バス移動やキャンプファイヤーなど様々な場所で出会った人々を覚えることが出来ました。大東の人たちが私のことを覚え、話しかけてくれたときは 3 日間がとても充実していたと強く感じました。
また、2 年になり、ただ参加し楽しむだけの去年と違い会計班として夏合宿に参加しました。夏休みの間から 3,4 年生の先輩と共に活動を行い、活動をやり終えたことが一番の成長に繋がったと思います。先輩方の行動は素早く正確で非常に感銘を受けました。私は会計班として活躍したわけではありませんでした

が、先輩方の活動を見たり共に作業を行っていく中で、夏合宿が毎年行えるのは先輩方の存在が大きいことを強く感じました。
3 泊 4 日の夏合宿は長いようであっという間でした。その 3 泊 4 日は短い期間でしたがとても貴重で、今後のサークル活動において大切なことをたくさん得ることができました。そして夏合宿で得た繋がりをその時だけではなくそのあとのサークル活動で活かせるように今後も積極的にアカデミーへ参加しようと思います。

日本大学　経済学部　金融公共経済学科　２年　櫻井智基
夏合宿は今年で二回目の参加となりました。この夏合宿に参加して、私は多くの学びがありました。
先ずは自然の力です。普段、コンクリートに囲まれて過ごしていては体験できないような素晴らしい豊かな自然がそこにはありました。自然は人間に恵みを与える一方で、時として、牙を剥く。不意の悪天候により上手く事が運ばないこともありました。
私は今回の夏合宿でも何か特別な目標を持って参加した訳ではありませんでした。一年学年が繰り上がり、本来なら出来るなりに後輩のサポートをしなくてはいけない立場にありながら、去年と何も変わらない合宿を過ごした。自分が自分に甘えた結果であった。自分は自己中心的な性格で精神的に幼稚で弱い。その弱さ故にそれにつけこみ自己暗示している。これからは今の自分を壊して、アカデミーになるたけ積極的に参加して先輩としての証明を得るよう頑張りたいと思いました。

日本大学 経済学部 金融公共学科 2 年 戸田直宏
夏合宿で戸隠に行ったのは今年で 2 度目である。昨年は感想文で自然の大きさについて述べた。今年はなぜこの壮大な自然で合宿を行うのか、その理由について感じたことを述べたいと思う。2016 年の感想文と同じテーマであり、その続きと思って頂きたい。
私は自然が自然なのだと感じた。戸隠の宿舎では電波は通じないためスマホは使えない。部屋にはエアコンがないため過ごしづらく、シャワーのお湯も満足に出ない。これらの環境は文化的、あるいは文明の生活とは対称的なものである。しかしこの環境こそが人本来の自然な環境ではないだろうか。つまり自然豊かな環境こそが人の自然な環境なのだ。
自然な環境は人の本質を露わにすると感じた。困難な状況であればこそ、その

人の人間性が見てとれるのではないだろうか。例えば、炎天下の登山では不平を言うものもいれば、お互い声を掛け合い、励ましあうものもいる。突然の天候不良も同じである。いくら高級ブランドに身を包み、最新の携帯端末を持とうとも、自然の前には何の役にも立たない。自然は着飾った文明人をリセットし人の本質を表すものだ。
人は本音でぶつかり合ってこそ本物の友情、信頼関係が築けると考える。本音のぶつかり合いとは歯に衣着せぬ、文字通り着飾ることのない、会話である。合宿ではディスカッションという話し合いの時間が設けられている。しかもこれは屋外の木の下で、蟻や蚊といった虫が多い自然の中で行われる。私のディスカッション班では全員がお互いの連絡先を交換し、後日班で集まる約束をしている。この結果はお互いを信頼しているからこそできることではないだろうか。
合宿が不自由な大自然で行われる理由は強靭な人間関係を築くことにあると考える。その効果的な方法として戸隠が用いられているのではないであろうか。だとすれば、もはや不満や不平など言ってはいられない。この環境、合宿関係者に感謝の意を表し、私の感想文を終える。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　飯田凌
今年は梅澤人間力アカデミーに入り、初めての合宿でした。行く前は初めて話す人や、上級生の方々と同じ部屋やバスで移動することがとても不安でした。
しかし、夏合宿に行ってみて、多くの大東文化大学の一年生やいままで話したことのなかった日大生と話をしたり、先輩の方々とディスカッションをしたりするうちに名前を覚えていただいたりするうちに、この夏合宿に来て本当に良かったなと感じることができました。今では、夏合宿で仲良くなった先輩や同期と食事に行く機会が夏合宿に行く前より増えました。
これからの活動では夏合宿での先輩方の活動を模範にし、今度は自分達がこれから入ってくる下級生達にかっこいい先輩だと思われるように精進して参りたいと思います。

日本大学　経済学部　産業経営学科　１年　塩原成海
初めての夏合宿を通して学べたことは、人との繋がりの大切さと自然の素晴らしさの２つです。繋がりの大切さについては、合宿に参加する前、知らない人に話しかけたり打ち解けたりする自信がなく不安ばかりでした。ですが、移動のバスでのレクや様々なイベント、積極的に関わってくれた仲間のおかげでたくさ

んの同期・先輩方と交流を深められました。合宿が終わる頃には友人が増え、プライベートでも大東に遊びに誘ってもらったり、ディスカッション班で集まったりしてとても有意義な夏休みを過ごすことができました。その一方で、恥ずかしがってあまり自分から行動に移せないことが多かったのが反省点であると実感しました。この経験を今後に生かしていきたいと思います。また、自然の素晴らしさは、主に山登りから学べました。普段都会に住んでいたら決して味わうことのできない生命の神秘を感じました。緑に囲まれ自然を肌で感じた四日間は私にとってこの夏の最高の思い出になりました。来年は、役職をいただいて先輩方のように夏合宿を盛り上げていきたいです。このような貴重で素晴らしい機会を設けてくださった事に感謝します。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　紀拓海
私は夏合宿に参加してよかったと思いました。理由は、夏合宿に参加させていただいたことで、日本大学の先輩だけでなく、大東文化大学の方々ともつながりを作ることができたからです。また、初対面の人とディスカッションをするという貴重な経験をさせていただけたからです。そして、これからはアカデミーの中でもっとつながりを広げていきたいと思いました。

日本大学　経済学部　経済学科　１年　皆川航輝
私は合宿前に初めて会う人と宿泊して楽しめるのかという不安を感じていました。しかし、今では合宿に参加してよかったと思っています。自分の部屋は 3 人部屋で他の 2 人は大東生でしたが、中々喋り掛けられない自分に話を振ってくれました。また、他の部屋の同期や先輩ともトランプをして親交を深めることができて嬉しかったです。私が一番印象に残っていることは山登りです。登る前はそんなに大変そうに思えませんでしたがいざ登ってみるとかなりハードで驚きました。そんな中でも WS 班の仲間と励まし合うことで気持ちが楽になり、自然の雄大さを楽しむことさえできました。仲間というのは本当にかけがえのないものだと感じられました。
合宿を通して私は人と関わることの楽しさ、大切さを学びました。来年では次年度の 1 年生が同じことを感じられるように頑張りたいです。ありがとうございました。

日本大学　経済学部　産業経営学科　１年　横元義樹

私が夏合宿を通して得た学びや大切だと思ったことが二つあります。
一つ目は、自然の中で生活することでビルに囲まれた環境では学ぶことの出来ない事を学ぶことが出来た点です。二日目の登山では、急な斜面や不安定な足場、そして多くの緑などを肌身で感じることが出来ました。全体を通してみても、部屋の外から見える景色は緑一色、急な大雨など東京では経験できないような出来事や光景ばかりでした。特に、自然には勝つことが出来ず、予定が変更になった場面が多く感じられました。しかし、莫大な情報と向き合わなければならず疲れてしまう東京と比べたら、自然に囲まれている時の方が疲れることがなかったように感じられました。疲れてしまい、自分を見つめ直したくなったときは、自然の力を借りるのもいいのではないかと考えています。
二つ目は、様々な人との交流の大切さです。以前の私のアカデミー内での交流は、同じワークショップ班の班員しか無く、自分の意見や考えも偏りがちでした。しかし、初対面の人がほとんどである夏合宿のディスカッション班の班員との交流を通して、自分の考えが狭かった点や人脈の狭さに気づきました。私は様々な人との交流によって自分にはない意見や考えを吸収して、さらに柔軟な思考が可能になるという学びを得ることが出来ました。
今回、得た学びや大切だと思った二つのことは今後のアカデミー活動や就職して社会人になったあとも必ず活きてくると確信しています。まずは、これらの経験を活かして社会で活躍する先輩方に少しでも近づきたいと考えています。